

日本キリスト改革派教会 大会教育委員会

教会学校 教案誌



church school curriculum



神は、その独り子をお与えになったほどに、
世を愛された。

ヨハネによる福音書3章16節

vol. **80**

2021年1~3月

「救済史」
に基づく二年サイクル 第1年

障がいある子どもたちに注がれる主の愛…………… 小澤路華
【教育の現場から】「公教育の中で信仰者として生きること」… 徳丸明子
【教会学校紹介】「多治見教会の日曜学校の取り組み」…………… 松田基教
【特集】「コロナ時代における教会活動」…………… 吉田隆・大西良嗣・小宮山裕一

2021年1～3月カリキュラム（第80号）

—『子どもと親のカテキズム』に基づく2年サイクル 第1年—

月 日 教会暦・行事		子どもと親のカテキズム	参照教理問答
	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
1月3日 新年	教会と共に歩む一年	(問42)	
		詩編90:1-17	詩編90:12
新しい年も神からの恵みを数えつつ歩もう			
10日	イエス・キリストとは	問29	ウ小23、ウ大41、42、ハイデル29、31
		ルカ3:21-22	マタイ1:21
イエス・キリストの名前の意味とお働きを知ろう			
17日	キリストの高い状態と 低い状態	問30	ウ小23-28、ウ大43-56
		フィリピ2:6-11	フィリピ2:11
イエス・キリストは謙卑・高挙の状態で預言者・祭司・王の務めをはたされる			
24日	預言者なるキリスト	問31	ウ小24、ウ大43
		ルカ24:13-35	ヨハネ5:39
イエス・キリストはみ言葉と聖霊によって神の御心を教えてくださる			
31日	祭司なるキリスト	問32	ウ小25、ウ大44
		ヨハネ14:1-14	ヨハネ14:14
イエス・キリストは私たちの罪のため命を十字架で献げ、今も私たちの祈りを執り成してくださる			
2月7日	王なるキリスト	問33	ウ小26、ウ大45
		マタイ21:1-11	ヨハネ16:33
イエス・キリストはみ言葉と聖霊で私たちを治め、悪の力から守ってくださる			
14日	聖霊なる神・ ただ恵みによって	問34	ウ小29、ウ大58、60
		マルコ10:17-31	マルコ10:27
自力では望みのない私たちに神は聖霊によって救いを与えてくださる			
21日	聖霊なる神・ キリストとの交わり	問35	ウ小30、31、ウ大59、66-67、76
		1コリント1:26-31	1コリント1:30
聖霊は私たちに罪を認めさせ、悔い改めを与え、信仰を与え、キリストと結び合わせてくださる			
28日	救いとは何か	問36	ウ小33-34、ウ大70-74
		ヨハネ3:1-21	ヨハネ3:16
神は私たちのすべての罪を赦し、永遠の命を与え、神の子としてくださる			
3月7日	聖化の歩み	問37	ウ小35、ウ大75、78
		詩編51:1-21	詩編51:12
神は神の子の私たちをイエス様に似るように聖くしてくださる			
14日	救いの確かさ	問38	ウ小36、ウ大78-81
		ルカ22:31-34	ルカ22:32
私たちは弱くても神が最後まで信仰を守り支えてくださる			
21日	再臨・天国を目指す歩み	問39	ウ告白33章
		マタイ25:1-13	フィリピ3:14
私たちは天国の前味を頂いているのでキリストの再臨を信じて希望をもって生きられる			
28日 受難週	十字架のキリスト	(問32)	
		マタイ27:32-56	イザヤ53:4
神が十字架の業を通して語る言葉に生きよう			

も く じ

2021年1・2・3月カリキュラム

まえがき「イエスさまと『鬼滅の刃』」	橋谷 英典……………	4
巻頭説教「賜物の善い管理者」	久保 浩文……………	5
教会学校教師のための説教準備ガイドIV	牧野 信成……………	8
長老の持つべき資質・モラル&常識（2）	豊川 修司……………	11
障がいある子どもたちに注がれる主の愛（1）	小澤 路華……………	15
教育の現場から		
「公教育の中で信仰者として生きること」	徳丸 明子……………	18
教会学校紹介		
「多治見教会の日曜学校の取り組み」	松田 基教……………	21
特集「コロナ時代における教会活動について」		
いつの時代も変わりなく	吉田 隆……………	24
半強制的にデジタル時代へ	大西 良嗣……………	27
コロナ禍を体験して	小宮山裕一……………	31

聖書黙想・説教展開例・分級展開例……………35

1月3日……………	36
1月10日……………	45
1月17日……………	51
1月24日……………	58
1月31日……………	67
2月7日……………	76
2月14日……………	85
2月21日……………	94
2月28日……………	103
3月7日……………	111
3月14日……………	118
3月21日……………	125
3月28日……………	131

聖句カード……………	138
次号カリキュラム（2021年4・5・6月）……………	140
教案誌自由募金案内……………	141
大会教育委員会出版物案内……………	142
執筆者よりひとこと・あとがき……………	143

まえがき

イエスさまと「鬼滅の刃」

橋谷英徳

今年のはじめ、熱を出し、しばらくの間、寝込んでしまった。何もできない中で、夢中になって観たのが「鬼滅の刃」というアニメのビデオだった。我が家の子どもたちが観ていたのは知っていた。観はじめると止まらなくなった。少し恥ずかしいが、正直心を打たれもした。三人の少年たちと一人の少女が、鬼になった人間たちの中で苦闘するドラマである。ストーリーや人間描写やせりふもよく練られており、「なんだ漫画か」と馬鹿にすることなど到底できない。今月には映画の劇場版が封切られ、コロナ禍にもかかわらず記録的なヒットとなっているそうである（まだ観にいけない！）。

子どもたちだけではなく、大人にも人気のようだが、色んなことを考えさせられたりもする。私が特に心惹かれるのは、主人公の炭治郎の優しさである。彼は、残忍な鬼と化してしまった人間にも優しい。その優しさは底なしで、周りの人間をつまづかせるほどである。どうしてこんなに優しいの？ というほどである。そして、この炭治郎のやさしさと接したとき、鬼になった人間も、最期には自分を取り戻すようになる。人間性を回復するのである。

先日、教会の青年の求道者の方と『鬼滅の刃』が話題になった。ふとその青年は、「炭治郎はイエスみたい！」と。ああ、なるほど、そうだなあとしみじみ思いました。かつて寅さんとキリストが似ているとよく言われたが……。だとすると、今の子ども

ち（大人も）が鬼滅の刃を好きになるのもどこかでキリストを求めているからかもしれないと思えてくる。

あるプロのカウンセラーの方が、相談者との話題にでてきた本は必ず読み、映画も必ず観ると言われていた。私たち子どもたちが関心を示しているもの（YouTubeなどにも）に関心をもって触れてみることも大切なかもしれない。日曜学校の教師会で映画を観に行つて、感想を語り合うなどというのも良いかもしれない（お叱りを受けるかもしれないが）。

わたしは、メッセージなどで引用する必要はないし安易にそんなことはしない方が良いと思っている。ただ子どもたちが何を求めているのか、彼らが生きている世界を理解することが必要なのではないかと思う。鬼滅の刃の世界は、とても厳しく、殺伐としており、終末的なのである。それが子どもたちの心の琴線に触れるとするなら、子どもたちは私の想像以上に厳しい状況のなかに生きているのかもしれないなどと思ひめぐらしている。

コロナ禍のなかで、その厳しさは倍加している。教会にやってきた子どもたち（大人たちも）を、キリストの優しさをもって迎えたい。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」

（マタイ11章28節）

（関キリスト教会牧師）

巻頭説教

賜物の善い管理者

ペトロの手紙— 4章7～11節

久保浩文

エルサレム教会の中心的役割を担ったペトロは、かつてはガリラヤ湖の漁師でした。選ばれてイエス・キリストの弟子とされましたが、様々な弱さや失敗を経験しました。彼は、自らの力ではなく、主により頼む力、信仰によって強められることを徹底して教えられ、真の教会の指導者、ケファ（岩）となりました。そして今、ペトロは、激しい迫害にさらされている教会に、慰めと励ましを書き送っています。

I 万物の終わり

「万物の終わりが迫っています。」(7節) 「万物の終わり」とは、いわゆる地球の破壊とか人類の滅亡のことではありません。約束の主イエス・キリストが再び来られる終わりの日が近づいているということです。イエスが再び来られる時、今の天と地が過ぎ去って、新しい天と新しい地が実現し、万物が更新されます。イエスは、「然り、わたしはすぐに来る」(黙22:20)と約束されています。イエスが昇天されてから、地上にある教会は主イエスの再臨の約束を待ち望んできました。ペトロがこの手紙を書いて以来、約二千年たっても、まだ終末は訪れていません。しかし、「主のもとでは、一日は千年のようで、千年は一日のようです」(ペトロ二3:8)とあるように、神の時間の観念と私たち人間の時間の観念は異なるのです。

今、私たちは、ペトロの時代よりもさらに世の終わりを実感しているかもしれませ

ん。環境破壊、地球温暖化、最近の新型コロナウイルスの世界的な感染拡大等などによって、私たちの日常生活はおろか教会生活にも大きな影響と不安がもたらされています。「世の終わり」が現実味を帯びてきています。

「世の終わり」は単なる終わりではなく「決勝点(ゴール)」であり、神の救いのご計画が完成する時です。キリストを信じている私たちにとって、世の終わりは、罪と苦難から解放され、栄光ある者に造り変えられ、先に召された兄弟姉妹と共に、いつまでも主と共にある永遠の祝福、安息を意味するのです。

II 備えについて

その日がいつなのかは、父なる神の定めでおられることですが、確かにその日は近づいています。主イエス・キリストの再臨、終末についての期待と緊張感を失ってはいけません。「主の日は既に来てしまったかのように言う者がいても、すぐに動揺して分別を無くしたり、慌てふためいたりしないでほしい。だれがどのような手段を用いても、だまされてはいけません」(テサロニケ二2:2～3)。

では、「万物の終わり」にいかにして備えるのでしょうか。ペトロは、「思慮深く、身を慎んで、よく祈りなさい。何よりもまず、心を込めて愛し合いなさい」と勧めます。まず、①「よく祈りなさい」そのために、「思慮深く、身を慎んで」いなさいと言

ます。「思慮深く」とは、「酒に酔っていない、正気の状態であれ」という意味です。「身を慎んで」は、「自己制御している、正しい感覚を保っている」という意味で、祈りのために神の前に心を整えなさい、と勧めています。世の終わりに向けていたずらに感情に走らず、健全な心をもって、神から命じられ委ねられている日常の働きに忠実であり、そのために神との交わりを大切に生きていくことを勧めているのです。かつてマルティン・ルターはこう言いました。「たとえ明日、世界が滅亡しようとも、私はリンゴの木を植える」。与えられた一日一日を主に在って精一杯生きようということです。「わたしたちが命じておいたように、落ち着いた生活をし、自分の仕事に励み、自分の手で働くように努めなさい」（テサロニケー4：11）

②「何よりもまず、心を込めて愛し合いなさい。愛は多くの罪を覆うからです。」（8節）最優先課題は、「心を込めて愛し合う」ことです。「心を込める」とは「引っ張る、一生懸命」で、馬が背筋を「びんと張って」全速力で走る姿を表しています。そして愛は多くの人に広がるもの、永続的な一貫したものです。このような愛こそ「多くの罪を覆う」のです。「憎しみはいさかいを引き起こす。愛はすべての罪を覆う」（箴言10：12）この場合の「罪」とは、自分の罪ではなく、他人の罪です。自分がどれほど神に愛されているのかを覚え、イエス・キリストが私たちに示して下さった愛をもって他の人を赦し愛するならば、たとえ他者に非があったとしても他者の罪、過ちを包み込んでしまうことができるのです。「悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい」（ローマ12：21）

さらに「不平を言わずにもてなし合いなさい」。つまり愛によって仕え合う、愛し合う、もてなし合うことです。この当時、

ローマ帝国内には、迫害のために各地に散らされた多くのキリスト者の旅人や巡回伝道者がいました。しかも安全な宿屋も十分でない時代です。そのような状況下では「もてなし」は大切な愛の奉仕でした。これは単に宿を提供するというよりも、困難な中にある兄弟姉妹に対する霊的、物質的な両面での支えです。それを「祈り」と「兄弟愛」をもって行うのです。このためには多くの時間と労力という犠牲を払わなければいけません。最初は喜んでしていたことでも、いつの間にか負担になり、「不平をいう（惜しむ）」ようになります。ですから私たちは、心を込めて祈り、相手を心から愛し、受け入れて、主から知恵と力をいただいてもてなす、仕えることが求められるのです。

ドイツのメルケル首相は、父親がドイツ民主共和国（東ドイツ）福音主義教会（ルター派）の牧師でした。メルケル首相自身が牧師になるに十分な水準の神学的知識と強い信仰の持ち主であると言われていました。彼女は著書の中でこう言っています。「一番難しいもの、それと同時に一番重要なもの、だからこそ難しいものでもあるのが、愛なのでしょう。……ヨハネによる福音書を読めば、どんな種類の愛が語られているか明らかです。その愛は感情豊かな言葉からなるものではなく、冷静な行いの中に現れます。愛は条件をつけず、恐れを知らず、相手に奉仕します。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という掟は、わたしたち人間にとって重要な指針です。……しかし、ときには隣人を愛せないこともわかっています。」（アンゲラ・メルケル「わたしの信仰」新教出版）

③賜物を生かして互いに仕える

「あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互

いに仕えなさい」(10節)

賜物 (gift, カリスマ) は、神の御心に従って恵み (grace, カリス) によって与えられたものです。それがいかなるものであっても神が私たちに管理を委ねているものです。管理を委ねて下さった神の御心に適うように「その賜物を生かして互いに仕えなさい」と言われています。「神を畏れる人は神の意志を聖書の中に熱心に探り求める。」(アウグスティヌス「キリストの教え」) 与えられた才能、賜物、人生という時間をどう生きるか、どう活用するかを御言葉から示されましょう。「善い (beautiful) 管理者 (stewards)」は 忠実かつ信頼できる主の僕です。「タラントンのたとえ」では、1 タラントンを預かった者が、それを活用せず、地に隠しておいたために、主人に厳しくとがめられています。(マタイ25:24~30)

ペトロは、ここで賜物の活用として二つ挙げています。「語る者は、神の言葉を語るにふさわしく語りなさい。奉仕をする人は、神がお与えになった力に応じて奉仕しなさい」(11節) この賜物は、教会全体の成長のためのものです。「語る者」は御言葉を語る奉仕です。群れに神の御心を示し「御言葉の糧」を与え養う務めです。自らの思いではなく、聖霊に導かれて、語る恐れと喜びをもって語るのです。「奉仕をする人は、神がお与えになった力に応じて奉仕しなさい。」これは、愛の働き、執事的な働きです。個々の病める者、悩める者への配慮だけでなく、群れ全体に気を配り、群れ全体がキリストを土台として、一つの霊に結ばれて「頭であるキリストに向かって成長していく」(エフェソ4:11~16参照) ための奉仕です。神が「お与えになった」(備

える) 力に応じてとは、神がすべての奉仕の業の指揮者である、ということです。すべてのことを、神の指示の下に行うときに、調和のとれた奉仕、働きができるのです。そのために必要な知恵と力と物質的なものは必ず備えて下さるといふ信仰と確信の下に行うのです。

III 神が栄光を受けるために

「すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して、神が栄光をお受けになるためです。栄光と力が、世々限りなく神にありますように、アーメン」(11節)

全てのことにおいて、私の栄光ではなくて、神の栄光が表されるようになるように。それが私たちの奉仕の目的、人生の目的です。万物の終わりが近づいています。信仰の目を覚まして、今、神から与えられている賜物を用いて、神から託されている働きに忠実でなければいけません。「天上の主キリストは、わたしたちを六日間の働きへと派遣し、神の国の希望と栄光の先触れとし、御国の進展のために、わたしたちの奉仕を用いられます。神の国の完成は、神の主権的な恵みの御業としてもたらされますが、わたしたちのどのような奉仕の業も無駄にはならず、栄光の御国において永遠の意味を持ちます。」(日本キリスト改革派教会創立六十周年記念宣言「終末の希望についての信仰の宣言」)

「わたしの愛する兄弟たち、こういうわけですから、動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです。」(コリント一15:58)

(松山教会牧師)

連載

教会学校教師のための説教準備ガイドⅣ

牧野 信成

前回まで説教のための聖書研究について述べて来ましたので、今回は最終段階として実際に説教原稿を書き始めたいと思います。

前回のステップ5で梗概を作りましたので、まずそれを手掛かりにして書き始めましょう。テキストは第78号に掲載された7月12日分（テモテ二3：10～17・袴田清子姉執筆）です。

説教の語りかけの初め（序）は、「どうして世界には悪いことが多いの？」としました。「道の光としての聖書」を説くために、現代の私たちが置かれた状況を確認しようと思います。その御言葉が、現在の私たちの一体どこに語りかけてくるのかを考えます。

パウロは教会が置かれた現在を世の終わりの「悪い時代」と捉えています（3章1～5節）。それは、福音宣教の使命を与えられた教会が常に直面する世界の状況です。神を知らず、恐れず、利己的にだけ生きる人間の世界には救いの光が届いていません。それを子どもたちの目線でどう描いてみる事ができるでしょうか。これが説教の最初の段落です。ここから梗概を念頭に置きながら文章を書き下ろしてみましよう。

*

序. どうして世界には悪いことが多いの？

私たちが暮らしている世界にはいいことばかりではなくて悪いことがたくさんありますね。神さまがおつくりになった世界がそんなであるのは悲しいことです。でも、それは神さまが悪いのではなくて、人間が悪いのです。罪を犯して、

神さまのことを大切にしなかったので、世界が悪くなってしまいました。パウロはこう書いています。3章2節からです。

人々は自分自身を愛し、金銭を愛し、ほらを吹き、高慢になり、神をあざけり、両親に従わず、恩を知らず、神を畏れなくなり、また、情けを知らず、和解せず、中傷し、節度がなく、残忍になり、善を好まず、人を裏切り、軽率になり、思い上がり、神よりも快樂を愛し、信心を装いながら、その実、信心の力を否定するようになります。（2～5節）

みんな自分のことばかり考えていて、お金のことばかり気にして、平気で嘘をつく。両親を大切にしないばかりか、神さまのことも大切にしない。これが、罪ある人間の世界です。

そういう世界がもう一度神さまのことを知って、お互いが愛し合って助け合って生きることができるよう、神さまはイエスさまを送って、世界を救って下さいました。それが神さまの御心であって、そのことが聖書に書いてあります。だから聖書は私たちの「道の光」、つまり、私たちが暗い夜道を歩くときにライトを照らして進むように、聖書が私たちの一步一步を正しく導いてくれます。

*

もっと具体性があったらよいかもしれませんが、そこは皆さんの黙想で補ってください。さて、続いて御言葉そのものの説き明かしに進みます。

*

1. パウロとテモテ

パウロはイエスさまに出会って新しい人生を始めた人でした。それまでは罪の苦しみの中において、イエスさまに反対する人でしたが、イエスさまに救われて聖書の言葉を本当に信じる人になりました。そうして、幾つもの教会を建てあげました。教会を建てる作業はとても大変です。周りの人々から反対されたり、逮捕されて牢獄に入れられたりして、死ぬほどの危険も味わいました。それでも福音を伝える働きをやめなかったのは、自分がイエスさまに選ばれた僕であることを心から信じていたからです。

そんな中で、パウロはテモテと出会いました。テモテは教会の子どもでした。お母さんがクリスチャンで、小さいころから聖書を学んで神さまのことをよく知っていて、大きくなってパウロと一緒に教会で働く人になりました。そこでパウロは先生として、生徒であるテモテに手紙を書きました。

テモテ、神さまの言葉を人に伝えることは難しいことですが、信じない人たちに負けないで私（パウロ）から学んだことを大事にして、イエスさまのために働いてください。聖書はイエスさまの救いを確かにし、イエスさまが今も生きて働くために神さまが私たちにくださった素晴らしい恵みです。主イエスの教会に仕える私とあなたの働きは、偉大な神さまの御計画の中にあります。

*

原稿にした段階で、漢字が多い時には注意しましょう。漢字は目で見て分かり易いかもしれませんが、耳で聞くとすぐには頭に入らない場合があります。文章が漢字で埋め尽くされて黒くなっている場合は、言葉の調子を変えてみましょう。釈義の時点でも書きましたが、解説が多くなると情報

の伝達が説教の主となります。それならば、学校の教室のように聖書の授業を行ったらよいでしょう。礼拝で行う説教ですから、神からの語りかけを素直に聞き取れるような文章にまとめたいところです。事前に原稿を記すのも目当てのないおしゃべりに流れないようにするためです。それでは続きに進みます。

*

2. 教会で生まれたテモテの信仰

テモテはイエスさまを信じる家族の中で育った教会の子でした。小さいころから聖書のお話を聞いていたのに違いありません。ところが、大人になると、神さまの言葉である聖書を信じない人が大勢いるのに気が付きました。皆さんも学校で教わったことと教会で教わる聖書の話が違うので迷うことがあるかもしれませんね。けれども、イエスさまの救いについて知るためには聖書から学ぶ他はありません。パウロ先生はこう言います。「この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通り救いに導く知恵をあなたに与えることができます。聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です」（16節）。これはイエスさまに救われるすべての人が確かに信じていることです。テモテもわかっていたに違いありません。けれども、大切なことから、パウロ先生はテモテにこのことを忘れないよう伝えます。聖書は「神の霊の導きの下に書かれた」書物ですから、人間の思い付きで書いた本と違います。それは、神さまを信じる昔の人が書いたのには違いありませんが、それが正しく神さまの御旨を伝えるように、特別な配慮のもとで僕（しもべ）に書かせたものです。ですから、聖書を書いたのは神さまご自身だと言っても間違いありません。聖書は

神の言葉です。この聖書に教えられて、私たちは神さまの御心を知り、何が神さまを喜ばせることか、何が悲しませることかを見分けることができるようになります。聖書が私たちを神の子に相応しく歩むことができるように、訓練してくれるのです。テモテはそのような訓練を受けて育った教会の子でした。ですから、パウロ先生と一緒に苦労しながら、イエスさまの救いを宣べ伝える働きをすることができました。

*

さて、最後のまとめの段落です。

*

3. 聖書を道の光として歩む

私たちはこうして教会学校を通して、聖書の御言葉を学んでいます。私たちもテモテと同じようにイエスさまに救われて神さまに仕えることができるようにされています。パウロ先生はこう言っています。「こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように十分に整えられるのです」(17節)。確かに、パウロ先生もテモテも、神さまに選ばれた特別な人だったかもしれませんが、しかし、教会に私たちを生まれさせ、集めてくださったのは神さまです。私たちがずっと聖書から学び続けるのは、私たちが神さまに仕える人になって、神さまの救いの御計画が進んでいくためです。私たちには「どのような善い業をも行うことができます」。「善い業」とはイエスさまのお働きのことです。私たちは聖書を学ぶことによって、神さまに仕える人になり、神さまを喜ばせるためには何でもできる人になります。この聖書から離れてしまうと、神さまを悲しませるばかりの世界に負けてしまいます。皆さんの中から、テモテと同じように、イエスさまの福音を伝える人が出てくるかも

知れませんね。それも、聖書の言葉がそうしてくれるのです。私たちが聖書を学び続けるのは、自分の幸せのためばかりではありません。神さまの救いの御計画が進んで、この世界が神さまに喜ばれる素晴らしい姿を取り戻すために、イエスさまと一緒に働くためです。

*

原稿は自分の言葉を整えるために書くこととお勧めしますが、話すときは子どもたちの目を見て話すことができるように準備しましょう。説教の心得としては、情報を盛り込みすぎますと子どもたち持ち帰ることができなくなりますから、1つの要点を持ち帰ってもらおうつもりでまとめるとよいでしょう。長くて10分ほどの分量で十分だと思います。教案誌の「説教展開例」が難しいと感じる時は、自分の言葉に書き直してみるとよいでしょう。それだけでもよい訓練になるはずです。

先のステップで書き忘れましたが、「子どもと親のカテキズム」の解説本がこの度出版されました。教理の説教をするには今後欠かせない手引きとなるはずです。聖書に学びながら解説の手引きも参照して、子どもたちに適切な指導ができることを願っています。

自分のことを振り返ると、子どもの頃に教会学校で聞いたはずの先生方の教えはほとんど覚えていません。けれども、そこで学んだはずの教理は自然に身に付いたように思います。その積み重ねがあつてこそ、子どもたちは成長に従って次のステップへ進み、カルヴァンの書物や他の信仰の教導書を読むことができるようになります。神に仕える人となれるように、子どもたちの教会学校ばかりではなくて、成人のための聖書教室も続けて行いたいものです。

(長野佐久伝道所 宣教教師)

連載

長老の持つべき資質・モラル&常識 (2)

——長老26年・牧師20年の経験から、愛のある長老へ——

豊川修司

序論 本論の目的

序論

長老の働きは、重い反面やりがいのある光栄ある職務です。実際、長老の働きをするには、仕事の世界と同様に、理論通りにはいきません。そこには政治規準上でない応用問題が待ち受けています。現実遭遇する諸問題の解決には、人を知ること、コミュニケーションができること、経験を積むことが大切です。

長老26年間、牧師20年間の経験から、長老の誓約事項で心掛けてきたことを述べたいと思います。

1. 政治規準付則「十 治会長老・執事の任職と就職の誓約及び宣言」

- ① あなたは、旧・新約聖書が神の言葉であり、信仰と生活の唯一の誤りなき規準であると信じますか。
- ② あなたは、私たちの教会の信仰規準を、聖書の真理を体系的に示すものとして誠実に受け入れますか。
- ③ あなたは、私たちの教会の教会規程に従うことを誓約しますか。
- ④ あなたは、神の恵みによってこの職務に召されたことを確信し、神とキリストの教会への愛によって、この職務を遂行することを誓約しますか。
- ⑤ あなたは、いかなる場合にも、教会の純潔と一致と平和のために努力すること

を誓約しますか。

- ⑥ あなたは、今、この教会の治会長老（執事）の職務に就こうとしています。あなたは、その任務を忠実に果たし、生活において福音の告白を飾り、託された人々の前に、敬虔の模範となるように努力することを誓約しますか。

（治会長老にたいして）

- ⑦ あなたは、牧師及び先任の治会長老と共に、小会議員として忠実に教会を治め、群れを見守り、与えられた権能を正しく行使することを誓約しますか。

2. 職務の原点

(1)政治規準第53条（治会長老）

- 一 治会長老は、教会員を代表するために教会員の中から選ばれ、教師と共に各個教会の政治と訓練を行い、靈的状态を見守る。
- 二 治会長老は、小会で選ばれた場合、中会議員あるいは大会議員として議会権能を行使する。
- 三 治会長老は、教会の会議において、教師と同等の権能を有する。

(2)牧師とよく話し合う

とりわけ、教会の重要な案件で、長老と牧師がよく話し合いをしたことを記憶しています。今も、このスタンスは同じです。

【事例1】長老（筆者）から牧師へ提言したケース

「せんげん台伝道所を上福岡第三次開拓伝道とすることを決める前段の話」

中会で武里伝道所（現在のせんげん台教会）の再建が必要になった頃、牧師は、夕礼拝の後「武里伝道所を助きたい。自分が行かなければ」という悲壮な叫びにも似た心の想いを語りました。私は間髪入れず「先生、小会で話し合う前にご自身で決めないでください。みんなでよく話し合いますよ」ということを述べました。結果的に話し合いが進み、上福岡教会は中会伝道委員会の「再建要請」を受け入れ、上福岡教会第三次開拓伝道「せんげん台伝道所」の道が開かれました。

【事例2】牧師（筆者）が長老から提言されたケース

「当時、私は高島平キリスト教会牧師で、新所沢伝道所の代理牧師を延長するか否かの話」

2011年、新所沢教会は教会運営で困難な状況に陥り、私は代理牧師に招聘されました。代理二年目が近づいた時「代理牧師はもう一年必要だ」と内心思っていました。

ところが教会の一人の長老の判断は「もう一年延長するなら、しかるべき方から説明をいただきたい。先生の引退が近いのにわたしたちはどうなるのか」という意見と、他の長老は「高島平はかつて坂戸教会に助けて頂いた。新所沢の困難な状況を想像すると延長を認めてもよいと思う」という意見がありました。

一方、新所沢伝道所の群れは、「ここで先生が代理を辞めたら振り出しに戻ってしまう。何としてでも、もう一年代理をして欲しい。血判をしてでも、いや、署名をし

てでも！」と、涙ながら訴えました。双方の意見は、キリストの教会を愛するゆえの発言だったのです。その後約二ヶ月間、高島平役員会の話合いの結果、新所沢に行く牧師の回数を減らすことで解決しました。

ここで大切なことは、長老は決して牧師のイエス・マンにならず、小会議員としての意見や考え方をきっちり述べることです。これが小会を健全に保つコツです。

(3)教会トラブルを起こさない、謙遜の一語に尽きる

長老は牧師と会議の機会が多く、時には議論の衝突があります。傲慢になったり、意見を無理やり押し付けたりしてトラブルになることがあります。どの様な状況になっても、怒ったり、激情して大切な霊的案を破壊しないように注意が必要です。長老の最も大事な資質は傲慢にならず謙遜です。（ペテロー 5：5）（「牧会事例研究報告」1988年 東部中会連合長老会編参照）

3. 会議の牧師・長老の平等性

（箴言15：22）

(1)牧師と距離を置く（再掲）

牧師に協力するとかしないという事ではなく、日頃から牧師にべったりしないことです。これが強いと、いろいろなことを頼まれたり、長老（役員）を越えて個人的な関係になり、公的な意見が言えない状況になってしまいます。私は牧師と長老の心の距離は「接せず、離れずの等距離外交」というスタンスでした、小会で問題が発生したとき、きちんと立場を表明できるからです。長老は群れの代表ですから常に立ち位置を心得ましょう。

(2)情報の共有の一例

小会でよく牧師に反発したことがありま

した。それは牧師が小会で「これは秘密です。これ以上は言えません」という報告でした。断片的な情報ならその報告は無い方がよいと思いました。知り得た秘密は小会メンバー、役員にだけは伝えて「これは本人への配慮のため秘密にしてください」ということならよく分かります。

お互い信頼しあって情報を共有し、牧会的配慮が必要な秘密に関しては徹底して守る長老を願っています。

4. 群れの靈的状态を見守る

(マタイ9：35、36)

(1)群れを見守る役目

サタン(教会の群れを破壊する者)が教会を訪れる時がありました。その者は当初柔らかな応対をしていましたが、ある日突然豹変して、教会や牧師を徹底的に批判し始めました。

サタンは、長いメールで批判してくるのが特徴です。その時、その者にメールで返答しないこと、もし云いたい事があれば「面と向かって言いなさい」と反撃しました。その結果、相手はメールを止めました。

(2)声かけは靈的状态把握に最適

長老は特定の人との会話ではなく、礼拝に見えた群れに声をかけ、率先して挨拶をしましょう。手短な一言でよいのです。誰とも挨拶せず礼拝を終える、自らの職務を反省してみましょう。

声かけは群れの靈的状态の把握と牧会的配慮に最適です。医者が聴診器で音心を開くように、長老は会員の血色・声の反応で靈的状态が分かります。特に声かけは、求道者を洗礼に導く第一歩です。長老時代、牧師時代を含めて、洗礼に導かれた多くの会員達は、礼拝後の声かけが救いのきっか

けでした。今も同じです。

それほど声かけは、求道者の発見、会員の靈的状态把握に重要です。主イエスは会話をして、救いに導いています。(ヨハネ4章サマリアの女の物語)

(3)会員間のトラブル調整役

牧師の言い分と会員の云い分に食い違いがあり、会員が礼拝に来なくなったことがありました。このような時に、小会は小生に「会員の声を聞いてきてください」と頼み、会員と話し、内容を小会に報告して小会の判断材料にしたことがありました。長老はこのような時こそ、時間と労力を惜しまず、群れの平和のために奔走することが大切です。

5. 群れの模範・率先垂範

(使徒言行録20～32)

(1)集会・伝道の率先垂範

首都圏の諸集会・修養会などの集会には、教会員を誘って、率先して参加する行動力が必要です。会員は長老の指導性を見ており、参加した会員は集会参加の益を得ます。長老の集会参加がおっくうになると、それが習慣化してしまいます。特に、伝道の率先垂範、開拓伝道や困難な教会に対し、「受けるよりは与える方が幸いである」(使徒20：35)との御言葉を実践する長老を期待しています。

(2)祈祷会には率先して出席

東京教会の長老たちの祈祷会出席を思い出します。実に模範的でした。今の時代、仕事のために毎回出席できなくても、月に一度でも仕事を調整して出席するよう心掛けたいものです。私も企業時代は帰りが遅く、祈祷会が終わる頃、そーっと部屋に入り、牧師から「最後、豊川長老です」と何

度も言われました。それでも、会員と共に課題を祈り合う時、教会は生きてると実感します。

6. 中・大会、連合会で視野を拡大

(テモテニ4:5)

(1)集会に出席する努力

仕事が多忙だったせい、休暇を取得するのは教会の用事(中・大会)だけでした。家族旅行は本当に少なかったように思います。それでも、中・大会や連合長老会に出席して、多くの長老や教師たちを知り、それが長老会独自の牧会事例研究や東部中会四五周年記念宇都宮開拓伝道募金一千万円募金を集める力になりました。

長老たちがお互い知り合って教会のために結束することは、改革派教会進展の鍵です。

(2)中・大会の委員で視野の拡大

勿論、長老全員が中・大会の委員会活動に参加するわけではありませんが、各個教会に善き賜物を持つ長老がいれば、中・大会の諸委員選考委員会に推薦し、大会的・中会的働きに参加して視野の拡大を図って欲しいと願っています。長老は自らの教会だけの長老ではなく、中・大会の長老でもあります。元労厚省事務次官村木厚子氏は自らの著書で「階段を一段上がると、見える景色が変わる」と書いています。このスタンスが新鮮です。

7. 長老に期待すること(テモテニ4:2)

(1)み言葉を語る長老にチャレンジを

今、無牧の教会が増加し、長老が奨励す

る機会が増えています。多忙な仕事の合間をぬって奨励を準備するのは並大抵ではありません。そこで、長老に任職された段階から聖書、信条、長老政治、説教について牧師の手ほどきを頂くことを願っています。更に挑戦したい方は信徒説教者の道も開かれることでしょう。

(2)青年から長老・執事の登用を

教会役員(長老・執事、伝道所委員も含める)は、若い年代層から登用して欲しいと思います。上福岡教会はかつて長老を大方26歳で登用していました。そうすれば、長老・執事の道から教師の道へと献身を考える信徒が生まれてくると思います。実際、現在の神戸神学校の神学生で執事経験者がいます。

8. 結論

長老は、教会で問題を引き起こす長老ではなく、神と人から愛される長老、牧師と共にキリストの教会を背負う長老に育って欲しいと願っています。欲を言えば、人の痛みが分かる心の温かい長老、人間性のある長老がいいな。これこそ愛のある長老です。このことは牧師も同じことであり、自分自身に常々の反省していることです。

最後に、箴言15章13節を贈ります。

「心に喜びを抱けば顔は明るくなり、心に痛みがあれば霊は沈みこむ。」

長老各位には、「会員・求道者の心を敏感に読み取るセンス」を備えてくだされば幸いです。

(東部中会引退教師 宇都教会代理牧師)

連載

障がいある子どもたちに注がれる主の愛 (1)

小澤路華

『はつきり言うておく。心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。自分を低くして、この子供のようになる人が、天の国で一番偉いのだ。わたしの名のためにこのような一人の子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。』

(マタイによる福音書18章3～5節)

1. はじめに

今回「障がいある子どもたちと共に」というテーマで執筆のご依頼をいただきました。決して簡単なテーマではなく、また『障がい』といっても非常に様々なケースがありますので、一つのケースをとって同じような対応ができるものではありません。また、障がいについての考え方も、人によって様々な違いもあると思います。けれども私たちの娘を含め、他の多くの子とは違う特性を持った子どもたちが高知教会の教会学校の営みの中に置かれている、という経験を通して、主から与えられた恵みの経験は確かにあります。そのことをお証することで、少しでも何かのヒントになれば、また少しでも障がいを持つ子が教会学校に来た時の助けになればと思います、主の恵みをお分かちしていきたく願っています。一つの教会のケースとしてお読みいただけたらと思います。

2. 「障がい者」について

教会学校についてのテーマに入る前に、

少しだけ障がい者について触れておきたいと思います。今回『障がい』という文字表現をしていますが、『障害』、または『障碍』という書き方が望ましい、或いはそのような区別すら適切ではない、など様々な議論があります。けれども、この連載についてはその議論は中心的な事ではありませんので、読む方が分かりやすいように『障がい』という文字表現を使わせていただきます。近年では、『障がい者』についての理解や議論が進み、ひと昔前よりも身近なテーマになってきているように思います。また『発達障害』という言葉も生まれ、テレビや書籍などを通して簡単に触れることのできる分野となりました。

けれども、実際の社会ではまだまだ理解は進んでいない、あるいは無知によつての差別なども存在している事は事実です。小中学校現場においては、1クラスに2名以上の割合で障がい児が存在すると言われていきますから、私たちそれぞれの教会学校の中にも、そのような子どもが置かれる可能性は低くはないと考えられます。そういう意味で、教会も無知、無関心ではいけない大切なテーマです。

それ以外にも、身体障害、精神障害等、様々な障がいが存在しています。少しでも知識を増やしていくことは有益であると思います。簡単に読める本も多数出版されていますから、積極的に知識を持つことに取り組んでいくことをお勧めいたします。

3. 高知教会の教会学校の状況

高知教会の教会学校が再開したのは、2015年4月です。その頃娘は中学1年生、息子は小学3年生でした。その後、娘の友人、息子の友人が教会学校へ集うようになりました。時々契約の子が来てくれることもあります。そのような形で教会学校の歩みが始まって6年目となりますが、子どもたちは成長し、学業や部活動で忙しくなると、やはり教会学校に繋がりを続ける子どもは減って来ているという現状があります。

今まである程度の頻度で教会学校に集まって来た子どもたちの面々を見てみると、定型児（障がいのないとされている児童）が多数ではありましたが、いろんな特性を持った障がい児、あるいは何かしらの生きにくさを抱えた子どもたちも決して少なくはありませんでした。数年が経ち、教会学校に繋がりを続けている子ども、信仰をもつようになった子ども、洗礼を受けた子どもたちの殆どが、『障がい児』や『生きにくさを抱えた子』です。この現実を目にする時、私たちは決して偶然ではない神様のご計画について何か悟らされる思いがしています。

4. 実際の試み

高知教会の教会学校が始まってから、障がい児が娘以外にも毎週集うようになり、小学生と一緒に中学生の障がい児も共に礼拝、分級をすることとなりました。年齢は小学生と中学生でしたが、知的には小学生の方が上、という状況です。何か大きな取り組みをした事はありませんが、一つのヒントになった配慮の方法があります。娘が通っていた小学校で出会った、ある先生の取り組みの方法です。教室に障がい児がいる時、全体の動きをその子を中心として

進めていく、という方法です。それはその障がい児の子に対する配慮という意味での動きですが、それにみんなを巻き込んでいくことで、その子への配慮だという事は本人も誰も気が付かずに、みんなが一緒に同じ配慮に包まれて進んでいきます。

その先生の取り組みによって、障がい児である娘だけが恩恵を受けたのではありません。クラスの子みんなが、丁寧に、細やかに配慮を受けたことで、クラスの子みんなが満足し、互いに対しても同じように丁寧に接することができるクラスになりました。私たちが、どこかみんなと違う子に対して注目し、丁寧に接することを心掛ける時、実は、それはすべての人が欲している優しく、手厚い、心のこもった心遣いへと変化していきます。そのような心遣いは、みんなに対して分け隔てなく注がれたイエス様の愛の方法であるかもしれません。

教会学校では、どのように取り組むことができるでしょう。高知教会の場合、例えば、教会学校のお話の要点を毎回一つだけにしぼります。多くのことを難しく語ることにはしません。「神様はみんなのことをとても愛しています」というテーマであれば、その日はその事だけを心に持って帰ることが出来れば十分です。分級ではお話の内容に即したクイズを解いていく事で、内容を子どもの言葉で反芻するという時間を持っていますが、簡単な漢字にも必ずふりがなを付けます。そして、1～2問は誰でも答えられるような易しい問を入れておきます。これは、その（当時）中学生であった二人への配慮ですが、みんなが同じ配慮の中で進んでいくことで、漢字が苦手な子の助けになるし、内容が十分に理解できなかった子でも、簡単な問に答えられたことで理解が深まり、自信を持つことができます。

また、年間を通して毎週の礼拝、特別な行事での礼拝、さまざまな機会に同じテーマについて何度でも話して伝えます。そうすることで、その子たちの心にしっかりとインプットされていきます。やがてその子たちは「ああ、この話か」と思って安心して内容を確認できるだけでなく、心で確信を持って聞くことができるようになります（障がいのある子は、新しいことに取り組むことが苦手な子が多いですから、同じことを繰り返すことで、安心感を持ってもらうことはとても大切な配慮です）。そして、それがやがてその事実を「信じる」という素晴らしい変化を遂げていきました。そしてクリスチャン家庭でない家から来ている子どもたちも、何度も同じ話を聴く（聴かされる）ことで、福音について、聖書の神について、自分の言葉で表現できるようになっていきました。本当に素晴らしい姿に、心震わされる瞬間です。

障がいのある子たちがみんなの中で特別扱いされること、或いは軽んじられることで、自尊心が傷つくこともあります。人として、みんなと同じように扱われることを求めています。そしてその事にとても敏感です。分け隔てなく接する事で、「自分も大切に扱われている。ちゃんと受け入れられている」というプライドを持つことが出来ます。私たちが、自分の方法、自分たちがやりやすい方法、自分が理解できる方法ではなくて、小さき者へ心を注ぐことによって、改めて（あるいは新しく）気が付かされることは、本当に多いのです。

5. 出来ることを考えてみる

もし今、障がいをもつ子が教会学校にいらなくても、教会学校にいる子どもたち（場合によっては奉仕者）一人ひとりのことを

もう一度考えてみることから始めるのは、変化の始まりの一步だと思えます。

いろんなところに、その子、その人を知るヒントが隠されています。まず、相手を知ることには、

- ・契約の子なのか一般家庭の子なのか、
- ・兄弟関係、年齢、家庭環境、障がいの有無、生まれながらの特性について、
- ・聖書にどのくらい接したことがあるか、日頃の礼拝態度、
- ・言葉の発し方、服装、興味、等。

次に、教会学校で、そこに集まる子どもたちに何を伝えたいのか、何を受け取って欲しいのか、毎回の準備の時に熱心に祈り求めつつ、具体的な試みで出来ることがあるかもしれません。例えば、

- ・その事を届けるためにどんな配慮が出来るか、どうしたらみんなが理解できるか、
- ・どんな形がふさわしいのか、今の形が一番良いのか、他にも方法はないか、
- ・礼拝の中身やお話の仕方、賛美の選び方や礼拝場所の形、
- ・子どもの迎え方や送り方、連絡の仕方、礼拝以外での交わりの中での関わり方。

小さな心がけで、子どもたちとの関係は変わっていきます。そして私たちもきつと変わっていきます。私たちは、急に愛情深い人になることはできませんし、努力して優しい人になることも簡単ではありません。また、突然よき理解者になることは難しいです。子どもの魂は、自分の隣人になろうとしている人のことには敏感です。特に障がいを持つ子どもたちの感性は、すばらしく純粹です。子どもの小さな隣人になることで、新しい関係の入り口、御言葉を伝える糸口が見えてくるかも知れません。

（高知教会・教会学校教師／牧師夫人）

教育の現場から

公教育の中で信仰者として生きること

徳丸明子

1. はじめに

最初に、私が教会に導かれた経緯を簡単に書きたいと思います。ノンクリスチャンの家庭に生まれ、正月に神社へ家族そろって初詣に行き、母に言われて毎朝仏壇に手を合わせる毎日でした。大学時代にキリスト教異端の教団に入った私を、神様は金沢伝道所の漆崎英之先生を通して救出してくださり、さらに両親と祖母も信仰へと導いてくださいました。27歳で受洗し、早いもので23年が経ちます。

大学卒業後、外国語（免許は英語と朝鮮語）の高校教員として熊本県に採用され、現在6校目の学校に勤めています。

2. 礼拝を守ること

教員になった当時はまだ救出される前で本当の神様を知らない頃でしたが、はっきりした信仰を持つこと自体が珍しい日本社会の中で、日曜日を礼拝のために空けるのはなかなか難しいことでした。大学在学中に、ミッションスクールなら日曜日が空けられるだろうと思えば求人票を見たこともありましたが、当時は教団の活動が忙しく、卒業後は熊本に戻ることを決めていたので、流されるままに熊本県の教員採用試験を受けました。今思えば、神様が大阪に留まる道を塞いでくださったのでしょうか。

赴任直後、部活動顧問の希望調査があった時に考えたのは、体育系の部活動顧問になればいい日曜日でも部活動があるので、それを避けたいということでした。そ

こで、高校時代に一度だけ仮部員として百人一首の県大会に出たことをアピールして、百人一首部の顧問になりました。もっともそれがきっかけで、数年後に高校文化連盟百人一首部門の役員として日曜日の試合や講習会に出なければならなくなるのですが。教職2年目から心身の不調があったためか、毎日曜日に活動をする部活動を担当することはなく、改革派の教会に通い始めてからも日曜日の礼拝を守っていました。

次にぶつかった試練は、転勤でした。2校目の学校は教会まで車で1時間という、通えないわけではない距離でしたが、運転の途中で眠くなって教会にたどり着いた時には礼拝が終わっていたことが何度もありました。

学校行事が入ることもあります。例えば、熊本県の公立高校の卒業式は何曜日であっても3月1日と決まっています。また、最近では体育祭を土曜日に行う学校が増えてきたものの、地域の小中学校の行事との兼ね合いで日曜日になることもあります。長いこと疑問を持たずに仕事をしていたのですが、礼拝に出席できなかつた週は、平日に仕事が休みであっても、息継ぎをせずに泳いでいるような感覚を覚えるようになりました。ここ2年間、人権教育主任を務めていた間は、人権について学び考える貴重な時間を得られた反面、人権や差別について学習している高校生たちの集会の引率などがあり、高校生のために活動したい自分と

安息日に礼拝に行って休みたい自分との間でしばしば葛藤がありました。

どの職業であっても現代の日本で礼拝を欠かさず守ることは難しいことだと思います。また、教員は一般的に「生徒のため」と思うとそのことを優先しがちです。ただし、このことを生徒の側から見ると、キリスト者やクリスチャンホームの子どもも礼拝に行くことができず、同じ思いをしているということになります。

話が少し反れますが、今年度から高校の進学用調査書（受験する学校へ提出する、成績や出席、高校時の活動等を記録した書類）の形式が変更され、各学年の活動の記録の欄が大きくなりました。また、児童生徒自身が活動を記録し、中高へと引き継いでいくポートフォリオも始まっています。部活動や校内外の活動がより重視されるようになる傾向にあります。子どもたちから信仰が奪われないよう、祈っていく必要があります。

3. 公立学校の中の宗教的行為

教員として採用されたのは1993年でした。今では当たり前になりましたが、体育祭等の行事の際に宗教上の理由で日の丸の掲揚や君が代斉唱に加わらない生徒への配慮をすることに驚いたことを覚えています。自分の高校時代は信仰について考えたことのない大多数の側にいたために見えていなかったのかもしれませんが、友人にキリスト者がいましたが、日曜日の模擬試験や学校行事のことをどう思っているかなど、聞いたこともありませんでした。

教職年数を重ねるうちに、公立高校の教員として、またキリスト者としてどのように行動していけばよいのかを考えるようになりました。その一つとして、憲法第二十

条の信教の自由を保障することを自分の中の基準にしています。

第二十条 信教の自由は、何人に対してもこれを保障する。いかなる宗教団体も、国から特権を受け、又は政治上の権力を行使してはならない。

2 何人も、宗教上の行為、祝典、儀式又は行事に参加することを強制されない。

3 国及びその機関は、宗教教育その他いかなる宗教的活動もしてはならない。

個人的には、公立学校の教員として特定の宗教を押し付けることがないようにすることと、信仰を持つことの意味を理解する者として生徒の信教の自由を学校としての可能な範囲で守ることであると考えています（制度上、全日制高校ではできないこともあります）。生徒の中にはキリスト者もいれば神社の宮司の子ども、仏教の寺の子ども、その他の宗教を信仰している子どももいます。また、信仰を持つ職員もいます。しかし大多数の生徒や職員は、自分が行っている行為が宗教的意味を含むかどうかについて考えることはあまりありません。悪気無く、あるいは生徒のため、子どものため、という理由で無意識に宗教的な行為が入ってくることがあります。進学・就職の試験を目前にしている3年生の教室や職員室、進路指導室などに神社で購入した合格祈願の札がかかっているのを見かけます。やんわりと指摘しても、理解する職員は残念ながらあまりいません。

3学年の担任をしていた時、保護者会から子どもたちへ激励の言葉と文具品等を贈る行事がありました。クラス役員さんたちが学校に来られた時、私のクラスの役員さんから、付箋を付けた分は自分の子どもに

渡るようにしてほしいと頼まれました。「特別にメッセージでも書かれたのかな」と思いその通りにしましたが、後で聞いたところ、神社で子どもたちに配る品物のお祓いをしてもらったが、1人分不足していたので、他の子たちにお祓いをしてもらった品物をあげられるよう、後で追加したお祓いをしていない物が自分の子どもの分に渡るようにしたのだということだったのです。

やはり3学年の担任をした時に、子どもたちの激励のために有名な天満宮のお祓いを受けた品物を配りたいという提案がありました。学年の職員会議でこの提案が出た際に、公教育なのだから宗教的なことを持ち込むのは良くないのではないかという意見が私を含め何名かの職員から出て、学年主任が保護者会に説明をして受け入れていただきました。

これらのことは、日本社会の中ではむしろ親心の現れであり、良いことだと受け止められるでしょう。信仰を持っている生徒がいることを知っている人が少なく、その生徒たちがどのように感じるのかということには考えが及んでいないために起こったのだと思います。神道や仏教を宗教と考えず生活習慣だと捉える社会の無意識の押し付けを感じた出来事でした。同時に、気づいて指摘し、話し合うことで理解が進むということでもあります。

また、ある教会のクリスマス集会のチラシがクラス掲示物の中に入っていたこともありましたが、どのような経緯でチラシが入っていたのかはわかりませんが、伝道集会を兼ねたクリスマスコンサートの案内でした。これを教室に貼って、教会に行く子がいたらいいだろうなと思いながらも、やむなく教頭に回収をお願いしました。

憲法に「国及びその機関は、宗教教育その他いかなる宗教的活動もしてはならない」とある以上、国に準ずる公立学校の教育の中では線引きをする役目があると考えています。

4. 自分を語ること

思わぬ時に信仰生活について話す機会が与えられることもあります。受洗した時の学校にはキリスト者がおられ、大変喜んでいただきました。また、校外行事のためバスで移動をしていた時、同乗した職員との雑談の中でキリスト教の教会に通っていることを話したのをきっかけに、毎週礼拝に行くことやプロテスタントとカトリックとの違いなどを聞かれるままに話しました。神様についての深い話まではできませんでしたが、毎週日曜日に教会に行く人が身近にいるのだということを知ってもらえたことは嬉しいことでした。20代、30代の頃は教会に通っていることを話すこと自体はばかられる気がしていましたが、自然に話すことができるように変えられてきたことを感じます。

5. おわりに

今年の4月に定時制高校に転勤しました。働く大人が通うイメージを持っていましたが、今ではほとんどが10代の生徒です。不登校の経験や様々な事情を持つ生徒が今までの経験校よりも割合が多く、祈りとケアを必要としています。今はまだ英語の授業をすることと表面的な雑談をするだけで精一杯、初めて体育系部活動の顧問にもなりました。これから様々な新しいことに出会うでしょうが、祈りつつ歩みたいと思います。(熊本伝道所)

教会学校訪問

多治見教会の日曜学校の取り組み

松田基教

私たちの多治見教会では、2019年4月から日曜学校の取り組みを大きく変更しました。それ以前の日曜学校では、毎週日曜午前9時30分より10時まで、まず礼拝堂で礼拝を行っていました。子どもさんびかを歌い、祈り、九つの幸い（マタイ5章3～12節）を唱え、聖書朗読とお話があり、献金があり、最後に主の祈りを一緒に祈ります。そして、10時から幼稚科や小学科に分かれて、別室で分級を行うという形でした。お話の担当は、牧師が月二回担当し、残りの主日は日曜学校教師と長老、執事が順番で担当していました。

日曜学校の取り組みをあらためて検討し変更した大きな理由は、何よりも生徒数の減少です。現在の牧師一家が来るまでは、子どもの出席者が一人ということも珍しくありませんでした。牧師家庭の子どもが出席するようになって子ども出席者は平均で四、五名でした。しかし、主の日の朝の礼拝が終わる時には子どもの出席者は多いときで十名前後になっているのです。日曜学校の時間に子ども連れて来るのは難しいけれど、朝の礼拝には何とか一緒に来ることができる。そういう親子が多治見教会には何組かいるということです。しかし、朝の礼拝から来る子どもたちには、その子どもたちに向けての聖書の御言葉を伝える機会がありませんでした。より多くの子どもたちに聖書の御言葉を、福音を届けるためにはどうすれば良いのか、その検討の結果が

新しい取り組みとなりました。

そこで、まず日曜学校の礼拝を主日の朝の礼拝に合流することにしました。聖餐式のある主日以外は、通常の説教に加えて、牧師が子ども説教を行うことにしました。子ども説教の聖書箇所は、礼拝説教の箇所とは別に『教会学校教案誌』のカリキュラムに沿ったものになっています。

礼拝全体の流れとしては、説教までは、これまでと同じ礼拝順序で行われます。そして、説教の後の賛美歌が終わると、子どもたちはそれぞれがいた席から礼拝堂前方の座席に移動します。そこで九つの幸い（マタイ5章3～12節）を一緒に唱え、聖書朗読と子ども説教をし、子どもさんびかを共に歌います。その後の献金では、子どもたちの中から一人献金奉仕をお願いすることになっています。そのようにして、礼拝の最後の祝福（祝祷）まで子どもたちは前方の座席に居続けることにしました。そうして、子どもたちも一緒に礼拝していることを子



子ども説教の様子

どもたち自身も、大人の会衆も、皆が意識することが、教会にとって大切なことだと考えています。

そして、朝の礼拝後に分級を行います。朝の礼拝で子ども説教の行われる日は、会堂2階にある小部屋で、幼稚科や小学科などに分かれて分級です。日曜学校教師たちがそれぞれ担当しています。特に小学科は、「子どもと親のカテキズム」を子どもたちと一緒に読み、その日の御言葉と子ども説教の分かち合いを中心にした分級を行っています。

聖餐式のある主日や牧師不在の主日は、子ども説教がありませんので、朝の礼拝後に合同分級として会堂1階にある集会室に子どもたち全員が集まって行います。合同分級では、日曜学校教師と長老が順番にお話を担当します。賛美歌を歌い、子どもと親のカテキズムを読み、聖書朗読とお話があり、主の祈りを祈って終わります。合同分級は出席者が子どもたちとその親、日曜学校教師くらいなので、お話の担当者も、大人をあまり意識せず、子どもたちに向かって集中して聖書のお話をする事が出来ていると思います。

新たな取り組みで気をつけていることは、子ども説教とそれに伴う礼拝順序が変わったことによって朝の礼拝の時間が長く



分級の様子

なってしまう中でも、礼拝全体の時間が1時間半を超えないようにすることです。多治見教会では、朝の礼拝は10時半から始まりますので、12時には礼拝が終わるようにと心がけています。また、子ども説教を担当する牧師としては、大人を意識しすぎないことを心がけています。50～60人の大人が礼拝を共にしている中で、少数の子どもに集中して話しかけることはなかなか難しいことでもありますが、何よりも子どもたちに御言葉を語り、福音を届けることに集中して子ども説教をしています。

そのような日曜学校の新たな取り組みと共に、教会の外の子どもたちへのアプローチも考えてきました。多治見教会では、そのために2カ月に1回程度のペースで、日曜日の午後2時～4時に『サンデーイベント』を行っています。集った子どもたちと一緒に礼拝堂で子どもさんびかを歌い、スクリーンを使って聖書絵本の読み聞かせなどをし、その後に「おたのしみ」として「クレープ」や「パフェ」「たこ焼き」、子どもクリスマスの時には「クリスマスケーキ」など、お菓子などの食べ物作りを中心に行っています。幸いなことに、毎回30人前後の子どもたちが参加してくれています。そのようなイベントを通して、教会というのは子どもも来てよい場所であることを子どもたちが知り、何よりも神様の恵みを知ることができるようにと祈り願って、毎回取り組んでいます。

ここまでがコロナ禍以前の日曜学校の取り組みです。コロナ禍の影響で、日曜学校もしばらくの間、お休みすることになりました。その間、子どもたちに対して、教会



サンデーイベント

として日曜学校として何ができるか、とても悩みました。日本聖書協会発刊の「みんなの聖書 マンガシリーズ」を各家庭に1セットずつ日曜学校の予算で購入してプレゼントしたり、Zoomでの日曜学校を試みてみたり、牧師が作成した子ども説教動画を用いたり、いくつかの取り組みもしてきました。幸いなことに、多治見教会では、6月から朝の礼拝後の合同分級の形で日曜学校を再開することができ、7月には子ど

も説教と礼拝後の分級も再開することができました。子どもたちも徐々に教会に集うようになりました。感謝です。

その一方で、サンデーイベントは3月以来中止の状態が続いています。そんな中で、教会の外の子どもたちも再び教会に来るようになってほしいと祈り願いながら、12月には子どもクリスマスを行う予定です。



合同分級の様子

皆様の教会と同じように多治見教会でも、一人でも多くの子どもたちに聖書の御言葉とキリストの福音を伝えること、そのことを心から願っています。そのために日曜学校としてどのような取り組みをするのがふさわしいのか、神様の導きに信頼しつつ、祈りつつ、日々柔軟に考えながら、これからも子どもたちのために取り組んでいきたいと願います。

特集「コロナ時代における教会活動について」

いつの時代も変わりなく

吉 田 隆

新型コロナウイルス感染拡大の危険性が、いよいよ日本でも声高に叫ばれ始めた3月初め、大会常任書記長の坂井孝宏先生から「この状況について神学的にどう受け止めればよいのか。何か書いてください」との依頼を受けました。

あまり乗り気ではありませんでしたが、3月に予定されていた仕事が次々と中止になって時間ができたこと、何より教派立の神学校の責任者として書く義務があるのだろうと受け止めて記したのが「ウイルス禍についての神学的考察」でした。

当初、これは純粋に日本キリスト改革派諸教会向けに書いたものでしたが、何人かの先生があちらこちらに紹介したことから拡散し、いろいろなキリスト教メディアに取り上げられることになりました。

以来、私自身はウイルスの専門家でも何でもないのに、これまたあちらこちらから（幸か不幸か）執筆や講演の依頼が舞い込んで、かえって忙しくなっていました。静かにしていたかったのに……。

この原稿も一度はお断りしたのですが、今度は「神学校の校長としてではなく、教会の現場で働く一牧師として、思っていることを自由に書いてください」とのご依頼でしたので、引き受けることにしました。

先に記しましたように、私は、この度のウイルス禍について、文章をしたためることはおろか、そもそも（教会が）大騒ぎすることに否定的でしたし、今もそうです。

それは決して、諸教会がこれまで細心の注意を払って懸命に対処してこられたことや、礼拝を始めとする諸集会の在り方への取り組みを否定するものではありません。後述しますように、新しい働きの可能性も広がってきているように思うからです。

それにもかかわらず、昨春から始まった一連の“騒動”に対して私は否定的ですし、時に憤りを感じるほどです。この点については、読者の多くの方とは少し違う感覚を持っているのかもしれませんが、それは、私自身が10年前に東日本大震災を経験した時の教訓に基づいているからです。

地震と津波と原発事故という三重の被災を経験したあの震災の中で、被災地に居た私たちに底知れぬ恐怖と不安をもたらしたのが、放射能汚染でした。メルトダウンによって、一瞬にして、フクシマは何十年も人が住めない土地になってしまいました。当時、首都圏を始め広範囲にわたる地域が放射性物質の拡散によって汚染されました。

ところが、政府もメディアも「パニックを起こしてはいけない」との理由で事実を矮小化し、前向きなニュースばかりを流し、健康被害状況や放射線値の情報もコントロールされて、メディアに露出する“専門家”の人々も「心配ない」を繰り返したのです。

私は福島伝道所の責任者でしたし、被災

支援活動の関係で何度となく放射能汚染地に足を運んでいました。詳述しませんが、被災地の現実とメディアでの報道のあまりの違いに愕然とさせられることがしばしばでした。

おそらくは自分も少なからず被爆しているだろうことを前提に、現地にいる人々は皆、働きを続けてきたのです。そもそも人は皆、やがては死ぬ身です。その“時”が突然訪れるかもしれない不安を抱えつつ、それにもかかわらず、生かされている以上、自分に与えられた場で、目前にいる人々と共に生き、与えられた務めに励み続ける。これが、私たちが放射能禍から学んだ教訓なのです。

そんな経験を持つ私にとって、「コロナ」について政府やメディアや“専門家”たちが言うことを、鵜呑みにすることはできませんでした（事実、人によって言うことがマチマチなのですから、なおさらです）。あれほど国民全体の命が危険にさらされた時には「パニックを起こしてはいけない」と情報をコントロールしたのに、今度は一斉に危機感や恐怖を煽る報道を野放しにして、オリンピック開催の可否を意識しながら、方針を次から次へとガラッと変える。そのような人々の言うことを、そのまま信じることなどできない。それが、私の正直な思いでした。

「コロナ」もウイルスであれば、感染し、場合によっては死に至る。それは事実です。ですから、注意するに越したことはありません。早期に注意を促し予防することは、大切なことでしょう。しかし、そのことと“恐怖心を煽る”ことは全く別問題です。

人の命は決して数字で計れませんが、単

純に数字の比較で言うなら、これまでインフルエンザの感染者・犠牲者数の方がはるかに多いのです。昨年（2018年）の猛暑の8月、東京で熱中症の犠牲になった方はコロナの犠牲者を大幅に上回りました。

にもかかわらず、なぜ今回のコロナには異常なほどに反応するのでしょうか。

一つには、単純に、マスコミ報道の影響による集団心理による所が大きいでしょう。しかも、私たち（とりわけ高齢者）の健康を脅かす危険性が高く、無症状のままでも他人にうつす可能性がある（インフルエンザも同じです）という恐怖心を繰り返し繰り返し煽った点が、多方面に甚大な影響を及ぼす結果になったのだと思います。

ウイルス感染は、基本的に人が密集し、人と物との移動が活発な都市部に多く発生すると言われます。これまで豊かで安全な生活を享受していた私たちが（他国の紛争や飢餓や貧困による犠牲者の数や悲惨な映像を見ても無感覚になっていたにもかかわらず）自分たちの生活が危機にさらされると感じた途端、たった一人の感染者が出ただけでニュースにして大騒ぎする。そこに人間の自己中心性が垣間見られると言っては、言いすぎでしょうか。

日本の場合、それに加えて、他国にはほとんど見られない“同調圧力”がいつそう不安に拍車をかけます。あくまでも“自粛”であるにもかかわらず皆と同じではないと言っては批判し、誰も感染する可能性があるにもかかわらず、感染者を非難し排除しようとする。恐ろしい社会です。

このような中で、主イエス・キリストの十字架を掲げる教会は、どのように歩めばよいのでしょうか。

コロナ禍のおかげで、様々な新しい視点と方策が開かれたことは感謝でした。インターネットという現代の技術を駆使しての可能性です。すでに多くの方が指摘してもらえるように、これまで集会に“来る”人を中心に考えてきた礼拝・伝道・牧会の見直しが迫られました。

特に、心身に不安を覚える方々、“社会的距離”（この言葉は間違っています！）に神経質になって孤独を感じている方々が、少しでも礼拝や教会の交わりを実感できるように、様々な工夫をすることが必要ですし、現に実践している教会も増えたのではないのでしょうか。

子どもたちもそうです。子どもたちは、子どもたちなりに、異常な大人社会の空気を敏感に感じ取って、ストレスを抱えています。教会が子どもたちにとって精神的に安心できる場所、楽しい場所であり続けるために、これまたオンラインでの日曜学校や夏期学校など、担当の方々が懸命に考えてくださいました。

また、多くの時間やお金を費やしてきた中会や大会の委員会活動や会議のあり方も再考したらよいでしょう。遠方（外国！）からのゲストを招いたオンライン集会や、神学校の遠隔授業など、教会活動についての新しい可能性も見えてきたようです。

けれども、最後に、それにもかかわらず、教会の営みは直接会うことにまざるものはないということ（当然のことですが）絶えず意識する必要があると思います。これを軽んじるなら、教会は早晚、存在意義を失うでしょう。

なぜか。教会は、神の愛を具現する場所

だからです。地を這うように生きる人間を救うために、なぜ神はわざわざ受肉して、この世に来られたのか。教会堂の上にそびえる十字架は、インターネット用のアンテナではありません。肉体を切り裂いて血を流すことまでして現わされた、神のリアルな愛のしるしです。

その神の愛を（肉体を伴った）リアルな説教、リアルな礼典、リアルな交わりを通して味わうのが、主日の礼拝です。その場に集えない方には（インターネットで済ませるのではなく）その家まで足を運んで、たとい玄関先であっても会って話すことが、牧会の基本です。

主の羊たちの世話は、決してオンラインで一括管理などできません。その一匹一匹に主の愛のぬくもりを届けることです。そうでなければ、主の羊たちはやがて弱って倒れてしまうでしょう。キリストの教会は、そうやって二千年間を歩んできたのです。

「コロナ時代」がいつまで続くのか、私にはわかりません。けれども、コロナを含む「ウイルスの時代」は、1万年も前から始まっています。そして、人類が続く限り続くことでしょう。ゼロ・リスク社会などありえません。

では、どうすればよいのでしょうか？ “いつの時代も変わりなく”。私がいえることは、それだけです。

放射能禍から学んだように、主によって生かされている限り、与えられた場所で、与えられた人々と共に、主の務めに励む。それ以上でも以下でもありません。

（甲子園伝道所宣教教師）

特集「コロナ時代における教会活動について」

半強制的にデジタル時代へ

大西良嗣

新型コロナウイルスの感染拡大が始まると、2020年3月に全国の学校が休校となりました。急に子どもたちが家にいることになったので、一緒に教会の庭に除草シートと人工芝を張りました。教会の庭がきれいになったので、ランチは庭にテーブルを出して食べるようになりました。主の憐れみでしょうか、今年は気候が良かったので、6月ごろまで庭でランチを楽しむことができました。南アフリカに滞在していた時には、家族一緒に庭でランチをすることがありましたが、その時のことを思い起こすような時間となりました。

主の日には、朝の礼拝後、その他の集会や委員会を午後に開くことができなくなり、教会の活動がずいぶん寂しくなっていました。その一方で、主の日の午後は牧師家庭もゆっくりリラックスして過ごすことができ、確かに「安息日」を過ごしていると感じました。これも、どこか南アフリカで過ごした主の日を思わせるものです。

コロナ禍は、私たちの日常生活や教会生活に大きな影響を与えました。悪い影響が目につきますが、良い影響も少なくないと思われます。ここでは、できるだけ良い影響に注目してみたいと思います。影響を受けた領域が非常に大きいので、「教会活動」に限った場合でも、それを体系的に述べることは容易ではありません。教案誌編集部から私に期待されているのは、オンラインの

取り組みについてであるようですので、その点に絞って書かせて頂きます。

【強制的にデジタル時代へ】

インターネットが普及し、だれでもSNS（FacebookやTwitterなどのソーシャル・ネットワーク・サービス）や動画配信サービス（YouTubeやTikTokなど）によって発信できる時代になりましたが、多くの教会はそれらをあまり積極的に活用してきませんでした。しかし、コロナ禍によって、教会に集まることができなくなり、どの教会も半強制的にデジタル化させられることになりました。宗教改革時代に印刷技術によって聖書が普及して教会のあり方に大きな変化を与えたように、コロナ禍によるデジタル化は教会のあり方に変化を与える可能性があります。半強制的にデジタル化させられたのは、躊躇する教会に対して「新しい道具を手取るように」と主が強く促されたのではないかと思えてなりません。

【礼拝のライブ配信】

私が牧会している宝塚教会では、4/12(日)からライブ配信を中心とした礼拝を開始しました。録画したものを配信する教会もあるようですが、離れたところにも一緒に礼拝していることを意識するためにYouTubeのライブ配信サービスを利用することにしました。Zoomなどのテレビ会議システムを使えば、双方向の通信ができま

すので、より一体感のある礼拝ができるかもしれませんが、新しい方でも見る事ができることと、ライブでの配信で礼拝できなかった人が後から見る事ができることを考えて、YouTubeのライブ配信を選びました。

実際に配信を始めてみると、予想していなかった恵みがありました。普段から礼拝に出席していた会員ばかりでなく、遠方へ引っ越してしまった会員や、アメリカや台湾からも視聴する方が出てきました。もちろん、ライブ配信による礼拝が、会堂に集まって共に礼拝することに置き換わることはできないと思われまます。しかし、近くに通うことのできる改革派教会や日本語で礼拝している教会がない方たちが、まったく礼拝に参加できなくなってしまうよりはライブ配信での礼拝ができた方がずっと良いのではないのでしょうか。現時点では実現できていませんが、施設や病院から外出できない高齢者や病の方がライブ配信での礼拝に参加できる可能性もあります。従来の方法だけではまったく礼拝に参加できなかった方たちが、二次的な形で参加できるように補う方法として定着する可能性があります。

【オンライン祈祷会】

会堂での祈祷会ができなくなったため、オンライン（Zoom）での祈祷会を開始しました。日曜日に教会に集まってゆっくり交わりの時間を持つこともできなくなったことを考慮して、これまで水曜午前だけだった祈祷会を午前と夕方の2回、同じ内容で開催することにしました。オンラインでは雑談が持ちにくいので、祈祷会のプログラムの中に近況を聞く時間を設けまし

た。

日曜日に会堂に集まることができなかった時期には、以前よりも多くの方が祈祷会に参加するようになりました。また、遠方であったり、小さなお子さんがいたりして、教会に集まる方法だけであれば参加できなかった人たちも、オンラインであるがゆえに参加することができるということが起こりました。そのため、会堂に集まることのできるようになって、オンラインでつなぐことは継続することになりそうです。

遠方からでも参加できることは、出席者が少なくなっている教会や無牧のために祈祷会を開けなくなっている教会と合同で祈祷会を開催できるという可能性もあります。ご高齢の方の中には、どんなふうにもオンラインでつないだら良いのか分からないとおっしゃる方もおられると思いますが、一度、訪問して、Zoomなどを設定し、使い方をお教えすればできる可能性があります。

【オンライン修養会】

私は大会学生青年委員会に携わっていますが、2020年は全国学生会修養会、全国青年リトリート、サマーデイズ（全国高校生夏のキャンプ）のすべてがオンラインで開催されました。また、8月に開催された中部中会学生会修養会ではオンラインで講師を務めました。西部中会の教育委員会としてかかわっている学生会では夏期修養会がオンラインで開催するという、これまでに考えたこともなかったやり方でしたが、若い教師たちが中心となって、企画を練り、技術面の課題にも対応して下さって、一つひとつの修養会が開催されていきました。

当初はオンラインに慣れない様子だった学生や青年たちも、しだいに適応するようになり、オンラインでの交わりのためのゲームを考えたり、話す人が話しやすいけれども邪魔にならない反応の仕方を習得したりするようになりました。若い人たちの適応能力というのは素晴らしいものです。また、オンラインの場合、仕事を休むことができないなどで部分参加を余儀なくされた人たちが、気軽に部分参加できるというメリットがありました。全国から集まる修養会では、参加を諦めざるを得ない人たちも、オンラインだったので参加できたという嬉しい声を聞くことができました。

その一方で、オンラインの修養会の難しさも感じるようになりました。当初は、中止となりそうだった修養会がオンラインでも開催できただけで嬉しかったのですが、やはり実際に集まった時のように交わりを深めることはできません。また、オンライン特有の疲労があります。修養会となりますと、2～3日続けてパソコンの前に座り続けることとなりますので、その後、数日間、疲れが残ることもありました。

今後もしばらくは修養会をオンラインで開催せざるを得ない状況が続くと思われませんが、集まることができるようになってからも、実際に集まった会場にオンラインで接続して、オンラインでも修養会に参加できるようにすることが求められるのではないのでしょうか。メリットとデメリットを考慮しながら上手にオンラインを用いていく必要があります。

【海外の教会との交わり】

2020年の夏に大会執事活動委員会では、南アフリカに訪問団を派遣する予定でし

た。私は委員ではありませんが、訪問団の一員として訪問する予定でした。しかし、コロナ禍のために派遣は中止となりました。本来ならば派遣されていた時期を迎えたとき、このまま何も行わないことはあまりにも寂しいと感じました。特に訪問のために応募してくれた学生たちには、いくらかでも南アフリカのことに触れてほしいと考えました。私は委員ではないので少し出しゃばったことでしたが、オンラインの祈禱会をすることを提案しました。

訪問団に参加予定だった委員と学生たちに加えて、南アフリカからも5～6名に参加してもらいました。南アからのゲストの中から3人の方に、感染者数が60万人を超えた南アの状況を聞いたり、教会のディアコニアの働きについて語っていただきました。全体で2時間程度（南アからのゲストに入っていたいたのはそのうち1時間程度）の短い時間でしたが、たいへん有意義な時間だったと思います。

また、西部中会の学生会夏期修養会では、ワシントン日本人教会の片岡継先生に講師をしていただきました。集まって行う修養会ではワシントンDCから講師をお招きすることは不可能ですが、オンラインだからこそ、ワシントンのご自宅から講演をしていただくことが可能となりました。

海外の教会との交わりのためには、時差を考慮する必要がありますが、オンラインを用いれば比較的容易に交わりの時を持つことができます。コロナ禍のために急速にオンラインが普及したからこそ実現できた恵みだと言えます。

【紙トラクトから動画トラクトへ】

コロナ禍のために、従来のように教会に

集まっていたく伝道はできなくなりました。多くの教会で、計画していた特別伝道集会を中止や延期にされたのではないかと思います。宝塚教会でも、6月に予定していた特別伝道礼拝は中止し、12月のクリスマスも例年のように行事を行うことができないだろうと予想しています（原稿執筆は9月末）。

しかし、伝道を完全にストップしてしまいたくはないと考えて、教会の伝道委員会で検討し、教会員による証の動画を作成することにしました。親しみやすいように、パペットが教会員にインタビューをする形式にしています。これは、動画を編集する賜物を持った教会員がいたので実現したことです。伝道の新しい可能性について考えさせられる機会となりました。

宝塚教会では、一昨年のクリスマスまで、チラシを駅前配布していました。しかし、特に若者は紙のチラシを受け取ってくれません。今はコロナ禍のために、紙のチラシは更に敬遠されることでしょう。動画であれば、YouTubeのリンクをLINEなどで簡単に知人に送ることができます。親しみや

すくて長すぎない動画だったら、気軽に送ることができますし、見てもらえる可能性も高いと思います。宝塚教会では、かつて『ぶどうの木』というタイトルで教会員の証を書いた手製のトラクトのようなものを周辺に配布していました。それと同じようなことが、今は動画でできるのだということに気づかされて、この動画を「ぶどうの木 Ver.2.0」シリーズとしました。よろしければ、宝塚教会のホームページやYouTubeのチャンネルからご覧ください。教会というところにはどんな人がいるのか、どんなことを考えているのかを知っていただくツールです。たとえ宝塚教会に足を運ばれることがなくても、お近くの教会に足を運ぶきっかけとして主が用いてくださることを願っています。

とりとめなく、コロナ禍とオンラインに関連して、考えていることを書き連ねました。それぞれの教会で模索しているものが、良き実りとなることを祈りつつ、期待しています。
(宝塚教会牧師)

特集「コロナ時代における教会活動について」

コロナ禍を体験して

小宮山裕一

今回のコロナ禍を経験して教会は様々な揺さぶりを体験しました。全てにおいて初めてのことです。戸惑いや憂い、不安がありました。そうした揺さぶりを体験する中で何を変えなくてはならないのか、何を变えてはいけないのかを各自が問われた日々だったのではないかと思います。今回は私が実際に体験したことを中心に分かち合いたく思います。

1 今までの振り返り

① 綱島教会

綱島教会は神奈川県横浜市にある教会です。東京都も近く、東京の感染状況は神奈川県と無関係ではありません。会員の多くが都内で働いています。2月、医療関係者を家族に持つ教会員が礼拝を欠席、その後少しずつ礼拝出席者が減少していきました。3月くらいから小会としても議論を開始。できる限り対策を行いつつ礼拝を継続しておりましたが、4月7日の非常事態宣言に伴い4月12日の礼拝より礼拝の出席者を奉仕者のみとして、Zoomによる配信を開始しました。礼拝は各家庭で守って頂き、家庭礼拝に配信を役立てていただくためです。4月5日の小会では礼拝をこれまで通りの礼拝を行うことを確認していましたが、非常事態宣言で一気に緊張感が高まりました。外出自粛宣言もインパクトが大きかったと思います。

礼拝配信を行う前に教会員には事情を説

明し、Zoomの操作なども伝えあらかじめリハーサルを行いました。当初、Zoomなどできないと言われていた80代の姉妹が操作を覚え、礼拝のみならず祈祷会にも参加している姿をみてとても励まされました。

礼拝も教会活動も縮小せざるを得ない状況で、まず取り組んだのはオンラインの活用です。小会や各委員会、祈祷会はオンラインによる開催に切り替えました。10月現在も祈祷会はオンラインで行っております。結果、祈祷会の出席者は以前よりも増えました。これはうれしい誤算だったと思います。

教会学校の礼拝も休会にせざるを得ない中で、朝拝の中で「こども説教」を開始しました。配信を利用する教会員の中にはこどものいる家庭も多く少しでも御言葉を触れる機会をと願ってのことです。現在は通常通りの礼拝をしておりますがこども説教は継続しています。このこども礼拝に関して言えば以前から行いたいとの思いと祈りがありました。なかなか始めるタイミングをつかめずにおりました。そうした中で不思議な形で祈りが聞かれたのかもしれない。

教会学校の礼拝は現在のところ分級をなしにして再開しておりますが、礼拝出席者はだいぶ少なくなりました。なぜならば横浜はミッションスクールが多く、教会学校の礼拝出席者の多くが近隣のミッションスクールの学生が占めていたからです。聞く

ところによりますと学校でも礼拝を配信しており、生徒は家から配信を見るように指導している学校もあるそうです。生徒達が教会に来るようになるかどうかは学校の判断によるところが大きく、しばらくは出席者が少ない状況が続きそうですが、いつ来ても良いように教会のドアは開いておくつもりです。

② 東部中会

東部中会の教育行事の多くもオンラインによるものになりました。毎月行われる学生会の集会、中高生向けキャンプなど。毎年行っている中会の信徒修養会など、中止せざるを得ない行事もありましたが、オンラインでの開催になれてきているように思います。特に、若い世代はオンラインになれているだけあって、上手く順応出来ているように思います。

③ 大会

大会でも多くの教育活動がオンラインで行われています。サマーデイズがオンラインで行われたほか、ゴールデンウィークに行われた全国青年会は初のオンライン開催による教育行事だったのではないかと思います。全国青年会修養会には私も参加しましたが、全国から兄弟姉妹が集まりともに神を礼拝することができて感謝でした。ちょうど、タイミング的にコロナによる疲れやイライラが出てきた時期だったと思います。讚美に長けている兄弟姉妹方の讚美を聞くこともでき、オンラインならではのプログラムも行われました。

④ そのほか

8月に学生伝道団体であるキリスト者学生会(KGK)の関東地区夏季学校に参加しました。これはKGK関東地区が主催する伝道のためのキャンプで、クリスチャン

向けのキャンプと比べて未信者が多いのが特徴です。例年ですと長野県にある松原湖バイブルキャンプにて行われるのですが今年はオンラインにての開催となりました。2泊3日で参加者は100名を超え想定よりも多くの参加者が与えられました。私は学生のグループに入り、一緒にゲームをし、メッセージの分かち合いに参加をしました。準備チームの工夫もありとても良い夏季学校でした。学生側からしても参加費が例年の10分の1程度ということもあり参加しやすかったようです。私は2年前にもこのキャンプで奉仕をしましたが、実際に一つのところに集まって行うのと比べて、「何気ない会話」がどうしてもできない点が気になりました。食事や入浴の時などを通してお互いのことを知り、分かち合うという経験はオンラインではできません。

そのほかにも同年代の献身者で持っている交わりに参加、研修所の講義も参加しています。全てオンラインです。こうして考えてみますと、多少の制約がある中でコロナ禍前とそれほど変わらない活動行われている、というのが実感です。

2 改めて考えたこと

上記のように様々な活動に参加する中で改めて感じたこと。それは「福音を伝えたい」「神の恵みを分かち合いたい」「御言葉に与りたい」という思いです。こうした思いはもちろんコロナ前から教会が有していたものでしょう。それは使徒の時代から古代教会を経て、中世の荒波を超えて宗教改革に置いて結実し、私達が受け継いでいる熱意です。今回のコロナ禍においてそうした熱意が顕在化したのではないかと感じています。コロナという状況の中で教会に集

う一人一人になんとかして福音を伝えたい。キリストを求めている若人に十字架と復活のキリストを届けたい。そうした思いを持つ多くの兄弟姉妹に触れる中で、私自身も改めて思うのです。なんとかしてキリストを伝えたい、と。

このような思いの一つのあらわれとして紹介したいのが改革派教会の牧師有志でおこなわれた教会学校のメッセージ配信ブログです。これは各自がYouTubeに教会学校のメッセージをアップロードして、ブログにて共有するというものです。長田詠喜先生（新所沢教会）、松田基教先生（多治見教会）そして私が発起人となり立ち上げました。教会学校の礼拝が休止に追い込まれる中でなんとかして聖書を伝えたいという思いからなされた試みです。もちろん、こうした試みに対して様々な意見があるでしょう。「会ったことのないこどもにメッセージをすることができるとか」という意見を耳にした時、確かにそうかもしれないと思ったのも確かです。しかし、こうした試みはあくまでも緊急時に行われたものです。恒常的になされるものではありません。コロナの影響は現在（2020年10月）にまで及んでおり、未だに収束が見えません。そのような中であってできることを積極的に

行っていく。こうした精神が大切ではないかと思います。

私達はベストを求めます。教会はもっとも尊い神の福音を委ねられています。そのような私達が大切な御言葉を少しでもより良い仕方で届けたいと願う。これは当然です。そうした思いを忘れてはいけません。しかし、今回のコロナで経験したことは完全さを求めるのではなく、できるところから行っていくという精神と行動力の大切さだったと思います。ベストではなくベターを積み重ねていくということです。実際に集まってできればそれに越したことがない。しかし、それができない。だから何もしないのか。それとも、できることをしていくのか。

また今回のコロナ禍で教会は否応なしに「変わること」を経験したと感じています。この変化は予測したものではなかったでしょうがそれぞれが置かれた場所やタイミングで変わらざるをえなかったのではないかと思います。その一方で「変わらないこと」や「変えてはいけないもの」を問われたはずですが。その答えはまだ完全には出ていないと思います。今なお悩みと困難の中にあります。そのような中で自答しつつ歩んで参りたいと思います。（綱島教会牧師）

聖書默想・説教展開例・分級展開例

1月3日 詩編90編1～12節

【解説と黙想】

神さまと共に歩む一年

はじめに

詩編90編の著者は、人生のはかなさを嘆きつつ、なお支えと祝福を求めて神に歌う。12節までの大雑把な内容は以下の通り。

1. 永遠の神とはかない人間（1～10節）

1節2節で、神の永遠性がたたえられる。人間は、究極の平安を創造主なる神の御手の内に与えられる。神は万物の源であり、「世々としえに」存在しておられる。

3節から10節は、永遠の創造主と対照される人間のはかなさの嘆きである。3節の「あなたは人を塵に返し」、「人の子よ、帰れ」という言葉は、ここでは滅ぶべき被造物としての人間の脆さを物語っている。

5節6節、人は神の前では「移ろう草」に過ぎない。「朝が来れば花を咲かせ、……夕べにはしおれ、枯れて行きます。」草の種が蒔かれ、生長し、花を咲かせ、しおれ、枯れていくように、人間の一生も、誕生から成長期、青年期、壮年期を経て、老年期を迎え、最後にはこの世を去る。

7節から9節に、人生の不安定な様が描かれる。人間の一生はただでさえ脆いののに、罪を犯して神の怒りを買ひ、ますます不安定である。人はいつから死ぬ者となったのか。「罪が支払う報酬は死です」（ローマ6:23）とある。神に対して罪を犯したアダムとエバが「お前は塵に返る」と神に宣告されて以来、人は死ぬ者となった（創世記3:19）。この罪の問題は、説教展開例では触れなかった。重要な問題ではあるが、なるべく小さなお友だちでもお話の内容を理解できるように、触れる項目を絞ったことによる。

10節の「七十年」「八十年」という数字は、今日の日本人の平均寿命と似ている。しかし、この箇所で取り上げられる中心テーマは、客観的な人間の寿命そのものではない。本当の問題は、生命の長さではなく、限りある自分の人生が創造主の前でどのような価値を持つのか、ということにある。

2. 神の顧みを求める祈り（11～12節）

そこで詩編90編の著者は、その価値を見出しつつ生きられるように、「生涯の日を正しく数えるように教えてください。知恵ある心を得ることが出来ますように」と神に嘆願する（12節）。今の自分が人生のどの段階にあろうとも、永世への備えがなされなければならない。そのために、人は、何をしなければならないか、何を優先させるべきか。二つのことを挙げる。

第一は、自分の一生涯が御手の中にあることを信じ、神にお従いすることである。自己中心に生きるのではなく、「主の御心であれば、生き永らえて、あのことやこのことをしよう」（ヤコブ4:15）と、神の御心を中心に考える生き方である。

第二は、今日も生かされていることを神に感謝し、今という時を大切に生きることである。「時をよく用いなさい」（エフェソ5:16）と心がける生き方である。

結論

このように「生涯の日を正しく数え」られるように「知恵ある心」を神に嘆願しつつ生きるとき、たとえ寿命が短かったとしても、それは神に喜ばれる幸福な人生になると信じる。（小澤寿輔）

《参照聖句》 詩編90編12節

1月3日 詩編90編1～12節

【説教展開例】

神さまと共に歩む一年

◇..... 単元のねらい◇

今週は、新年のお話しということで、とくにカテキズムの間が割り当てられていません。新しい年を迎えるにあたり、教会学校のお友だちが、今年も、神さまと共に、神さまを中心とし、神さまからの恵みを数えつつ、豊かな歩みをするを目標してくれることを主に期待して、お話ししましょう。

「神さまに向かう人生を歩もう」

新年あけましておめでとうございます。今年も皆さんと一緒に教会学校の礼拝ができることを、とても嬉しく思います。今年もどうぞ宜しくお願いします。

私たちは、これまで歩んできた2020年に別れを告げて、2021年を迎えました。新しい年を、皆さんはどのような気持ちで迎えたでしょうか。多くのお友だちが、心を新たにスタートしたと思います。中には、「今年こそは、これをやるぞ」と、何かを決心したお友だちがいるかもしれませんね。新しい目標を持つとか、新しいことに挑戦するとか、新年というのは、去年までの古い自分から新しい自分になるための一番良い時なのではないでしょうか。

今年、教会学校では、「私はどこへ向かって生きるのか」ということを心に覚えながら歩む一年となることを期待します。それは、どういうことなのでしょう。

これは本当にあったお話だそうです。

昔、ある学生に老人がたずねました。

老人：君はどんな人生を歩みたいのかね？

学生：まず法律大学を卒業します。

老人：すごいね。そしてその後は？

学生：弁護士になります。

老人：さすがだね。そしてその後は？

学生：お金をもうけます。

老人：うんうん。そしてその後は？

学生：家を建てます。

老人：そうだね。そしてその後は？

学生：車を買います。

老人：いいね。そしてその後は？

学生：きっと結婚をするでしょう。

老人：おーいいね。そしてその後は？

学生：子どもを産んで育てます。

老人：それもいいね。そしてその後は？

学生：ん〜、年をとるでしょう。

老人：私のようにね。そしてその後は？

学生：……（沈黙）……

若い学生は答えることができず、心の中で考えました。「いつか僕は息を引き取るだろう。そして、僕の葬式が行われ、僕のお墓が立つだろう。それからは……」

何も答えられないその学生に、老人は言いました。「その後は裁きです。その後は永遠です。イエス・キリストのうちには永遠の命があり、イエス・キリスト以外には永遠の滅びがあるのです！」

その声はとても優しくあったけれど、学生

は、心に刺し込むような老人の言葉を忘れることができませんでした。「その後は永遠です」という言葉によって、彼は苦しみました。そして、彼は、法律大学から別の大学に転校する決心をしました。そこで聖書の勉強をして、彼は素晴らしい牧師になったそうです。

この学生は、老人に会うまでは、生きる方向が間違っていました。イエスさまを知らず、自分のためだけに生きていたのです。その人生の行きつく先は、永遠の滅びだと老人は言いました。学生は、イエスさまと共に歩む決心をしました。そのとき、生きる方向が正されて、永遠の命に行きつく人生を歩むようになりました。

1. 大切なのは生きられる長さではなく、どこに向かって生きるか

今日読んだ詩編90編も、言葉は少し難しいけれども、老人と同じように、正しい方に向かって生きることを教えています。

1節と2節には、「主よ、あなたは代々にわたしたちの宿るところ。山々が生まれる前から 大地が、人の世が、生み出される前から 世々としえに、あなたは神」とあります。神さまはすべてのものが創られる前からいらした永遠なる方であると、この詩編を書いた人はほめたたえています。神さまとは、永遠なる方、すべてのものをお造りになった方、すべてのものの源となる方なのですね。

では、私たち人間はどうでしょう。人間は、永遠に生きることは……できませんね。草木は、種が蒔かれて芽を出すと生長し、きれいな花を咲かせるけれど、最後には枯れて土に戻ります。それと同じように、人間もオギャーと生まれると、だんだんと成

長して少年となり、もっと成長して青年となり、やがては、おじさん、おばさんになります。もっと年をとると、おじいさん、おばあさんになって、最後には、皆にさようならをします。このように、誰も死ぬことを避けることはできません。

誰でも死ぬことは怖いのです。そこで、人は、なるべく長く健康に生きられるようになりたいと願いました。そして、お医者さんが病気を治す技術を発展させたり、新しい薬を開発したりすることで、世界の平均寿命が長くなりました。それはとても感謝なことです。でも、今日の詩編の御言葉にも、「七十年」とか「八十年」と書いてあるけど、皆はただ長生きできればそれでいいと思うかな。本当に大切なのは、生きられる年数が長いことではなくて、限りある人生を「どこに向かって生きるか」、「どのように生きるか」ということではないでしょうか。それで、詩編90編を書いた人は、正しい方に向かって生きられるように、「生涯の日を正しく数えるように教えてください。知恵ある心を得ることが出来ますように」と神さまにお願いのお祈りをしています(12節)。

2. 生涯の日を正しく数えるということ

では、ぼくたち私たちは、どうすれば正しい方を向いて生きることができるのでしょうか。二つのことを覚えましょう。

一つは、自分の生まれたときから終わりまでの一生がすべて神さまの手の中にあることを信じ、神さまにお従いすることです。ぼくたち私たちの人生は、神さまのものなのです。「これをしたい」、「あれをしたい」と自分中心に考えるのではなくて、「もし神さまの御心であれば、生き永らえて、あ

のことやこのことをしよう」と考える生き方が大切です（ヤコブ4：15）。

もう一つは、今日も生かされていることを神さまに感謝して、今という時を大切に生きることです。「私を生かしてくださっているのは神さまなのだから、今日も神さまに喜ばれることをしよう」と考える生き方です。

このようにして神さまと共に、神さま中心に毎日を生きるとき、たとえ寿命が他の

人より短かったとしても、それは、神さまに喜ばれる幸福な人生になるのです。

人は皆、どこかへ向かって歩んでいます。そして、いつかはその終わりにたどりつきます。そのとき、神さまに「よくやったね」と言っていたら嬉しいですね。神さまに喜ばれる人生を、神さまから知恵をいただきながら歩んで行きましょう。

（小澤寿輔）

《今週の暗唱聖句》

生涯の日を正しく数えるように教えてください。知恵ある心を得ることができますように。（詩編90編12節）

1月3日 詩編90編1～17節

【分級展開例 A】

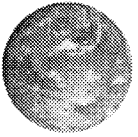







神さまと共に歩む一年

あけましておめでとうございます！ ことしもいちねんかん、イエスさまといっしょにすごすことができますようにお祈りします。さて、けさは、せいしょにかかっている神さまによる救いのお働きをすぐろくでたどってみましょう（救済史すぐろく）。

1. 天地創造
2. アダムとエバ
3. エデンの園を出る
4. カインとアベル
5. ノアの箱舟
6. バベルの塔
7. アブラハムの出発
8. ソドムとゴモラ
9. イサク奉獻
10. イサクとリベカ
11. ヤコブとエサウ
12. アラムでのヤコブ
13. ヤボクの渡し
14. 12人の子どもたち
15. ヨセフ、エジプトへ
16. モーセの召命
17. 出エジプト
18. シナイ山（十戒）
19. 荒れ野への出発
20. 幕屋の建設
21. カナン偵察
22. モーセの死（モアブ）

23. ヨルダン川を渡る（ヨシュア）
24. エリコ攻略
25. 土地の分配
26. カナンでの戦い（士師）
27. サウル王の登場
28. ダビデ王の登場
29. 都をエルサレムへ
30. ソロモン誕生（ダビデとバトシェバ）
31. 神殿建立（ソロモンの知恵）
32. イスラエル南北分裂
33. 北の預言者たち（エリヤとエリシャ）
34. 北イスラエルの滅亡（アッシリア捕囚）
35. 南の預言者たち（イザヤ）
36. 南ユダの滅亡（バビロン捕囚）
37. エゼキエル、ダニエル
38. 捕囚からの帰還
39. 神殿再建（エズラ、ネヘミヤ）
40. メシア待望
41. 中間時代（キリスト以前）
42. イエスの誕生
43. イエスの十字架と復活
44. 聖霊降臨
45. 使徒たち（パウロ）による宣教
46. ヨハネの見た幻
47. 最後の審判
48. イエスの再臨

※遊びやすいように拡大コピーして使ってください。

1 	2	3	4	5 ふりだしに もどる	6
12	11	10 	9 42へすすむ	8 1かいやすみ	7
13 みぎのひとに じゃんけんで かつまでとまる	14	15	16 サイコロを 2かいはふる	17 1かいでたら 38へすすむ	18 じゅっかいを となえる。
24	23 25へすすむ	22 1かいやすみ	21	20	19
25	26 みんなで じゃんけんして かつたらすす む。	27	28	29 39へすすむ	30
36 28へもどる	35	34 27へもどる	33	32	31
37 	38	39 	40 37へもどる	41 2かいやすみ	42 
48 ゴール! かんせい!	47 43にもどる	46 37へもどる	45 	44 	43 1かいやすみ 

1月3日 詩編90編1～17節

【分級展開例 B】

神さまと共に歩む一年

- ①新しい年を迎えて、私たちはまた一つ年を重ねることになりました。皆さんは今年で何歳になりますか？ 私たちの一生はこの詩にあるように70年かもしれませんし、80年かもしれません。それは長い人生かもしれませんが、モーセはこの詩の中で、それは一瞬のことのようだと言います。どうしてだと思えますか？
- ②昨年的一年間を振り返って、神さまに感謝することはなんでしょう。また、悩んだり心配したことはなんだったでしょう。神さまはそんな私たちをごらんになって、どう思っておられるでしょう。
- ③詩編90編には「モーセの祈り」と題がつけられています。モーセはどんな人であったか思い起こしてみましよう。モーセの苦労はなんだったでしょう。聖書ではモーセは「神の人」と言われますが、彼は神のような人だったでしょう。モーセの一番優れていた点はどこにあったでしょう。
- ④世界と歴史を造った神さまはどんな被造物とも違って永遠の御存在であり、イスラエルは「神さまに宿る」ことで明日に希望を持つことができました。私たちも同じように神さまのもとにとどまって、信じ続けることができると願います。私たちが今年、神さまから期待することはなんでしょう。一緒に祈りましよう。

1月3日 詩編90編1～17節

【分級展開例 B】

神さまと共に歩む一年

- ①去年の1月は何をしたか思い出してみましょう。
- ②去年の1年間はコロナウイルスで大変でしたね。どんなことが変わったでしょう？
- ③一番大変だったことと、一番嬉しかったことを思い出してみましょう。
- ④大変な時に、神さまが助けてくださっています。どんなことを思い出しますか？
- ⑤嬉しい時のことで神さまに感謝することはありますか？

1月3日

【分級展開例 D】

聖書の世界を知ってるかい？

聖書（新共同訳）の巻末にある地図と世界地図（地球儀）を比べて、聖書の世界を確認してみましょう。

- ①（図1）エルサレムのある地方はどのあたりでしょうか。
- ②（図2）モーセがイスラエルの人々と一緒に出発したエジプトからカナンの地までの道のりをたどってみましょう。モーセが十戒を受け取ったシナイ山はどこにあるかな？
- ③（図3）ヨシュアに導かれてカナンの地にたどり着いたイスラエル12部族は土地を分け合って住むことになりました。12部族の名前は言えるかな？ 特にユダとエフライムの領地は覚えておきましょう。また、モアブ、アンモン、エドムなどの隣国の場所も覚えましょう。
- ④（図4～6）エルサレムの近くには大きな湖があります。なんという名でしょうか。どうしてそんな名前がついたか知っていますか？
- ⑤（図6）イエスさまと弟子たちが出会ったガリラヤ地方はどこにありますか？ そこにある湖の名前はなんですか？ そして④の湖とどれくらい離れているか測ってみましょう。二つの湖をつなぐ川の名前はなんですか？
- ⑥（図7～8）パウロはイエスさまの福音を伝えるために三回の旅をしています。地図を見ながら町の名前を確認しましょう。
- ⑦第一回宣教旅行 アンティオキア→セレウキア→（キプロス島）サラミス→パフォス→ベルゲ→（ピシディア）アンティオキア→イコニオン→リストラ→デルベ→リストラ→アンティオキア→アタリア→（シリア）アンティオキア
 第二回宣教旅行 エルサレム→カイザリア→プトレマイス→ティルス→アンティオキア→デルベ→リストラ→イコニオン→トロアス→サモトラケ→ネアポリス→フィリピ→アンフィリポス→アポロニア→ベレア→（アカイア）アテネ→ケンクレアイ→エフェソ→カイザリア
 第三回宣教旅行 （シリア）アンティオキア→（フリギア）アンティオキア→エフェソ→アソス→（アカイア）→フィリピ→アソス→ミティレネ→ミレトス→パタラ→ティルス→プトレマイス→カイサリア→エルサレム
- ⑧最後にパウロはローマに向けて旅立ちました。その道筋をたどってみましょう。
 エルサレム→カイサリア→シドン→ミラ→（クニドス）→（クレタ島）サルモネ岬→良い港→（カウダ）→マルタ島→（シチリア島）シラクサ→（イタリア）レギオン→アビイフォルム→トレス・タベルネ→ローマ

1月10日 ルカによる福音書3章21～22節、子どもと親のカテキズム問29【解説と黙想】

イエス・キリストとは

テキストの解説

主イエスはその公生涯の初めに、罪人と同じように洗礼を受けられた。イエスは永遠からの神の御子であられ、罪がないにも拘らず、私たちが罪から救うために罪人の一人に数えられた（ルカ22：37）。◇聖霊の降下によって、イエスは聖霊を限りなく注がれているお方であることが明らかにされ、天からの神の御声により、イエスが神の御子で、神の御心に適い、御心を完全に行える方であることが人々に示された。人間の視覚と聴覚に訴える仕方で、イエスの神性が明らかにされている。◇23節以下の系図により、イエスが真の人間であることも示されている。

教理の解説

イエスは、その名の意味する「救済者・救い主」という務めを完全に果たすことのできる唯一のお方であること（ハイデルベルク29）、キリストと呼ばれることにより、イエスが贖い主として預言者・祭司・王の三職を神によって任職されていること（同31）を教えられている。今日の箇所では特に聖霊が注がれたことにより、神によって直接任命されていること、三職を一人ですべて完全に担われること、最高の預言者、唯一の大祭司、永遠の王であられることを学ぶ（同31）。

黙想

罪のない神の御子が、あえて真の人となられ罪人と同じ姿になられ、私たち罪人の救いのためにその務めを完全に果たしてくださいました。

天の父なる神は、御子を愛しておられるが、その御子を低い状態にしてこの世に遣わされることによって、私たち罪人に対する愛も示して下さっている。

ルカはイエスの誕生物語を既に詳しく記しているが、23節以下の系図により、社会的にも系図をたどれる一人の人として人々の間で過ごされたことが分かる。

子どもへのメッセージ

「イエス」という名前と、「キリスト」という呼び方に込められている深い意味を悟り、味わえるように（苗字と名前ではないこと）。子どもたちにとって、「イエスさま」という呼び方が最も親しみのあるものと思われるが、「キリスト」と呼ばれるのはとても大きなお働きを私たちの救いのためにしてくださいましたからだ、ということ。「イエス・キリスト」という呼び方の中に、私たちに對する神さまの愛が込められており、私たちはその御名を信じて祈る。

そしてイエス・キリストを信じる者に、必ず神の救いと恵が与えられる。

（久保田証一）

《参照箇所》 イザヤ9：5、6、ローマ9：5、1ヨハネ5：20

《教理問答》 ハイデルベルク問29、31、ウ小教理問23、ウ大教理41、42

1月10日 ルカによる福音書3章21, 22節

【説教展開例】

イエス・キリストとは

◇..... 単元のねらい◇

「イエス」と「キリスト」、この二つの呼び方の意味を知ること。そこに込められている深い意味を悟って、そこに込められている神の御心、愛を知ることができるように。

「私たちの救い主のお名前」

【イエスさま、というお名前】

私たちはふだん、私たちの救い主を「イエスさま」と呼んでいます。大人の人にも子どもたちにも、この呼び方が、一番親しまれているようですね。

また、子どものみんなも自分の通う教会が「キリスト教会」である、ということをごどこかで聞いているのではないのでしょうか。「キリスト教」という言葉も聞いているでしょう。

今日は、私たちが日頃親しんでいる、「イエス」というお名前と、「キリスト」という呼び方が何を表しているかを学びます。

「イエス」はお名前ですが、「キリスト」は呼び方、と言いました。何が違うのでしょうか。これからお話しします。

まず、イエスさまの「イエス」というお名前について学びましょう。イエスという名前は、イエスさまと同じ時代の人たちの中にはふつうにある名前でした。ペトロ、ヨハネ、ヤコブとか、そういう名前の方がたくさんいたように、イエスという名前の人もいたのです。

今でも、アメリカの人などに、ピーターさん、ジョンさん、ジェームズさん、という名前があります。それはペトロ、ヨハネ、ヤコブにあたる名前です。「イエス」に当

る名前は英語では「ジーザス」となります。聞いたことがありますか。でも、今ではアメリカ人で「ジーザス」という名前の人は聞いたことがありません。どうしてかというところ、イエスさまは神さまの御子で、数い主ですから、すばらしすぎて、それと同じ名前はとてつつけられないからでしょう。人間のことを救い主、とは呼べません。

そうです、「イエス」というお名前には「主は救い」とか「救い主」という意味があるのです。でもイエスさまと同じ時代にはイエスという名の人がありました。それは、主は救い主だ、主の救いを信じる、という気持ちでつけていたからです。でも、救い主であるイエスさまがお生まれになったので、もうその名前は普通の人にはつけられなくなったのでしょね。

イエスさまは、この世でただひとりだけ、私たちが罪から救うことのできる救い主です。私たちは神さまにしたがわないで背いてしまっています。それが罪ですね。その罪は、イエスさまだけがつぐなうことができます。つぐなうとは、代わりに罰を受けてくださることです。それがイエスさまの十字架です。イエスさまには罪がないから、私たちの罪をつぐなって取り除くことができます。「イエス」というお名前は、

イエスさまに一番ふさわしい、一番ぴったりに合っているお名前ですね。

【キリスト、という呼び方の意味】

では、「キリスト」とは何を表しているのでしょうか。それは「油を注がれた者」という意味です。旧約聖書の時代、神さまのみ言葉を教える預言者や、献げ物をささげる祭司や、人々を治める王になる人には、頭に油が注がれました。それによって、神さまがその人にその働きを与えたことが人々にわかるようにするためです。そして、旧約聖書の時代には、みな別々の、大ぜいの人々がその働きをしました。

けれども神さまは、その働きを一人でできる方をいつかこの世界に送る、と約束しておられました。そういう方のことを特別にメシア、と呼ぶようになりました。これは旧約聖書の時代の人々の呼び方です。「メシア」は「キリスト」と同じ意味です。

そして、ずっと後になってからイエスさまがお生まれになりました。イエスさまは、神さまのみ言葉を、ほかのどんな預言者よりもたくさん教えてくださいました。

そして十字架でご自分を献げて、私たちの罪を取り除いてくださいました。イエスさまを信じる人はだれでも、神さまにしたがわないうで背いた罪をゆるしていただけます。これが祭司としてのお働きです。

さらに、イエスさまを信じる私たちの王さまになってくださり、いつも私たちを守

り導き助けてくださいます。

イエスさまは、こんなにも素晴らしいお働きを、一人で全部行える方なのです。それは、神さまの霊である聖霊が、イエスさまに限りなく注がれたからです。それは、イエスさまが、洗礼者ヨハネから洗礼を受けたときに、明らかになりました。

聖霊が鳩のようにイエスさまのところに降り、天から父なる神さまが「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と呼ばれたのです。父なる神さまは、イエスさまのことを愛しておられます。そのイエスさまを私たちに救い主として与えてくださるのですから、神さまは私たちのことも愛してくださっているのです。

こうして、イエスさまが、神さまから油を注がれた、ただ一人のキリストだということが、人々に表されたのです。

【イエス・キリストのお名前を信じる】

教会では「イエスさまのお名前によって」または「イエス・キリストのお名前によって」祈りますと言って祈りを終えますね。このお名前によって祈るなら、必ず聞いてくださる、とイエスさまは約束してくださいました。このお名前に込められた大事な意味を良く覚えましょう。そしてそれをあがめ、大事にしましょう。「イエス・キリスト」を信じる人には、必ず神さまの救いと、たくさんの恵みが与えられるのです。

(久保田証一)

《今週の暗唱聖句》

マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。(マタイによる福音書1章21節)

1月10日 ルカによる福音書3章21, 22節

【分級展開例 A】

イエス・キリストとは

- ① イエスさまのお名前はだれがつけたのか覚えていますか？

- ② では、「イエス」というお名前にはどんな意味があるのでしょうか？

- ③ 「キリスト」はお名前ではなくて、イエスさまのお働き（つとめ）です。「イエス・キリスト」とは「イエスさまはキリストです」という意味です。では、「キリスト」とは神さまのどんなお働き（つとめ）を指すのでしょうか？

- ④ イエスさまは洗礼を受けました。神の子なのにどうして洗礼を受けたのでしょうか？

1月10日 ルカによる福音書3章21, 22節

【分級展開例 B】

イエス・キリストとは

カテキズムにある参照聖句を見ながら答えてみてください。

①どのようにして「イエス」という名前がつけられましたか？

ヒント：クリスマスの出来事を思い出してください。

②「キリスト」は旧約聖書で何と呼ばれていたか知っていますか？

ヒント：先生なら知っているはずですから聴いてみてください。

③旧約聖書で「油を注がれた人」には、どんな人がいましたか？

ヒント：少なくとも3人は名前を挙げてみましょう。

④それらの人たちは神さまに命じられて特別な働きをしましたが、それらはどんな働きだったでしょうか。

ヒント：カテキズムの間30がその答えがあります。

⑤では、イエスさまが「キリスト」と呼ばれるのは何故ですか？

ヒント：神さまは旧約聖書の昔からイエスさまのことをイスラエルに教えておられたからです。

1月10日 ルカによる福音書3章21, 22節

【分級展開例 C】

イエス・キリストとは

*展開例 B を一緒に考えてください。

- ① イエスさまの名前は旧約聖書のだれと同じですか？

- ② その人とイエスさまはどこが似ていますか。またどこが違いますか？

- ③ 「キリスト」と同じ意味の言葉を旧約聖書ではなんと呼ぶでしょう。福音書の中で、イエスさまをその呼び名で呼んだのはだれでしょう

- ④ どうして、その人たちはイエスさまをその名で呼んだのでしょうか。

- ⑤ 私たちがイエスさまのことを一言の呼び名で呼ぶとしたら、なんと呼んだら良いと思いますか？

1月17日 フィリピの信徒への手紙2章6～11節、子どもと親のカテキズム問30 【解説と黙想】

キリストの高い状態と低い状態

○高い状態と低い状態

問30が主として述べていることは、主イエスが救い主として十字架の死にいたるまで低い状態にへりくだられたことと、復活以降において高い状態へと挙げられたことです。

低い状態とは、主イエスが人として地上に生まれられ、律法の下で地上のご生涯を歩まれ、十字架の上に死に、墓に葬られたことを指します（ウェストミンスター小教理問答問27）。主イエスは生まれてから死ぬまで、人として誰もが通る道を歩まれました。しかもまことの王でありながらベツレヘムの家畜小屋に生まれ、十字架の死を忍ばれたのです。主イエスは、様々な人の生涯なかでも、あえて貧しく低いところまで降ってくださったのです。

高い状態とは、三日目に復活され、天に昇られ、父なる神の右に座して世を治めておられること、そして終わりの日に世をさばくために来られることを指します（ウェストミンスター小教理問答問28）。主イエスがまことの神として力強く救いの御業をなしてくださることが、高い状態において示されています。

○主イエスがへりくだられたことの意味

主イエスが高い状態で果たしてくださる御業については、その意義が比較的理解しやすいのではないのでしょうか。すなわち、主イエスが復活されたので、私たちにも復活の希望があります。主イエスは今も天におられ、神として私たちを守ってくださいます。主イエスは終わりの日に来られ、私たちをすべての苦しみから解放してください

います。

このように、私たちの救い主は、まことの神として、私たちに確かな希望を与えてくださるお方です。ただし主イエスは、自らを安全地帯に置いたまま、私たちから遠く離れて救いの御業をなさるお方ではありません。主イエスは自ら苦しみや悩みに満ちた世に来てくださり、人が味わうあらゆる苦しみを負ってくださったのです。

病の苦しきは、その病にかかった人しか本当の意味で理解することはできないと言われたことがあります。主イエスは低い状態を忍ばれたことは、まさにこのような意味があります。私たちが現実の世のなかで味わう苦しみや悩みを、主イエス御自身が体験してくださいました。低い状態にまで降ってくださった主イエスこそ、私たちのあらゆる痛みを理解し、寄り添ってくださる救い主なのです。このお方が、今は高い状態において天で神の右に座して世を治めておられ、終わりの日に来てくださるのです。

○イエス・キリストを主とすること

このことが示されているフィリピ2章6～11節は、利己心や虚栄心のあなかで互いに自分が相手よりも優れていると主張しあっている人々に対して書かれています。主イエスは低い状態にへりくだってくださったのに、主イエスに従う人々が互いに高ぶり合っているのはおかしいでしょう。自ら低い状態に降られて私たちの弱さに寄り添ってくださった主イエスに救われた私たちもまた、弱い人々に寄り添う者とされているのです。（三輪 誠）

《参照聖句》 ガラテヤの信徒への手紙4章4～5節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問23、27、28、ハイデルベルク信仰問答問35

1月17日 フィリピの信徒への手紙 2章6～11節

【説教展開例】

キリストの高い状態と低い状態

◇..... 単元のねらい◇

キリストが高い状態と低い状態の双方で救い主としての働きをなされることが、わたしたちにとってどのような意義があるかを覚える。そのうえでキリストに従うわたしたちが、キリストにならってへりくだる者とされていることを知る。

「わたしのところへ来てくださったキリスト」

○はじめに

子どもと親のカテキズムの間30からは、イエスさまのお働きについて教えられています。イエスさまのお働きとは何でしょうか。それはなんとと言っても、救い主としてわたしたちを救ってくださるお働きです。この救い主のお働きを、低くへりくだられた時も、高く挙げられている時においても果たされるのだと教えられています。このことを今日は一緒に学んでいきましょう。

○高く挙げられたイエスさま

まず、イエスさまが高く挙げられていることについて考えてみましょう。みんなにとって、手の届かないほど立派な人や、あこがれの人は誰でしょう。スポーツをやっている子なら、憧れのスポーツ選手がいるでしょう。あこがれのアイドルがいる子もいるかもしれませんね。たくさんお金を稼いでいるIT企業の社長や、誰よりも偉い総理大臣を思い浮かべる子もいるかも知れません。わたしたちが、このような人たちにあこがれるのは、自分では持っていない力をこの人たちが持っているからです。たくさんの人たちから「すごいねすごいね」

と認められて、高く挙げられているのです。

イエスさまは、神さまに認められて高く挙げられたお方です。こうしてイエスさまは、十字架の死から復活されました。そして天に昇られました。天において、今も世界を治めておられます。死から復活することも天に昇ることも、わたしたちの力ではできないことです。イエスさまは、わたしたちを遥かに超えた素晴らしい力で、わたしたちを救ってくださるお方です。だからこそ、イエスさまは確かにわたしたちを救ってくださる信頼できる救い主なのです。

○低くへりくだられたイエスさま

このような力あるイエスさまは、わたしたちと同じようにこの地上で人生を歩まれたお方でもあります。イエスさまはわたしたちと同じように人としてお生まれになりました。そしてわたしたちと同じように、この世界に生き、そしていずれわたしたちが死ぬようにイエスさまも死なれたのです。

しかもイエスさまは、良い家柄に生まれた立派な人として生涯を歩まれたわけではありません。みんなも知っているとおおり、

ベツレヘムの家畜小屋でお生まれになり、十字架上で死なれました。みんなだったら、イエスさまみたいな人生を歩みたいと思うのでしょうか。そうは思わないでしょう。イエスさまは人を救う素晴らしい力をお持ちであったのに、力がない人のように低くへりくだられたのです。

○イエスさまがへりくだられた理由

イエスさまはなぜ、そこまでへりくだられたのでしょうか。イエスさまは素晴らしい力をお持ちですから、わざわざ苦しみの多い地上の人生を歩むことなく、天で救いの御業をなすこともできたはずです。それでもイエスさまは、へりくだってわたしたちと同じように地上を歩んでくださいました。それは、イエスさまがわたしたちの苦しみを理解し、寄りそってくださるお方だからです。

先日ニュースを見ていたら、こんな言葉を見つけました。

「中学生の世界は大人が思うよりも複雑」

これは、ある中学生の子が偉い大人に向かって言った言葉です。中学生の世界の大変さを、大人は理解していないでしょ。そんな思いが込められた言葉です。中学生だけではないでしょう。小学生の子も、高校生のお兄さんお姉さんたちも、「大人たちは子どもであるわたしたちのことを理解してくれない」と思ったことが、おそらくあると思うのです。

なぜ、大人は子どものことを理解できないのでしょうか。いろいろと原因はあるでしょうが、その一つは、大人が子どもと違って力を持っているからです。力とは、例えば自分でお金を稼ぐ力とか、自分の言うことを周りの人に聞いてもらえる信用力と

か、そういったものです。大人はこの力を使って、やろうと思ったことがある程度できます。子どもであるみんなは違いますよね。大人のような力は持っていません。やりたいことができないことも多いのです。だから苦勞するし大変です。この苦勞が、もう力を持ってしまっている大人にはなかなか分かってもらえないのです。

ここでみんなに伝えたいことは、「力を持っている人が、力を持っていない人の苦勞を理解することはとても難しい」ということです。例えばお金持ちで綺麗な服を着た人が、貧乏でボロボロの服しか着ることができない人の気持ちとか惨めさを完全に理解することはできないのです。頭のいい子が、勉強がわからずに苦しんでいる子の苦しみを理解することはとても難しいでしょう。みんなから好かれて人気者の子は、人とうまく話せなくて友だちができない子の苦勞が分からないでしょう。この苦勞を本当に理解できるのは、同じように友だちができなくて苦勞している子だけではないのでしょうか。友だちができない苦勞を知っている子こそが、同じように友だちができずに悩んでいる子の友だちになれるのです。

イエスさまに比べたら、わたしたちは弱く力はありません。だからこそ、思いどおりにいかないことが多くて、苦しくて悩むのです。でもわたしたちのすべての悩みや苦しみを、イエスさまはすべて理解してくださいます。なぜならイエスさまは低くへりくだられて、わたしたち以上に苦しみと悩みを体験して下さったからです。イエスさまは、神さまに認められて高く挙げられるほどの素晴らしい力をお持ちです。けれども低くへりくだって下さったお方で

もあるので、力のない弱いわたしたちのこともちゃんと理解して、寄りそってくださるのです。このお方が、わたしたちの救い主であるイエスさまなのです。

○イエスさまに救われたわたしたち

こうしてイエスさまに救われたわたしたちは、どう生きるべきでしょうか。今は、自分が弱くて小さいと感じることも多いでしょう。だからもっと力をつけて、自分がやりたいことを実現できるようになりたいと思うことがあると思うのです。それはとても大切です。しかしそうやって力をつけていくことによって、力のない弱い人のことを忘れてしまったらよくないでしょう。

イエスさまは力あるお方であるのに、へりくだって弱いわたしたちに寄りそい、わたしたちの苦しみや悩みを共にしてくださいました。イエスさまがこのように歩んでくださったから、わたしたちは救われたのです。こうして救われたわたしたちも、イエスさまにならって自分より力のない人や辛い思いをしているお友だちに寄りそって、その大変さを共にしたいのです。そうすることができたならば、きっとその人にもへりくだられたイエスさまの救いが力強く伝わっていくはずです。救われたわたしたちのそのような生き方を、イエスさまは心から喜んでくださるはずです。

(三輪 誠)

《今週の暗唱聖句》

キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。

(フィリピの信徒への手紙 2章6～7節)

1月17日 フィリピの信徒への手紙2章6～11節

【分級展開例 A】

キリストの高い状態と低い状態

①イエスさまは地上での歩みをもういちどたどってみましょう。

お誕生→弟子たちを集める→エルサレムで逮捕され十字架にかかる→お墓に取められる

②復活したイエスさまは、どのように歩まれたか、聖書の教えを振り返っておきましょう。

復活する→弟子たちに会う→天に上る→聖霊を送る→教会と共に歩む→もう一度来る

③次の名前は旧約聖書に出てくる人の名前です。「預言者」「祭司」「王」のどれにあては

まるか分類してみてください:アブラハム、モーセ、アロン、ダビデ、ソロモン、ヨシュア、エリヤ、エリシャ、ヨシヤ、イザヤ、ピネハス、サウル、サムエル、ヒゼキヤ、エレミヤ、エズラ、フルダ、アビメレク、ダニエル

よげんしゃ

さいし

王(おう)

1月17日 フィリピの信徒への手紙2章6～11節

【分級展開例 B】

キリストの高い状態と低い状態

教理問答を読んで、次の質問に答えてください。

- ① イエスさまの「低い状態」とは、どのようなことをいうのでしょうか？

- ② イエスさまは、神の子なのに、なぜ「低い状態」にならねばならなかったのでしょうか？

- ③ イエスさまは、どれくらい「低い状態」になったのでしょうか？

- ④ イエスさまは、どのようにして「低い状態」から「高い状態」に移りましたか？

- ⑤ イエスさまは、なぜ「高い状態」にいくことができたのでしょうか？

- ⑥ イエスさまは、今どのような状態にいますか？

- ⑦ 「預言者」「祭司」「王」とは、どれも旧約聖書のイスラエルに与えられた、神さまのつとめをする人の働きです。それぞれ、どんな人がいたか思い起こしてみましよう。
預言者：
祭司：
王：

1月17日 フィリピの信徒への手紙2章6～11節

【分級展開例 C】

キリストの高い状態と低い状態

イエスさまは、「低くへりくだられた時」と「高く挙げられている時」の二つの状態において、それぞれ「預言者」「祭司」「王」のつとめをはたされます。

それぞれの状態とつとめの組み合わせに当てはまる聖書の箇所を書き出してみましよう。

	預言者	祭司	王
高く挙げられている時			
低くへりくだられた時			

それぞれの時、それぞれの務めのイエスさまは、私たちにとってどんなふうに救いを実現してくださるでしょう。具体的な経験があったら、挙げてみましょう。

1月24日 ルカによる福音書24章13～35節、子どもと親のカテキズム問31 【解説と黙想】

預言者なるキリスト

1. 聖書は神の言葉

神は御自身の御心を、旧約の時代には預言者を用いて、また様々な仕方で語り、表された（ヘブライ1:1）。そして時満ちるに及び、御子イエス・キリストを遣わされることで御自身の恵みと平和とを民に贈り届けられた。主イエスは、その言葉と行いにおいて、神が民をいかに愛しておられるかを表し切られた、真の、そして最後の預言者であられる。主イエスこそ、神の愛そのものであられ、神の民の命、光であられる。神の民は主イエスによって満たされた神の御心が記されている聖書において、唯一の神を知る。「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです」（ロマ10:17）。

2. エマオへの道

十字架から三日目の朝、二人の弟子がエマオという村を目指していた。二人は失意のなかにある。彼らが期待を寄せていた「ナザレのイエス」は死刑の判決を受け、十字架刑に処せられたからだ。彼らは「ナザレのイエス」にイスラエル解放の希望を託していた。しかし、その望みは潰えた。二人にとって今や「イエス」は神の子でも、救い主でもなく、ナザレに生まれ育った一人の人間、過去の人である。二人は暗い顔をしながら、立ち止まり、思いで話のように語り始める。ナザレのイエスは行いにも言葉にも力ある預言者でした……。十字架にかけられてしまいました……。この朝、イエスのご遺体が見つかることができませんでした……。その「暗い」話を聞いていた

のは復活の主であられた。主イエスへの期待を見失った二人の弟子と復活の主は共に歩き始められる。そして、「聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された」（ルカ24:27）。そして、メシアが苦しみを受けて、栄光に入ることを解き明かされるものであった。「主は彼らの救い主となられ」（イザヤ63:8）することで、「彼らの苦難を常に御自分の苦難」（同9節）とされるお方である。民の苦難を担われる神は愛と憐みとをもって、祝福へと導かれる。その先頭に御自身が立たれ、進まれる。二人の弟子は十字架の出来事に、神に向けた希望の終焉を見たが、しかし、十字架の出来事もさらに復活の出来事も神の御手のなかにあり、メシアなる神の歩みとして既に（旧約）聖書に記されていたことであると、復活の主イエスはお教えになる。

すぐその場で、弟子たちの目が開かれたわけではない。二人の弟子は復活の主が生きておられるイエスであると気づかないまま、食事を共にする。二人の目が開かれるのは、復活の主がパンを裂かれた時である。その時、彼らは思い出す。「聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」（ルカ24:32）。

二人はエマオへの道すがら、「暗い顔」をして、悲しいお話として、主の御業を語った。その同じお話を、復活の主に解き明かしていただくとき、それは心燃えたつお話となった。神の民に命と光を与えるお話となった。そのお話が、この朝教会で語られる。（柏木貴志）

《参照聖句》 ヨハネによる福音書1章17、18節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問24、ウェストミンスター大教理問題問43

1月24日 ルカによる福音書24章13～35節

【説教展開例】

預言者なるキリスト

◇..... 単元のねらい◇

聖書は神の言葉であり、生きた力をもつ。その言葉は地上を旅する私たちを活かし、御国まで導く。その言葉のなかに、私たちは神の光を見つけ、生きる希望を与えられる。聖書の言葉は、聴く者の心を熱く燃やす。神の愛に触れるからである。神と共に生きよ！ という励ましに触れるからである。皆で、共に、聖書を大切に愛したい。御言葉の説教者、奉仕者のために祈りたい。神が私たちを愛してくださったように、皆で共に愛したい、愛し合いたい、そして伝えていきたい。

「生きている神の言葉に活かされる」

皆さん、この一週間は、どうでしたか？
あら、〇〇くん、暗い顔をしていますね。
お家で、学校で、何かあったかな？
ぜひまた後で一緒にお話をしましょう。
私たちの毎日には本当にいろいろなことが
あって、心が暗くなってしまうことがありますよね。

先生もそうです。さて、今日のお話にも
「暗い顔」をした人がでてきていました。
イエスさまの二人のお弟子さんです。

二人はエマオという村を目指していました。
そのエマオはエルサレムから六十スタン
ディオン離れたところにありました。だ
いたい11キロぐらいです。歩くと、どれく
らいの時間がかかるかな。先生だと、2時
間とちょっとぐらいかかるかなという感じ
です。そういう道のりを二人のお弟子さん
は悲しみで心をいっぱいにしてながら歩いて
いました。イエスさまが十字架にかかれて、
亡くなられてしまったからです。しかも、
この朝に、イエスさまのお墓に行くと、
イエスさまのご遺体がなくなっているとい
うことがあって、いったいどういうことな

んだらうと、これまた二人の心は混乱する
ことになりました。

すると、なんと、その二人と、復活され
たイエスさまと一緒に歩き始められるん
です。「イエス御自身が近づいて来て、一緒
に歩き始められた」(15節)と聖書に書か
れています。ここは先生の大好きなところ
なんです。みんなもそう。先生もそう。心
が暗くなってしまうことがありますよね。
でも、そういう時に、復活のイエスさまが
近づいて、一緒に歩き始めてくださる。そ
のことに、私たち自身は気づいていないこ
とが多いんですけれども、イエスさまが一
緒にいてくださる、それは本当のことなん
です。

そういえば、この時の二人のお弟子さん
も、イエスさまと一緒に歩いてくださって
いるということに気づいていないままでし
た。不思議ですね。復活のイエスさまが目
の前にいるのに、まるでまったく知らない
人と話すように、二人はお話をしています。
復活のイエスさまに、何のお話をしている
んですか、と聞かれても、えっっ！ 知

らないんですか!? とちょっと冷たい言い方をしてしまっていますね。

でも、先生はこの二人のお弟子さんの気持ちがよく分かるんです。先生は心が暗くなる時に聖書を読むと元気になります。けれども、元気になる時もある。聖書には神さまのことが書かれています。神さまがみんなのこと、私たちのことをどれだけ大切に思ってくださって、愛してくださっているのが書かれています。神さまはみんなに、元気に、一緒に生きていこうよ! と言ってくださっています。聖書を読むと、そこにイエスさまがおられ、イエスさまが私たちに語りかけてくださっている言葉に出会うことができます。でもね、不思議なんですけれども、いくら聖書を読んでも全然、元気になる時があるんだね。この時の二人のお弟子さんのように、目の前に復活のイエスさまがいてくださるのに、全然そのことが分からない、という時があるんです。

二人のお弟子さんは悲しみで心がいっぱいになっていて、また、心の目が遮られていて、イエスさまをイエスさまだと分かりませんでした。それで、イエスさまが十字架にかけられてしまったこと、そのご遺体がなくなっていたこと、それでいて、仲間たちが天使から「イエスは生きておられる」と告げられたことを暗い顔をして、話し続けるんですね。

では、その時、一緒に歩いておられた復活のイエスさまはどうされたのでしょうか。こう言われています。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く……」と。あなたたちはどうして、わたしのことが分からないのだと、十字架のことも復活のことも分かっていな

いのかと、イエスさまも悲しまれます。でも! イエスさまは、そんなあなたたちのことを知らないとは決して言われません。むしろ、だったら、もう一度、教えてあげましょうということで、「モーセとすべての預言者」、すなわち旧約聖書全体のことをお話になっていられました。旧約聖書のここも、ここも大切なところですよと、ほら、こんなところに、わたしのことが、十字架と復活のことが書かれていますよとお話になっていられました。エマオの村に着くまでの二時間ぐらい、イエスさまの聖書特別講座の時間になりました。こんなに幸せなことはありませんね。

二人のお弟子さんは、イエスさまが十字架にかかれたこと、復活されてご遺体がなくなっていたことを、とても悲しんでいたんですけれども、イエスさまは決して悲しむ必要はないと言われるんです。それはあなたたちのためですよ。神さまがあなたたちを罪から救い出して、ずっと一緒に生きていくために、この地上での生活も、その先の天国の生活も、ずっと一緒に生きていくために必要なことだったんですよ、と言われます。すごいですよね。でも、面白いのは、それで二人のお弟子さんはすぐに、なるほど! とはならなかったことなんです。二人が、気づけたのは、もう少し後になってからでした。でもね、二人は思い出すことになります。「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」(32節)。

復活のイエスさまが、聖書のお話をしてくださっていた時に、私たちの心はドキドキワクワクしていて、生きる力が湧いてきたではないか! 私たちの暗い顔は生き活

きしてきたではないか！

そうなんです。やっぱり聖書は読むと元気になるものなんです。聖書全体のどの箇所にも、イエスさまがいてくださいます。自分一人ではなかなか難しいところもあるので、こうしてみんなで一緒に読んで、聴いて、復活のイエスさまにお会いするんですね。教会はイエスさまに出会う場所です。この聖書を通して、聖書を読む私たちに聖霊が働いてくださって、イエスさまに出会う場所です。

時々、私たちは聖書を読んでも、心が暗い時には、復活のイエスさまと一緒にいてくださるのに、はて？ あなたはどちらさんでしょう？ということが分かります。あるいは、説教を一生懸命聞いても、うん？

何のことだかさっぱりということがあるかもしれません。

けれども、みなさん、信頼してください。聖書は神の言葉です。この言葉には私たちが活かす力があります。今日、こうして先生がお話をしている一字一句はきっと明日には（いや、この数分後には……）忘れてしまうかもしれません。けれども、先生は願います。みんながあとで振り返った時に、そういえば、心がワクワクしたなあと思えることを。もし、そう思えたらそこには聖霊の働きがあったということですので感謝のお祈りをいたしましょう。

みなさん、教会で、お家で、聖書を開きましょう。そこにイエスさまが必ず一緒にいてくださいます。 (柏木貴志)

《今週の暗唱聖句》

「キリスト・イエスは、罪人を救うために世に来られた」という言葉は真実であり、そのまま受け入れるに値します。わたしは、その罪人の中で最たる者です。

(テモテへの手紙一 1章15節)

1月24日 ルカによる福音書24章13～35節

【分級展開例A】

預言者なるキリスト

○聖書のお話を書いて・描いてみましょう

エマオ途上の物語を読んで、場面を思い描いてみましょう。

誰がいて、どんな顔をしているでしょう。周りには何があるでしょう？

- ・イエスさまが声をかける、
- ・イエスさまが教えながら歩く、
- ・エマオに到着する、
- ・食卓にでパンを分ける、
- ・仲間のところに戻る、などなど

お話の場面を紙に描いてみましょう

字が書ける人は聖句を書き込むのも良いですね

たくさんの場面を描いて、紙芝居を作っても楽しいです

1月24日 ルカによる福音書24章13～35節

【分級展開例B】

預言者なるキリスト

預言者とは、神の民への語り掛けを民の代表として最初に聴き、神の言葉を預かった者として民にまっすぐ告げる人のことである。神は、かつて預言者たちによってご自身の御心を明らかに示された。しかし、終わりの時代には、御子によって語られた。(ヘブライ1:1) イエス・キリストこそ、最後の最大の預言者である。この預言者は今も教会を通し、聖書によって、ご自身が選び立てられた器を用いて、聖霊によって語り続けておられる。信仰は、キリストからの言葉を聴くことによって始まる。それゆえ、御言葉はすべての人に聞かれなければならない。聴いた者は、個人的にも祈りにおいて聴き続ける。それは、自らが神の民であり続ける為であると同時に神の民を教会に集めるためである。したがって私たちは、教会の内外で、語り続けると共に、語る相手を与えられるように祈らなければならない。

1. 復活された日、エマオという村に歩いていたのは何人？ 何故、エマオの村に歩いていたのですか？
 - ・二人です。
 - ・イエスさまが殺され、いなくなってしまったので、昔の生活に戻って生きて行こうと考えたから。
2. 二人の会話の中身はなんでしたか？
 - ・分級C参照。
3. 何故、イエスさまは二人と近づき、いっしょに歩き始めたのですか？
 - ・ご自分の復活を信じさせるため。
4. 二人の弟子達は、どうしてイエスさまだと気付けなかったのでしょうか？
 - ・信仰の目が開かれていなかったから。
 - ・自分たちの不安、悲しみがいっぱいだったから。
5. 弟子たちは、どのようにして目が開かれたのでしょうか？
 - ・イエスさまのお話しをよく聴くこととイエスさまが与えて下さった聖餐のお食事の席につくこと。
6. あなたが、イエスさまを深く知り、信じられるようになるためにはどうすればよいの

ですか？

- ・弟子達とまったく同じです。
- ・イエスさまの教会で聖書を学び、お話を聴くこと。イエスさまがいらっしゃる礼拝に出席すること。
- ・イエスさまのことを思って、お祈りすること。
- ・イエスさまを信じているお友だち（親でも先生でもいいです）とお話すること。

7. イエスさまは、何故、二人の会話の中に入って来られたのですか？

- ・弟子たちの信仰を元気にするため。

8. 何故、イエスさまが分かった瞬間、イエスさまはお姿を隠されてしまったのでしょうか？

- ・この後、誰もイエスさまのお姿を見ることができなくなります。予行練習かも。

9. 弟子たちは、また、最初のときのように落ち込みましたか

- ・いいえ。みんなのところに戻って、熱く「証し」します。弟子たちも御言葉を語り始めます！
- ・イエスさまのお姿は見えなくても、聖書を読んで、お話を聴けば元気になります。

1月24日 ルカによる福音書24章13～35節

【分級展開例C】

預言者なるキリスト

1. 何故、エマオの村へ歩いていたのですか？
 - ・愛して従ってきたイエスさまが十字架につけられ殺されてしまったから。

2. 二人の弟子達は、どうしてイエスさまに気付けなかったのでしょうか？
 - ・信仰の目が開かれていなかったから。
 - ・自分たちの不安、悲しみで心があふれていたから。私たちなら勉強、遊び、友だち……？

3. 目がさえぎられるというのは、どういうことでしょうか？
 - ・神さまのみ言葉が素直に心に落ちて来ないこと。
 - ・神さまがいっしょに歩いていてくださるのに、その恵みが分からないということ。

4. どうしたら、目が開かれるのでしょうか？
 - ・イエスさまのお話し（説教）を聴くこととイエスさまが与えて下さった聖餐のお食事の席につくこと。
 - ・聖霊のお働きを求め続けること。

5. イエスさまのお話しとは、どのようなことですか？
 - ・旧約と新約の聖書全体からイエスさまに焦点を当てる（イエスさまを思う）ように読むこと。
 - ・そのようなお話し（説教）を聴くと聖書が分かって来る。

6. イエスさまは何故、会話の中に入って、質問されたのですか？
 - ・弟子達を愛し、信仰とその確信に導きたいと願っておられるから。
 - ・弟子達を励まし、その人生を神さまの栄光のために用いてあげたいと願っていらっしゃるから。

イエスさまは、今もおなじように私たちの間に入り込んでくださっています。教会の集会中やその後で。学校生活の悩みや喜びの中で。イエスさまはいつも関わって下さいます。

7. 何故、イエスさまが分かった瞬間、お姿を隠されてしまったのでしょうか？
 - ・弟子達はこれからイエスさまを見ないで信仰の旅を続けることになるから。

8. 弟子たちは、また、最初のときのように落ち込みましたか

・いいえ。心が燃えて、エルサレムに引き返します。それは、仲間たちとの交わりを回復することです。

仲間たちに、イエスさまがどんなに自分たちに愛を示してくださったかを語ります。

9. このような弟子達とイエスさまのやりとりは、この一回で終わってしまったのでしょうか？

・いいえ。このことは、すべてのキリスト者の生活のなかで繰り返し起こっています。

・私たちは、何度もイエスさまと一緒にいて下さるのにまるで気づかないことがあります。

・イエスさまから離れ、イエスさまを悲しませる信仰生活をしてしまいます。

・だからこそイエスさまは、わたしたちをイエスさまのいらっしゃる教会に招いてくださいます。

・特に、説教と聖餐がある主日礼拝式に招いて、説教と聖餐の礼典によって繰り返し心を熱くさせ、元気にさせ、信じる心を強くして、イエスさまのために、イエスさまを信じる人たちのために、イエスさまを知らない人たちのために、立ち上がる力が与えてくださいます。

私たちも、一日も早く、聖餐のお祝いにあずかれるように祈ります。

1月31日 ヨハネによる福音書14章1～14節、子どもと親のカテキズム問32【解説と黙想】

祭司なるキリスト

(1～4節)：「心を騒がせるな。神を信じ、わたしをも信じなさい。」主は、十字架で死ぬことを前にしてこのように語られた。そして、「わたしの父の家には住む所が沢山ある」と言われた。それは、主を信じる者達を、天国に迎え入れて下さるということ、そして、全ての贖われた者のために十分な場所があるということである。主は、御受難と十字架の死において、超自然的悪の力、悪魔的権力と対決なさる。十字架の死は、私達の罪の償いのために、御自身がいけにえとして献げられることである。主の十字架の死、死からの甦り、昇天は、私達のために、場所を用意するためになさる祭司的働きである。主の十字架の死によって、私達は、主のもとに迎えられ、主の居られる所に、一緒にいることが出来るようになる。

(4～6節)：「どこへ行くのか……知っている」とは、主が天の御父の御下に帰られることを指している。トマスの質問によって、深い真理を記す形で記されている。「わたしは道であり、真理であり、命である。」主イエスを通らなければ天の父への道は無いと語られる。天国と地上、神と人を仲介する道は、主イエス以外に無い。主は御自身の血によって、ただ一度聖所に入って永遠の贖いを成し遂げて下さった(ヘブ9：12)。御自身を傷の無いものとして、御自身の血(命)を、神に献げられた。主がその永遠の命そのものであられる。私達は主

イエスの血によって、聖所に入るのである(ヘブ10：19～22)。

(7～11節)：わたしを知る＝父を知る。主イエスを見ている＝既に父を見ている。わたしを見た＝、父を見た。これは、主イエスが御父の啓示と同じだということ。

(10～11節)：「自分から話しているのではない……父が、その業を行っておられる……」。これも、主の言葉と業が御父の御言葉と御業と同じであり、主は御父の啓示だということ。「わたしが父の内におり、父がわたしの内におられる」とは、御父と御子の間に、深い愛の交わりと内住があること。御子と御父が一体だということを目指す。「業そのものによって信じなさい」は、主の行われた奇跡の御業が天からの印だということ語っている。

(12節)：「もっと大きな業を行うようになる。……父のもとへ行くからである。」主が天に上られることは、救いの御業が完成されることに他ならない。そして、主は十字架によって、私達を完全に救い、聖霊を遣わし、より大きな業、すなわち、主の弟子達を通して更に救いの御業を押し広げられるのだ。

(13～14節)：「わたしの名によって……願うならば、わたしがかなえてあげよう。」「名」とは、その人自身である。主イエス

の名義で祈るならば、主イエスがかなえてあげようと言われる。「神さま」に祈る時、私達は三位一体（父・御子・聖霊）に祈っている。しかし、「わたし（主イエス）が」

その祈りに答えて下さると語っておられるのだ。主は今も、天において、祭司として執り成し続けて下さっている。（袴田清子）

《参照聖句》 ヘブライ人への手紙2章17, 18節、7、8、9、10章
ローマの信徒への手紙8章34節、イザヤ53章12節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問25、ウェストミンスター大教理問答問44

1月31日 ヨハネによる福音書14章1～14節

【説教展開例】

祭司なるキリスト

◇……………単元のねらい……………◇

イエス・キリストは私たちの罪のため命を十字架でささげ、今も私たちの祈りを執り成してくださる。

「大いなる執り成し手、主イエス・キリスト」

イエスさまは、弟子たちが不安になっているのを知って、このように励まされました。「神さまを信じ、わたしをも信じなさい。わたしの父の家には住むところが沢山ある。……場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます」

これは、主が十字架の死を前にして、弟子たちに語られた言葉です。十字架の死は、主イエスにとって、大きな試練と闘いの時でした。受難と十字架を、主イエスは、天国に場所を用意することと言われます。そして、天国に場所を用意したら、弟子たちの所に戻って来て、主イエスのもとに迎えてくださると言われたのです。どのようにしたら、天国に場所を用意出来るのでしょうか。

主イエスは言われました。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない（6節）」主イエスが、神さまに従う道、天国と地上を仲介する道なのです。主イエスこそ、神さまと人間の間の道となり、父の家、すなわち、天国に迎え入れてくださる手段なのです。

天国への道は、罪の全く無い主イエスが、十字架に御自分の体を献げて、命を捨ててくださることによってだけ、完成します。そのため、主イエスは、自ら進んで十字架に掛かり、血を流して死に、「多くの人の

過ちを担い、背いた者のために執り成しをし」てくださいました（イザ53：12）。

旧約時代、神さまを礼拝する際に、動物のいけにえの血を祭壇に注ぎました。動物を身代りにしてその命（血）を献げることで、罪を赦して頂くのです。しかし、動物の血は、完全に罪を清めることは出来ません。そこで、主イエスは「御自身の血によって、ただ一度聖所に入って永遠の贖いを成し遂げられたのです（ヘブ9：12）。」主イエスには全く罪が無く、父なる神さまの御心に、実に十字架の死に至るまで、完全に従われたので、主イエスは天の父なる神さまによって、死から蘇らせられ、復活され、やがて天に引き上げられます。このようにして、「人間の手で造られた聖所にはではなく、天そのものに入」られ、今や私たちのために、父なる「神の御前に現われてくださった」（ヘブ9：24）のです。

主イエスは十字架において、「ただ一度、御自身をいけにえとして献げて罪を取り去」ってくださいました（ヘブ9：26）。そのため、「わたしたちは、イエスの血によって聖所に入る」ことが出来るのです（ヘブ10：19）。主イエスは御自分の肉を通して、新しい生きた道を私たちのために開いてくださいました（10：20）。天において執り成してくださっている、主イエスを通して、生きて居られる聖なる永遠の父なる神さま

に近づくことが出来るのです（ヘブ7：24）。子どもと親のカテキズム問32にも「イエスさまは、祭司として、私たちの罪のつぐないのために、ご自分の命を十字架でささげてくださいました。」とありますが、これが、偉大な執り成し手、主イエス・キリストが成してくださる第一の働きです。

主イエスは、御自分を知っている人は御父をも知る事になると言われました。主イエスと父なる神さまは、一体なのです。「わたし（主イエス）を見た者は、父を見た（9節）」のと同じなのです。主イエスは、また、「わたし（主イエス）が父の内におり、父がわたし（主イエス）の内におられる（v.10）」と言われました。また、主イエスが語られる言葉も、主イエスが御自分勝手に語っているのではなく、主イエスの内におられる、父なる神さまがその業を行っておられるのだ、と言われました。主イエスと父成る神さまは一つであると言うことを信じるのが大切です（v.11）。もしそれを信じられないなら、主イエスの御業、すなわち主の行われた奇跡によって信じるように言われています。奇跡は、主が御父と一つであるという印なのです。

主イエスは、父なる神さまは一体で、主イエスの御言葉は、父なる神さまの御言葉と同じだと言われています。つまり、主の語られたこと、為さったことは、父なる神さまがどのような御方であるかを啓示しているというのです。ここでは、三位一体の神さま、父なる神、御子なる神、聖霊なる神は、一つの神さまだと教えられています。難しいですが、その事を主は教えられています。

そして、主イエスを信じる者は、主イエスが天の御父のもとに行かれると、主イエスの行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになると語られています。それは、主の救いの御業が完成されるということです。罪の償いを完成された主が、天に上られると、救いは完成したのです。次は、助け主である、聖霊なる神さまを送り、主イエスを信じる者と共に居てくださいます。そして、聖霊が送られるので、もっと大きな業をおこなうようになると言われています。主イエスを信じ、主イエスに付き従う者は、神さまの大きな御業に参加することができるようにされるのです。

主イエスは「わたしの名によって何かを願うならば、わたしがかなえてあげよう。」と言われます。主イエスが、祈りを聞いてくださると言うことです。罪深い私たちは、直接聖なる永遠の神さまに、直談判するという事は出来なくても、主イエスが執り成してくださるということでもあります。主イエスの名義で、執り成してくださるといことです。主の御名の故になるので、主の御心に適わないことは聞かれないし、祈りの応えが思い描いていたことと異なることになるかも知れません。しかし、主イエスが、私たちの願いを聞いてくださるので、主イエスが私たちの祈りの偉大な執り成し手、父なる神さまと私たちの間を執り成して、祈りに応えてくださるのです。このような大いなる執り成し手が、私たちのために天の父なる神さまの右の座に座っておられるのです。信頼しきって、主イエスのお名前によって、どのようなことでも神さまに祈りましょう。（袴田清子）

《今週の暗唱聖句》

わたしの名によって何かを願うならば、わたしがかなえてあげよう。

（ヨハネによる福音書14章14節）

1月31日 ヨハネによる福音書14章1～14節

【分級展開例A】

祭司なるキリスト

○いのりをとりなそう

みんなはお祈りはできるかな？

お祈りの最後、「アーメン」の前のところで何て言いますか？

「イエスさまのお名前によって」「イエスさまによって」

みんながお祈りをするときには、イエスさまがそのお祈りを父なる神さまに伝えてくださるんです。これを「とりなし」って言います。

人間も「とりなし」ができます。

「〇〇さんのために、『これこれ』のことを実現してください」ってお祈りを聞いたことがありますか？

みんなも、自分のことだけでなく、他の人のことをお祈りしてあげられるかな？

お友達のお願いを聞いて、そのことをお祈りしてみましょう

二人ずつ組みになって、もしくは順番に次の人の願いを聞いて、お祈りしてみましょう。

1月31日 ヨハネによる福音書14章1～14節

【分級展開例B】

祭司なるキリスト

信じることは祈ることです。たとえどれほど聖書の知識をもっていたとしても、お祈りしないで生きていけば、空虚です。人間が神の形に似せられて創造されたのは、神と向き合い祈るためです。ですから、祈ることは人間の当たり前の行為であり、人らしくなるために必須の業です。祈りとは神とお話することです。一対一でお話することも楽しいですが、皆で一緒にあつまって神にお話すること、つまり共同の礼拝こそ最高です。個人的な祈りの源です。ところが、私たちに罪が入りこみ、素直に神さまに向き合えなくなってしまう。そのような悲惨な関係を打ち破られたのが主イエス・キリストです。主は、大祭司として父なる神と私たちとの間に立ち、私たちのために祈りを取り戻し、私たちの願いを叶えて下さるのです。このイエスさまを信頼し、祈る生活を励まし、導くことが私たちのなすべき教育です。

1. イエスさまが、お弟子さんたちに最初に語られたことはなんですか？
「心を騒がせるな」です。
2. 心を騒がせるって、どんなことですか？ どんときそうなりますか？
あせるって感じ……。どうしよう、どうすればいいって感じ……。ざわざわする……。
初めてしなければならないとき。いやなこと、心配なことがあって困って苦しくなるとき。
3. イエスさまは、そんな弟子達に、なんて教えられましたか？
「神を信じなさい」です。
4. それだけですか？
イエスさまも信じなさいとお命じになりました。
5. なぜ、イエスさまも信じなければならないのですか？
イエスさまと天の父なる神さまとは同じ神さまだからです。
6. どうして弟子達は不安になったと思いますか？
イエスさまが自分たちと離れて行くとおっしゃたからです。どこに、行っちゃうの？まさか、殺されてしまうのではと、考えたからです。

7. イエスさまは何のために、父なる神さまのところに行かれるのですか？

私たちが、父なる神さまのいらっしゃる天国に入り、そこにいつまでもいられるようにするためです。

私たちが、イエスさまのお名前でお祈りしたら、その願いをかなえるようにするためです。

もしも、イエスさまがずっと地上におられたら、すべての人に、いつでもどこでもイエスさまがいつしよにはいられなくなってしまうからです。天におられる神さまとイエスさまは、地上にいる僕たち私たちのために、聖霊の神さまを送ってくださり、いつでもどこでも私たちと一緒にいてくださいます。

8. どうしたら、安心していられますか。

イエスさまと神さまに信じることです。イエスさまがいつも僕たち私たちを見守っておられることを信頼することです。神さまの御子のイエスさまがわたしのために父なる神さまにお祈りしておられることを信頼しましょう。必ず、心が晴れやかになり元気になります。そして、お祈りしたくなります。

1月31日 ヨハネによる福音書14章1～14節

【分級展開例 C】

祭司なるキリスト

Bの序文参照。

1. イエスさまが、お弟子さんたちに最初に語られたことはなんですか？
 - ・「心を騒がせるな」です。
2. どんなときにそうなりますか？
 - ・初めてしなければならないとき。いやなこと、心配なことがあって、困ってしまうとき。
3. イエスさまは、そんな弟子達に、なんて教えられましたか？
 - ・神を信じ、イエスさまも信じなさい、信頼しなさいとお命じになりました。
4. イエスさまを信じるとどうして心が落ち着いてくるのですか？ そのような体験があれば教えて下さい。
 - ・神さまを信じるということは、神さまと向き合い、お祈りすることです。イエスさまを思い、イエスさまのお名前でお祈りすれば必ず、心が安らかになって来ます。
5. トマスさんは、イエスさまのお話しがよく分かりましたか？
 - ・いいえ。ですから、質問しました。分からないことを素直に「分かりません」と言えるのは、ほんとうにすばらしいことです。こんな素晴らしい質問のおかげで、「わたしは道であり、真理であり、命である」という有名なことばが聖書に残りました。トマスさん、ありがとう。
6. フィリポさんは、イエスさまのお話しがよくわかりましたか？
 - ・いいえ。ですから、「分からせて下さい」とお願いしました。これもすでにお祈りですね。確かに、そのとき、イエスさまはとても悲しい気持ちになられたと思います。けれども、決してダメな弟子だなどお見捨てになりません。むしろ、必ず分からせて下さるのです。だから、あなたも、イエスさまを信頼できないと思っているなら、正直に、そして熱心に「分からせて下さい」と願い続けてくださいね。このお願いによって、イエスさまと父なる神さまは同じ神さまでいらっしゃる。イエスさまと父なる神さまはいつもいっしょにおられること。イエスさまと父なる神さまはお互いの内に住んでおられることがはっきりと教えていただきました。

7. イエスさまは何のために、父なる神さまのところに行かれるのですか？

- ・私たちが、父なる神さまのいらっしゃる天国に入り、そこにいつまでもいられるようにするためです。
- ・私たちが、イエスさまのお名前でお祈りするなら、その願いをかなえるようにするためです。

8. どうしたら、安心していられますか。

天の父なる神さまとイエスさまを信じればよいのです。イエスさまは、私たちのお祈りをいつも喜び、その祈りが父なる神さまに届くようにお祈りしていただきます。そればかりが、祈らないわたしのためにいつも祈っていて下さいます。イエスさまのお名前でお祈りすれば、イエスさまが必ずかなえてくださいます。これをイエスさまの祭司のお働きと言います。この祭司のお働きをなさるイエスさまは必ず、お祈りをかなえてくださいます。それは、天のお父さまがかなえて下さることと一つのことです。なぜなら、イエスさまも神さまだからです。

2月7日 マタイによる福音書21章1～11節、子どもと親のカテキズム問34 【解説と黙想】

王なるキリスト

【テキストの解説】

主イエスと弟子達一行が、エルサレムに近づき、オリーブ山沿いのベトファゲに来たときの出来事である。四つの福音書が共通して伝える「エルサレム入城」の出来事の中で、マタイは、子ろばを連れて来るよう、弟子たちに命じる出来事が、聖書に示されたことが実現するためであった、と伝える。主イエスに従う二人の弟子は、命じられた通りに、子ろばを連れてくる時、ロバの持ち主に対して、「主がお入用なのです」と告げる。マタイは預言書を引用し、主イエスの姿が王なる救い主の姿が実現するためであったことを証明する。「見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者高ぶることなく、ろばに乗ってくる 雌ろばの子であるろばに乗って（ゼカリヤ9:9）」しかし、エルサレムの人々は、「ホサナ（憐れみたまえ）」という言葉の意味を忘れ、思い思いのメシア像を胸に、賛美して主イエスを迎える。主イエスが十字架の道を目指すのが、自分たちの罪のためであることを知らずに。

【教理の解説】

聖書は、救い主としての務めを果たす際、預言者、祭司、王という、三つの務めがあったことを教える。そのうちの王としての務めは、第一に、私たちが治めること、第二に、悪の力と戦うこと、第三に、私たちが支えること、第四に私たちを守ることであ

る、と教理問答は教える（子どもと親のカテキズム問33）。神の国の支配は、地上の王たちの支配とは異なる。神の国の支配は、キリストによって治められる支配であり、その支配の目的は、地上の悪と戦い、キリストのもとに招かれる私たちが支えられ、守られることである。聖書の御言葉に示されたこの救い主のもとにこそ、神の国の平和が約束されているのである。

【黙想】

マタイは、主イエスが子ろばに乗ってエルサレムに入られる姿を証する。その証言に伝えられているのは、私たちが思い描くような、栄光に輝く王の姿ではない。むしろ、武力によって戦う地上の王たちとは真逆の「王」らしからぬ姿である。戦いを終えた地上の王たちは、軍馬と共に、自らの権威を誇示しながら凱旋する。馬は戦いの象徴である。しかし、主イエスの凱旋の姿は、ゼカリヤ書の示す通り、高ぶることなく、最も低くされた姿である。馬とは逆に、ろばは「従順」の象徴である。主イエスは父なる神の救いの御業に従順な方であり、主イエスの生涯は、一切の武力による戦いを拒否した歩みであった。父なる神のろばが人々の重荷を背負って歩むように、主イエス・キリストというお方は、私たちの救いために、私たちが負うべき十字架という重荷を、私たちの代わりに背負ってくださった王なのである。（長谷部真）

《参照聖句》 イザヤ書62章11節、ゼカリヤ書9章9節、ヨハネによる福音書12章12～19節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問26、ウェストミンスター大教理問答問45

2月7日 マタイによる福音書21章1～11節

【説教展開例】

王なるキリスト

◇..... 単元のねらい◇

福音書記者マタイは、主イエスが「王なる救い主」として、エルサレムに凱旋する姿を描く。その「王の凱旋」の姿は、私たちが思い描く「権威ある王」の姿ではない。主イエスは戦いの象徴である「馬」ではなく、「従順」の象徴である「ろば」、しかもまだ荷を乗せた事のない「子ろば」に乗って凱旋する。その姿には、聖書の示す、「神の国の支配」が、私たちの思い描く姿と全く異なる形で実現することを指し示している。王なる救い主、イエス・キリストの支配は、武力や権力によるのではなく、み言葉と聖書で私たちが治められること、そして御言葉による支配こそが、私たちが真実の意味で悪の力から守ってくださることを知る。

「真の王の帰還」

皆さんは、「王さま」と聞いてどのような姿を思い浮かべるでしょうか？ 絵本や物語、ゲームに登場する「王さま」は、大きなお城の大きな部屋にある、煌びやかで豪華な椅子に座っている王さまを思い浮かべる人もいるかもしれません。王さまは自分の力と権威を示して、人々を従わせるために、豪華で力強い姿を国民に示すことがあります。歴史の中で王さまは、お城の王さまの席にただ座っているだけでなく、たくさんの軍隊を率いて、戦争に出かけることもありました。そして戦争に勝利して国に帰ることを「凱旋^{がいせん}」と言いますが、戦いに勝利した姿を誇って、勇ましい姿で王国に帰ってきます。国民は町中でパレードを開き、喜んで王さまと兵士たちが帰って来ることを喜びたたえます。

マタイによる福音書が記す時代、イエスさまが地上に来られた時代は、エルサレムはローマ皇帝が支配していた時代です。ローマ帝国にも「凱旋式」というものがあり、国家の勝利に貢献した将軍を民衆の前

で賛える儀式がありました。月桂樹という植物でできた冠を被り、戦車に乗って町中を行進したそうです。今朝の箇所、エルサレムの人々は、イエスさまがエルサレムに入られることを、まるで王さまの凱旋式のように喜びたたえます。ところが、その時のイエスさまの姿は、私たちが想像するような「威厳のある力強い王さま」とは大分違うようです。

イエスさまとお弟子さんたちが、エルサレムに近づいて、オリーブ山沿いのベトファゲというところに来たときに、イエスさまは2人のお弟子さんたちに命じます。「向こうの村へ行きなさい。するとすぐ、ろばが見つかる。それをほどこいて、わたしのところに引いてきなさい。」ガリラヤからずっとイエスさまと一緒に旅をしてきたお弟子さんたちは、意味も分かりませんでした。イエスさまが命じられた通りに、村に向かいます。すると、本当にろばが繋いでありました。イエスさまが仰ったように、

「主がお入り用なのです」と言うと、ろばの主人はすぐに渡してくれました。それは、旧約聖書の預言者たちに示された、「王なる救い主」の預言が実現するためでした(イザヤ書62章11節)。お弟子さんたちは命じられた通りに、子ろばを引いて、イエスさまが座るために自分の服をかけました。

皆さんは「ろば」を見たことはありますか？ 動物園に行くと、見る事が出来るかもしれませんが、馬と比べてとっても小さい動物です。一見頼りなく見えますが、実は力持ちで、荒野や山道など、歩きにくい道でも、少ない餌で生きていける、働き者の家畜です。聖書の中でも、馬とは異なり「じゅうろばん従順」の象徴として扱われてきました。

従って、イエスさまが子ろばに乗ってエルサレムに入る姿は、偉大な「王」の姿とは異なっていました。お弟子さんたちも、「エルサレムに入るなら、もっと力強い、威厳のある王として振舞ったら良いのに」と思ったかも知れません。しかし、旧約聖書で約束されていた、「王なる救い主」の姿は、私たちの思い描く「王」とは全く違っていました。ゼカリヤ書9章9節に次のようにあります。「見よ、あなたの王が来る彼は神に従い、勝利を与えられた者 高ぶることなく、ろばに乗って来る 雌ろばの子であるろばに乗って。」

イエスさまがエルサレムに入られたとき、人々はこの上なく喜びました。道ゆく人々は、自分の服を道に敷いたり、木の枝を切って道に敷いたりしました。そして、ダビデ王が息子ソロモンに王位を譲り、人々がソロモン王をたたえたように(列王

記上1章)、イエスさまを迎え入れました。人々は「ダビデの子にホサナ 主の名によって来られる方に、祝福があるように。いと高きところにホサナ。」とイエスさまを喜び讃えます。「ホサナ」とはユダヤの人たちの言葉で、「どうか、救ってください」という意味です。しかしこの時「ホサナ」とイエスさまを賛美した人は、イエスさまがどのように「救い」を実現されるのを知りませんでした。旧約聖書の御言葉に預言された、本当の救い主の姿は、私たちが想像する王さまのように、力強く武力や権力を振りかざす方ではありません。「高ぶることなく、ろばに乗ってくる」とあるように、父なる神さまのご命令に従順に歩むお方です。

イエスさまが生涯を通して教え、実現してくださったのは、父なる神さまの救いの御業です。地上の王は、武力や権力によって、自らに従わせようとされますが、主イエスの生涯の歩みは、一切の武力による争いを拒んだ歩みでした。イエスさまは、生涯を通して、自ら神さまの御言葉に従い、ご自分に従う人々を言葉によって治め、悪に苦しむ人々に手を差し伸べられました。イエスさまの戦いは、悪との戦いであり、地上の王たちとは全く異なる戦いをされました。そして、十字架の死と復活を通して、勝利されたお方です。

私たちの生きる今の時代においても、王さまや内閣総理大臣、大統領、総書記といった、それぞれの国の代表たちが、平和を作り出そうと努力しています。しかし軍隊や武器を増やして、力を誇って対立したり、互いに争ったりしています。しかし、そう

した力と力による対立や緊張によって、平和は本当に実現しているのでしょうか。今も争いは絶えません。イエスさまは、争いの絶えない私たちの罪の現実をよくご存じです。だからこそ、イエスさまは、武力や兵力による支配ではなく、聖書の御言葉を通して治められる、神の国へと、世に生きる私たちを招いておられるのです。

御言葉に聴く時、私たちは御言葉に従う事の出来ない、罪の現実に気づきます。しかし、イエスさまは、私たちの罪を全てご存知の上で、弟子たちに教えます「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を

出しなさい。わたしは既に世に勝っている」。子ろばが初めて荷を背負うのと同じように、十字架という、私たちが1人では負いきれないほどの罪の重荷を、私たちの代わりに背負われました。そして今も支えてくださっています。主イエス・キリストは、再び私たちのもとに帰って来られます。私たちの信仰の歩みは、その日を目指して続きます。苦難も試みもある信仰生活ですが、それはイエスさまによって、既に勝利されている歩みです。この真の王であるイエスさまの御言葉に信頼して、今日からの1週間、安心して、御言葉に従って、歩んでいきましょう。 (長谷部 真)

《今週の暗唱聖句》

あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。(ヨハネによる福音書16章33節)

2月7日 マタイによる福音書21章1～11節

【分級展開例A】

王なるキリスト

王さまって知ってますか？

王さまってどんな人ですか？

偉い人、お金持ち、家来がたくさんいる、お城に住んでいる

王様は何をするか知ってますか？

王様は、自分の国に住んでいる人たちが幸せになるように助けたり、守ったりするんです。

聖書には、イエスさまが私たちの王さまだって書いてあります。

イエスさまは私たちを守ってくれるんですよ

イエスさまが私たちを守ってくれたことってあるかな？

先生は、困ったときに、神さまにお祈りしたら気持ちが落ち着いて解決したことがあります。

みんなはどうかな？

※子ども達からすぐには応答がないと思います。先生がまず適当な例をあげましょう。

じゃあ、守ってもらったことを改めて感謝して神さまにお祈りしましょう。

2月7日 マタイによる福音書21章1～11節

【分級展開例B】

王なるキリスト

私たちは何故、主イエスに従うことを絶対的務めと考えているのか。イエスが王でいらっしやるからである。かつて地上に王を名乗った者は数知れず、今も自ら任じる者が少なくない。しかし、真の王はイエスお一人である。地上の王の特質は、自らの権力、偉大さを誇示し人々を屈服させる。悪賢い王は、自発的に隷従させる。あるいは、宗教や宗教的な権威などを利用して、人々を自分の権力の道具とする。ところが王イエスは、いかなる人をも道具として利用しない。自分のいのちと富と権力を守らせるために兵士をして戦わせなどするはずもない。むしろ、自分お一人が兵士となって罪と死と戦い、十字架の死をもって死に勝利される。この王に属する者は神の国の民とされ、地上に平和をつくる戦いへと赴く者とされる。キリスト者こそ、地上の王である。柔和な王子、王女として唯一の王を証しする。

1. 動物の背中に乗ったことはありますか？
2. イエスさまは、エルサレムの町に入っていくとき、どんな動物の背中に乗られましたか？
 - ・ろばの子どもです。普通の王さまなら、大きくて立派な馬やかっこいい白い馬に乗って町に入ってきて来ます。それを見る人たちは、「すごーい。立派だ。強そう。かっこいい」と思います。ところがイエスさまは、よろよろして、危なっかしいろばの子に乗られました。
3. 乗られたろばの子はかわいそうではないですか？
 - ・きっとイエスさまは、心の中でこう仰ったと思います。「ごめんね。がんばってね。君は今、神さまのために、人間のために、どんな動物たちより祝福され、お役にたっているのだよ……。ありがとう！」
4. 何故、ろばは、イエスさまを乗せて歩き通せたのでしょうか？
 - ・分かりません。もしかするとイエスさまの力が働いて、倒れないように足を強くして下さったのかもしれない。体重を軽くさせたのかもしれない。ろばのがんばりとイエスさまの助けかもしれない。
5. 何故、イエスさまはろばの子に乗られたのでしょうか。
 - ・小さな子どもでも、イエスさまのお役に立てるし、イエスさまが必要とされるとき

があるということ。

- ・教会に子どもたちがいてくれることは、大人の人たち、教会の周りの人たちのために、ものすごく役に立っているのを知っていますか？ 考えてみて下さい。

6. 人々はなぜ、大喜びでイエスさまをお迎えしたのでしょうか？

イスラエルの王さまになって、国を強く、豊かにしてくれると、自分勝手な期待を持ったからです。

7. その通りになりましたか？

イエスさまはこの後、十字架で殺されました。

8. そんな力のない王さまはおかしくないですか？

いいえ。この王さまが十字架で死なれたのは、私たちが罪から救うためでした。私たちの身代わりになって死なれたのです。世界の王さまの中で、わたしの身代わりになって死んでくれる王など誰もいません。しかも、イエスさまは三日目に父なる神さまによって甦らされ、天に迎え入れられたのです。イエスさまは今も王さまとして生きて働いていますから、王さまの子どもらしく生きて行けるはずですよ。

2月7日 マタイによる福音書21章1～11節

【分級展開例C】

王なるキリスト

Bの序文参照。

1. ろばを見たことがありますか？
2. 動物の背中に乗ったことはありますか？
3. 動物の背中に乗っている人を見たことがありますか？
4. なんていう動物？ 馬。牛。らくだ。ろば。象……。荷物を運ぶ家畜。田畑を耕す家畜。
5. 人を乗せて「戦」をする家畜はなんでしょう？
 - ・馬です。昔、戦になれば馬は、武器として使われました。「軍馬」と言います。身分の高い人は馬に乗って戦いました。特別に偉い人は、白い馬に乗ったりします。
6. イエスさまは、エルサレムの町に入っていくとき、どんな動物の背中に乗られましたか？
 - ・ろばの子どもです。普通の王さまなら、大きな馬か白い馬に乗って町に入って来ます。そうして、力の強い、立派な王さまだと人々にみせつけるのです。ところがイエスさまは、普段は人を乗せないろばに、しかも、子どものろばに乗られました。よろよろして、危なっかしいのです。イエスさまは、ひどいことをされたのでしょうか。きっとイエスさまは、心の中でこう仰ったと思います。「ごめんね。でも、がんばってね。君は今、神さまのために、人間のために、どんな動物たちより祝福され、お役にたっているのだよ……。ありがとう！」
7. 何故、ろばでないとだめなの？
 - ・旧約聖書に預言されていたからです。（ゼカリヤ書9章9節）
 - ・イエスさまがどのような王さまなのかを、はっきりと教えるためです。
8. それを見た人たちは、イエスさまになんと仰いましたか？
 - ・「ダビデの子にホサナ」です。

9. どういう意味ですか？

・ダビデの子の救い主よ、救ってください。ばんざーい。

10. 人々はなぜ、大喜びでイエスさまをお迎えしたのでしょうか？

・イスラエルの王さまになって、国を独立させ、豊かにしてくれると自分勝手に期待したからです。

11. イエスさまは、この後、十字架で殺されますが、そんな力のない王さまはおかしくないですか？

・いいえ。この王さまが十字架で死なれたのは、私たちを罪から救うためでした。私たちの身代わりになって死なれたのです。世界の王さまの中で、誰が、小さなひとりのわたしの身代わりになって死んでくれるのでしょうか。誰もいません。イエスさまだけです。しかも、死なれたイエスさまは三日目に父なる神さまによって甦らされ、天に迎え入れられたのです。このイエスさまこそ、わたしたちの唯一の王さまです。そして、イエスさまは今も、同じ愛、同じ力、同じ思いで私たちのための王さまとなって、私たちを守り続けていて下さいます。この王さまのしもべとなるとき、この世界で私たちは王子や王女さまにされます。イエスさまのような強く優しい王さまとして生きて行けるのです。

2月14日 マルコによる福音書10章17～31節、子どもと親のカテキズム問34 【解説と黙想】

聖霊なる神・ただ恵みによって

今回の聖書箇所、イエスさまは意表をついたことを言われました。23、24節、「財産のある者が神に国に入るのは、なんと難しいことか」。当時、富は神さまからの祝福の証だと考えられていました。しかしイエスさまは、金持ちが天国に入ることは実質的に不可能だとおっしゃっているのです。「それでは誰が救われるのだろうか」と弟子たちが驚いたのももっともです。それ程天国に入るのは難しいということが明らかにされたのです。しかし、この重い言葉を前にしても、私たちは「自分は金持ちではないから関係ない。私なら天国に入れるかも」と考えるところがあるのかもしれない。それは、イエスさまの言葉を真剣に受け止めようとしていないということです。

ところで、私たちが生きていくために必要とされるもの／ことがあります。まずお金です。お金がなければ必要なものを手に入れることが出来ません。またお金以外に、読み書きや計算、それに工夫する力も大切でしょう。さらに自分の価値を人に認められ、自分でも認めるということも必要です。それらは皆、疎かにされてはいけなことです。

イエスさまが問題視されるのは、それらを持つことや、手に入れようと努力すること自体ではありません。財産や技術や経験や信用があればそれでこと足れりとしてしまい、それを根拠に天国に入れるかのように私たちが勘違いしてしまうことです。この世では一般的に、自分が納得出来る、そして世間もそのように認めてくれる人生を送ることが幸せな生き方とされています。

そのように人生を全うすることが出来れば何にも問題ない、とされるのです。また、死後の世界を信じる人でも、清く正しく生きるならば天国に入ると受け止められることが多いように思います。

しかし、イエスさまが金持ちを指して「財産のある者が神に国に入るのは、なんと難しいことか」と言われたのは、「人間に多少でも誇るものがあるならば、その人が天国に入ることは実質的に不可能だ」ということです。持っているものをわずかにでも頼りにするという事は、神さまを頼っていない証拠であり、自分に栄光を帰そうとしていることです。それは最も神の国から遠いことです。全ての人が神の国から遠い。私たちはまずそのことを知っておかなければならないのです。

カルヴァンは言っています。「自分がいかに貧しく惨めであるかを顧みるまでは、確かに神に相応しい栄誉を百分の一ほどもささげていない」(カルヴァン説教集3「恵みによって」p.19 キリスト新聞社)。このように、人間の中にある可能性を放棄することと、神さまの国に入ることは分けられないのです。

そのような私たちのためにイエスさまは、27節で「人間にできることではないが、神には出来る」とおっしゃっています。神さまは、私たちが神の国に入ることが出来るようにするためにイエスさまを遣わして下さったのです。そしてイエスさまの贖いの業を私たちに適応するために聖霊なる神さまを与えて下さっているのです。

(常石召一)

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問86～89、
ハイデルベルク信仰問答問60～62

2月14日 マルコによる福音書10章17～31節

【説教展開例】

聖霊なる神・ただ恵みによって

◇..... 単元のねらい◇

私たちは自分の中にある可能性に期待したいものです。そして自分の中にある力を誇りたいのです。しかしそれらがいかに大きいと思われても、天国に入れる資格を私たちに与えるものではありません。いかなる人間も自分の力や持ち物を根拠に天国に入ることは不可能なのです。イエスさまの恵みだけが私たちに救いに導きます。

「聖霊なる神さまの恵み」

皆さんは学校で算数とか国語とか生活（理科と社会）を学んでいると思います。なぜそのようなものを学んでいるのでしょうか？ それは大人になっていくためです。大人になっていくということは、出来るだけ一人でも生きていけるようになっていくということです。そのために学校の勉強は意味があるのです。

しかし学校で習うことを全部理解しなければ生きていけない訳ではなく、また学校で習うことさえマスターすれば生きることが出来るかと言えばそうではありません。他にも私たちが学ばなければならないことは沢山あります。本を読むことによっても、映像を見ることによっても、家庭でも学ぶことがあります。そのように学びながら生きる力を身に着けていって欲しいなと思います。

神さまが人をお造りになったのは、神さまと人が互いに愛し合う関係を造り出すためです。また、人と人が互いに愛し合い、互いに助け合って生きるためでもあります。神さまが皆さんをお造りになった目的に従って互いに助けあってもらいたいと思います。皆さんにいろいろと学んでもら

いたいのは助ける者となるためです。しかしいくら学んでも何でも出来るようになるわけではありません。出来ない時には他の人に助けてもらうことが必要です。私たちは助けて、そして助けられる、それが神さまの喜ばれる道です。ところで、どれほど頑張れば私たちは天国に行くことが出来るのでしょうか。

イエスさまの元に、一人の人がやって来ました。この人は、聖書を一生懸命に勉強し、聖書に記されている神さまの御命令を一生懸命に守っている人でした。神さまの御命令は十戒の中に特にぎゅっとまとめられています。殺すとか、盗むとか、父母を敬え、とかです。それらをこの人は熱心に守っていたのです。殺すなということは、命を奪ってはいけないということです。しかしそれだけではなく、生きることが出来るようにしてあげるということでもあります。許してあげたり、親切にしてあげたりして、助けてあげることです。盗むということも、盗まないだけではなくて、その人が持っているものが奪われそうになった時に守ってあげるということでもあります。

この人は小さい時から一生懸命に聖書の通りにしようとして来ましたが、本当にこれで天国に行くことが出来るのだろうか、と心配だったのです。そのように感じることはとても立派なことです。普通は、自分はまじめに頑張っているから天国に行けるのではないかと、と何となく考えてしまうものです。しかしこの人は、そこそこ自分にはちゃんとやっているけれども一方で自分には不十分な所がある、だから大丈夫なのだろうかと心配になったのです。これは鋭い感覚です。

それに対してイエスさまは言われました。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい」。イエスさまは、天国に行くためには私に従うことが必要、しかしその前に財産をすべて捨てる必要がある、と言われたのです。

この人はお金持ちでした。お金持ちになるためにこの人は頑張って勉強をして、そして働いて来たのでしょう。しかしそれを捨てなければならないと言われたのです。それでこの人は、がっかりして肩を落として帰って行きました。

その様子を見てイエスさまは弟子たちに言われました。「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか」。またこうも言われました。「金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」。らくだというのは人が砂漠を渡る時に助けになってくれます。らくだはとても大きな動物です。そのようならくだが針の穴を通ることが出来るはずがありません。イエスさまは、それよりも金持ちが神

の国に入る方がもっと難しい、と言われたのです。それは「絶対に無理だ」ということです。

生きるためにはお金が必要です。しかしイエスさまはお金持ちになったら決して天国に行くことが出来ないとおっしゃっているのです。では、どれ位持っていればお金持ちと言うのでしょうか？ 実は、イエスさまが問題にしておられるのは、お金を持っているかどうかではありません。何を頼りにして生きているのか、ということです。イエスさまの所にやって来たこの人は、お金を持っていることが自慢だったのです。頑張って来たとし、人から認められていること、持っていることが誇りだったのです。折角のものを手放すなどということは考えられなかったのです。

人はお金持ちではなくても、生きるために頼りにしているものがあるものです。自分は正しく生きているという自信を持っているのかも知れません。自分は他の人よりも優秀とか、人よりも努力家だとか、あるいは自分の容姿が良いとか、人から人気がある、家柄が良い、ということかも知れません。しかしそのようなものによって神の国には入ることは出来ないのです。らくだが針の穴を通る以上に難しいことであり、決して出来ないことなのです。

イエスさまは、人間には出来ないことをするために来られたお方です。イエスさまはこの後、十字架に架けられます。罪人として殺され、お墓に葬られるのです。しかしそれで終わりではありませんでした。復活なさって、天国へと昇って行かれました。イエスさまがなさったことは、私たちが死んで終わりになるのではなくて天国に行けるための道備えのためなのです。

イエスさまが十字架に架けられ復活なさったのは、今から2000年も前の、そして日本からかなり遠くの外国においてです。しかしだからと言って私たちと無関係ではありません。聖霊なる神さまによって、私たちは今もイエスさまに繋がる事が出来るのです。イエスさまを信じるようにさせられて、罪を赦され復活させられて、天国に行く事が出来る様にされているのです。

私たちが覚えたかったのは、私たちが天国に行く事が出来るのはイエスさまが十字架

に架かってくださったからということと、聖霊なる神さまが私たちをイエスさまに結び付けてくださるからということです。決して私たちが良い行いをするからではありません。私たちが良い物を持っているからでもないのです。

私たちは天国に行く事が出来るようにされています。その素晴らしいことが約束されていますので、みんなにはそのようにして下さった神さまに喜んでいただけるようにすくすくと成長してもらいたいと思います。(常石召一)

《今週の暗唱聖句》

人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ。

(マルコによる福音書10章27節)

2月14日 マルコによる福音書10章17～31節

【分級展開例 A】

聖霊なる神・ただ恵みによって

○実験 用意する物……フルーツグミ、一口サイズの氷（人数分）

- 1 こどもたちにグミを1粒ずつ手渡し、食べるように言う。
- 2 どんな味がしたかを話し合う。
- 3 今度は氷を1つずつ渡し、口の中に入れ、できるだけ長く入れておくよう言う。
- 4 氷を口から出し（かみ砕いてもよい）、その後もう一度グミを1粒食べるように言う。
- 5 どんな味かをたずね、味が変わった理由を話し合う。

○先生のおはなし

今日の聖書のお話で、一人のお金持ちの男の人がイエスさまのもとにやってきて、「永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか」とたずねました。まじめな人です。みんなと同じように、子どもころから聖書の教えに親しんで、十戒を守ってきました。殺すな、盗むな、奪い取るな……。イエスさまは、その人の顔を、優しくじっと見つめてこうおっしゃいました。「あなたに足りないものが1つある。持っている物を売り払って、貧しい人にあげなさい。そうすれば、天に宝物をつむことになります。それからわたしに従いなさい」それを聞いてその男の人は、がっかりして悲しみながら行ってしまいました。たくさんのお金を手放すことはできなかったのです。

氷で冷たくなった口の中では、おいしいはずのグミの味が感じられなかった。私たちの舌の感覚が麻痺していたんだね。私たちの心はどうでしょう？ 冷たく、麻痺してはいないでしょうか。温かい心でしょうか。困っているお友だちの気持ちが、わかるでしょうか。悲しんでいるお友だちの気持ちがわかるでしょうか。自分が楽しければいい、自分が勝てばいい、自分のことばかりを考えてはいけませんよ、とイエスさまはおっしゃいます。

○まとめ

今日のみ言葉を一緒に言いましょう。
「あなたに欠けているものが1つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々にほどこしなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それからわたしに従いなさい」

最後に一緒においしくグミをいただきましょう。

2月14日 マルコによる福音書10章17～31節

【分級展開例B】

聖霊なる神・ただ恵みによって

1. 天国の入り口はどれくらいの大きさでしょう

イエスさまのもとに大金持ちがやって来ました。お金持ちは神さまから祝福されているのでお金持ちになっているとみんなが信じていました。だからお金持ちはお金だけでなく神さまから祝福されていると自信まであります。自分は神さまから特別な恵みももらっているとお金持ちは思っていました。それなのにイエスさまはお金をしっかりと持ったまま天国にはいることはできないとおっしゃったのです。ガーン！ 宝物が山のようになっていて天国の入り口にひっかかるからでしょうか？ イエスさまは「財産のある者が神の国に入るのは、何と難しいことか」と「ラクダが針の穴を通るほうがまだラクダ！」とおっしゃいました。天国の入り口はラクダは入れるのに金持ちは入れない。どういうことでしょうか？ 最新のセンサーが天国の入り口についていてチェックしているのでしょうか。

2. 自分の力で自分を救うことはできない

イエスさまはお金持ちの男の人のことで何を問題にされたのでしょうか。イエスさまは大金持ちに自分の持ち物を全部売り払って、貧しい人たちに全部プレゼントするように言われました。そうすることは天国に貯金することと同じだと。それから自分についてくるようにと。でもお金持ちはがっかりして家に帰って行きました。どうしても自分の宝物を手放すわけにはいかないと思ったのです。

お金持ちはイエスさまがおっしゃった天国にはいるための約束の十戒をきちんと守って生きているツモリでした。でもそれは自分のために守っていたことが分かります。どうしてでしょう。もしもお友達を自分のように大事にきなさいという十戒の後半の教えを守っていたら、そもそもそんな大金持ちにならなかったはずです。きっとこの人は自分のことばかりに興味があって他の人たちが貧しく苦勞して生きていることが目に入らなかったのではないかな。

みんながお金持ちになるにはどうしたらいいのでしょうか。有名な政治家とお友達になる？ 株をやってみる？ そんなお金持ちにならなくてもいいって？ でもお金があればスイッチだって、カードだって、おもちゃや漫画なんでも買えるんだ。どうしてお金がなくていいんだらう。そのためには人一倍の努力が必要。努力が実れば大金持ちになれる。そして世界で一番のお金持ちになれば何でも手に入る！ でも一つだけ手に入らないものがあるんだ。それが天国。どんなにお金をもっているも天国への入場チケットは買うことはできない。逆にすべてもっているものを貧しい人たち、持っていない人にあげないと天国には入れないと言われているんだ。僕たちには大事なものがけっこうあ

んじゃないかな。全部プレゼントできるかな？ 全部だよ。イエスさまがおっしゃりたかったのは、人間の努力で天国にははいれないということ。

3. 神さまに委ねればいいんだ

それなら誰が救われるんだろうかという弟子たちに向かって、イエスさまは「人間にできることではないが、神にはできる。神はなんでもできるからだ」とおっしゃいました。自分の努力をやめて神さまに委ねるならすべてのことがチャンスになるのではないかな。天国の門は汗をかきかき草を分け入った秘境のジャングルにあるのではないのです。天国はどこからでも同じ距離。ドラえもののどこでもドアがあるでしょう。同じようにどこからでも天国につながるんです！ そのように僕たちを天国につないでくださるのが聖霊の神さまです。2000年前にほとんど地球の裏側で起こったイエスさまの十字架があります。隣町の小学生が昨日の夕飯に何を食べたのかは僕とはほとんど関係ない。それ以上に関係がないはずの2000年前の十字架の出来事がわたしのためだったとわかるのです。それが聖霊の神さまのお働きです。僕たちは宝物を手放せないと思っている。でも神さまが独り子のイエスさまをプレゼントしてくださったんだ。このことを知ったらお金持ちの人も気持ちが変わるかもしれませんね！

2月14日 マルコによる福音書10章17～31節

【分級展開例C】

聖霊なる神・ただ恵みによって

1. 天国には入場制限がある？

イエスさまのもとにやって来た大金持ち。当時、神の祝福で金持ちになっていると信じられていました。それなのにイエスさまはお金をしっかりと持ったまま天国にはいることはできないとおっしゃったのです。この金持ちはわたしと関係があるのかないのかを少し考えてみましょう。中学受験・高校受験・大学受験どうして受験をして学校に行くのでしょうか。そもそもそうになっているからですね。それも答えかもしれません。そうした目標に向かって努力すること。このお金持ちは、財産をもつようになるまでに相当な努力をしたということが似ています。昔も今も努力なしに金持ちにはなれないと思うからです。聖書もそうした財産をふやす努力自体を否定してはいません（参考：ウ大教理140～142問、ウ小教理73～75問）。だから私たちもこの金持ちと同じような部分がある程度もっているといえるのではないのでしょうか。人生に成功するにはどうしたらいいのでしょうか。有名な大学に入る。大企業入社。資格を取りまくる。政治家に立候補。反対に金持ちにならない選択もあります。でも自分が利用できる財産が十分にあることでいろいろと選択肢が広がります。どうしてこの金持ちはイエスさまのもとをがっかりして立ち去らなければいけなかったのでしょうか。自分の財産をすべて売り払い貧しい人たちに施して、イエスさまに従うように言われたからです。彼の財産が邪魔して天国の入場制限の条件にひっかかってしまったようです。

2. 自分の力で自分を救うことはできない

イエスさまは金持ちの男の人のそもそも何を問題にされたのでしょうか。イエスさまは彼に貧しい人たちに全部プレゼントするように言われました。そうすることは天国に貯金することと同じだと。金持ちはイエスさまがおっしゃった天国にはいるための約束の十戒をきちんと守って生きているつもりでしたが、でも結局のところ自分のために守っていたことが分かります。十戒の後半の隣人愛の教えを守っていたならば、そもそもそんな大金持ちにならなかったはずだからです。それとも生まれつき金持ちの家だったかもしれません。いずれにしてもこの人は自分の身近に生活に苦勞している人が目に留まらなかった。きっとこの人は自分のことばかりに興味・関心があり他の人たちが貧しく苦勞して生きていることに痛みを感じにくい人ではなかったかと思われまます。百万長者でも一つだけ手に入らないものがあるのです。天国です。どんな金持ちでも天国への入場チケットは買うことはできない。この金持ちにとって天国への入場券を手に入れることはすべての財産を手放すことと関係があります。イエスさまは人間の努力で天国にははいれないということを伝えようとしたのです。

3. どうしたら救われる？

それなら誰が救われるのか。イエスさまは「人間にできることではないが、神にはできる。神はなんでもできるからだ」とおっしゃいました。金持ちの男は努力や偶然や生まれよって成功した人物です。彼に欠けているのは、すべての賜物は神さまからという認識です。すぐ前の段落で（マルコ10：13～16）、イエスさまは「はっきり言うておく。子どものように神の国を受け入れる人でなければ、そこに入ることはできない」と。子どもはすべてプレゼントで生きています。そしてそのプレゼントに満足しています。この金持ちは恵まれた生活を続けることで、すべては神さまからのプレゼントで生きている自分という存在を忘れたのではないのでしょうか。努力する力や生まれ持った才能も神さまからです。そして何よりも救いが神さまからの一方的なプレゼントです。この一方的な救いを届けて下さるのも神さまです。教科書にでてくる聖徳太子、ナポレオンなどの名前、わたしの今の生活にほぼ関係ない。でも聖書を読むとき自分には関係ないはずの2000年前の地球の裏側のイエス・キリストの十字架の出来事がわたしのためだったとわかるのです。それが聖霊の神さまのお働きです。

2月21日 コリントの信徒への手紙一1章26～31節、子どもと親のカテキズム問35 【解説と黙想】

「聖霊なる神・キリストとの交わり」

【教理について】

私たちの救いについて、聖霊がどのように働かれるのかという問答です。私たちの外でなされたキリストの救いの御業を、私たちの内に適用してくださるのが聖霊の働きです。そのために、聖霊は私たちを作り変えてくださいます。すなわち、自分の罪を認めさせ、キリストへの信仰を与え、キリストと結びあわせてくださいます。「聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』とは言えないのです」(1コリント12:3)。逆に言えば、イエス・キリストを救い主と信じている人は、聖霊によって信仰を告白しています。

自分は本当にイエスさまを信じているだろうかと悩む時、聖霊が働いてくださったことを信じましょう。救いの告白は聖霊によってなされたからです。救いとはイエス・キリストが単独でなされた御業であり、その聖霊による適用です。すなわち、救いは徹頭徹尾神からの恵みとして与えられています。私たちは、神から与えられる救いを受け止めるだけです。

【テキストについて】

神の選びはこの世の基準と異なります。パウロが言うように、無学な者、無力な者を神はお選びになりました。翻って考えれば、神の愛は分け隔てなく与えられることが示されています。愛されるに足るべき者だけが愛されるわけではありません。自分では取るに足りないと思い、うなだれているような人も、神の目には高価で貴いことを思われます。

神が私たちをお選びになったのは、私たちが誇るべきことがないために、です。無力な者が選ばれたので誇りません。そして、有能であったとしても誇りません。優れた能力の故に選ばれたのでもないからです。神の選びは徹頭徹尾恩恵として与えられています。自分自身を誇ることはありませんが、救いを与えてくださった神を誇らしく思います。誇るべき神と無力な私たちとをつなぐのが聖霊です。

【黙想】

今日の箇所のキーワードは、「誇る」です。しかし、誇るといっても自分自身を誇るのではありません。自分には誇るべきところのないことは、今日の箇所の前半で述べられていました。

誇り得ない者、無力な者が、しかし神を誇ります。聖霊によってキリストに結び合わされたからです。こうして、キリストの義と聖とが私たちのものとされました。キリストを信じる人は救いを得ています。そして、信じる人は聖霊の働きを受けています。

私たちの救いのために、神がキリストを遣わし、キリストが十字架と復活の御業を成し遂げ、聖霊がキリストの救いの御業を私たちに適用してくださいます。このように、父、子、聖霊なる神が私たちの救いのために働いてくださいます。父、子、聖霊の間に連携があり、交わりがあります。私たちはただ、主なる神さまの豊かな交わりの中に入れられていることを感謝して、救いの恵みをいただくだけです。(後登雅博)

《参照聖句》 コリントの信徒への手紙一12章3節、ローマの信徒への手紙8章1節
《教理問答》 ウ小教理問答問30、31、ハイデルベルク問53

2月21日 コリントの信徒への手紙一 章26～31節

【説教展開例】

聖霊なる神・キリストとの交わり

◇..... 単元のねらい◇

神が救いへと選んでくださったことを感謝します。神の選びはわたしの能力によることではなく、神の恵みによるのですから、高慢になることはありません。まして、誰かを見下すこともありません。全く無条件に、神が救ってくださったことを喜びましょう。

「あなたが、わたしの誇り！」

皆さんは自分が自慢できることってありますか？ 走るのが早いとか、手先が器用とか、勉強が得意という人もいるでしょう。他にも、人に優しくできるとか、真面目とか色々ありますよね。ぜひ、自分の良いところをどんどん伸ばしてください。あなたの得意なことは、神さまがあなたに与えてくださった賜物です。

賜物とは、神さまからのプレゼントといえましょうか。神が、あなたのことを大切に思って、あなたにくださった大切な恵みです。ですから、あなたも自分の得意なことは、神さまからの賜物だと思って大切にしてください。神さまからそのような賜物が与えられていることは、素直に喜んで良いことです。

その一方で、今日の聖書にはちょっと正反対のことが書かれていました。聖書を読んでおきましょう。27節です。「ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選びました。」

神さまは、人に自慢できるようなものを持っていない人を選びました、と言われます。知恵がないのに、力も弱いのに、神は選ばれたと言われます。どうして？ って

思いますよね。

運動会のリレーの選手に選ばれる人は、走るのが早い人です。学級委員に選ばれる人は、勉強ができる人や真面目な人ではないでしょうか。わたしは中学生の時に図書委員に立候補したのに選ばれなくて悔しい思いをしたことがあります。図書委員に選ばれたのは、わたしよりも勉強のできる人でした。

そんな風に、人よりも勉強ができる人、力のある人の方が選ばれやすいです。しかし、神さまがお選びになる時には、私たちの選び方とは違うと言われます。どうしてでしょうか？ 27節に書いてありましたね。「知恵ある者に恥をかかせるため、力ある者に恥をかかせるため。」えー、つてびっくりしませんか？ 知恵のあることや、力のあることが、神さまにとっては選びのポイントにはなっていません。むしろ、誰かに誇れるようなものがなくっていいのだ、と言われます。どうしてですか。神さまこそが、賜物をお与えになるお方だからです。

神さまが与えてくださる賜物は、知恵や力だけではありません。祈ること、分け与えること、教えること、仕えること、愛す

ること。まだまだ他にもたくさんあります。神さまからのプレゼントですから、数え切れないぐらいあると言っても良いでしょう。

自分では、人に自慢できるような賜物も力もないと思うような人もいるかもしれませんが。そもそも、わたしの賜物ってなに？と思うような人もいるかもしれません。そんな賜物、わたしにも本当に与えられているのかしら？しかし、神さまが与えてくださる賜物の一番は、信じることです。すなわち、イエス・キリストを信じることです。神さまが私たちに一番与えたいと思っておられるプレゼントは、イエス・キリストを信じる心です。

キリストを信じるためには、人よりも知恵があるとか力が強いとか、あれができるとかこれができるとかいうことは、全く関係がありません。

イエスさまの弟子のペトロのことを考えてみましょう。この人は、特別に勉強ができたとか、誰が見てもうらやましいなと思うものをたくさん持っていたわけではありません。そう言って良ければ、どこにでもいる普通の人でした。有名人ではありませんでしたし、芸能人でもありませんでした。わたしと同じ普通のおじさん。

でも、キリストの弟子となつてからのペトロは、一生懸命イエスさまにお仕えしました。12弟子の中では一番弟子と呼ばれる人でした。

しかしこのペトロは、キリストが捕まった時には逃げてしまいました。いや、ペトロだけではありません。全ての弟子が逃げました。キリストを裏切って逃げてしまう弟子たちが、力ある弟子と言えますか。どこに出しても恥ずかしくないキリストの弟

子と言えますか。それでも、よく考えてください。弟子たちを選ばれたのは、イエスさまでした。つまり、私たちの方では何も誇ることはありません。誇ることがないどころか、せっかく選んでくださったイエスさまに対して、顔向けができないような弱さがあり、罪を犯してしまいます。

しかし、私たちに誇ることがなくても、罪があつて弱さがあつても、神さまの方が私たちを愛して、私たちを選んでくださいました。私たちにイエス・キリストを与え、私たちに救いを与えてくださいました。

人に自慢できるものがなくてもいいのです。自慢するどころか、自分でも自分が嫌になっちゃうよ、と言うかもしれません。しかし、人がどう言おうと、また、自分で自分のことをどのように思うとしても、神さまはあなたを愛しておられます。神さまの愛は、私たちが何をしたとか、私たちが何を持っているとか、そのようなこととは関係がないからです。

何は無くとも、神が私たちにイエス・キリストを与えてくださるからです。私たちのためにキリストを十字架にかけてしまうほどに、神は私たちを愛していると言われます。

私たちは神さまの愛を、イエス・キリストの愛をどこで知るのでしょうか。神さまはそもそも目に見えませんし、イエスさまも今や神の国におられて、私たちの目には見えません。

私たちは目に見える神を信じるのではありません。キリストの言葉によって、神の約束を信じます。今日の御言葉でいうと30節の前半です。「神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ」神さまが私たちをイエスさまに結びつけてくださったと

書いてあります。ここには出てきませんが、キリストと私たちを結びつけるのが、聖霊です。聖霊と言えば、イエスさまが約束してくださって、私たちのところに来られた助け主です。

やはり聖霊も目には見えません。しかし、私たちがイエスさまの名前を通して祈ることができるのは、聖霊の力によることです。聖霊の働きがなければ、誰もイエスさまの名前を呼ぶことができませんし、父なる神を求めることもできません。私たちが父、子、聖霊なる神を求めることができるのは、そもそも聖霊の働きによることです。

教会に来ていても、イエスさまのことがよくわからなくなることがあるかもしれません。しかし、そんな時は思い出してください。神さまが今までわたしを導いてくだ

さった！

神さまからの賜物もまだ見つかってないかもしれません。自分はダメだなあと思わされているかもしれません。でも、私たちが自分のことを誇る必要はありません。「誇る者は主を誇れ」(31節)と書いてあるからです。私たちが誇るべきは、わたしを選んでくださった神さまです。そして神さまが、そんな私たちのことを誇りに思っておられます。

教会に来ている私たちは、イエスさまと結び合わされています。イエスさまは、私たちのことをよく知っておられます。その上で、私たちを愛しておられます。誰がなんと言おうと、自分でどう考えようと、あなたは神の誇り、あなたが神の賜物です。

(後登雅博)

《今週の暗唱聖句》

従って、今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。(ローマの信徒への手紙8章1節)

2月21日 コリントの信徒への手紙一 1章26～31節

【分級展開例A】

聖霊なる神・キリストとの交わり

○活動（お話をしながら） 用意する物……袋（容器）に入った風船（できるだけ多めに）
みんなは神さまを信じていますね。父なる神さまがイエスさまを与えて下さって、僕たち私たちは、罪ゆるされて神さまのこどもにしてもらいました。すばらしいお恵みです。

（活動1）「ここに風船があります。好きなのを1つ選んでください。」

みんなそれぞれ好きな色の風船を選びましたね。さて、神さまも一緒です。神さまはみんなを選んで下さいました。今もっている風船は、あなただと思ってください。

（活動2）「ところで、風船、膨らませる？」

（実際にやらせてください。できない子の風船は、教師が代わりに）

（風船から手を放し、机の上に置かせてから）神さまが私たちを選んで下さったのはどうしてだと思う？ 僕たち私たちが、他の子どもよりもよい子だからでしょうか？ すごいところが、たくさんあるからでしょうか？ ……今からこの風船の私たちで、実験してみましょう。

（活動3）「先生が今からみんなのすばらしいところを言います。1つ言ったら、1息ずつ、ふーっと風船をふくらませて下さい。では始めましょう、風船を手にとってください。」（以下は例です）「みんなには、賢い知恵があります。はい、ふーっ」「みんなは、元気いっぱい走ったりとんだりできます。はい、ふーっ」「みんなは、すてきなおもちゃをもっています。はい、ふーっ」「みんなは、自慢のとくいわざがあります。はい、ふーっ」「だんだん大きくなってきました。手を離さないように気を付けて！」（なるべく大きくなるまで続ける）

風船のみなさんはどうなりましたか？ ずいぶん膨れました！ このままでは間違いなく破裂してしまいます。ふくらますのはお終いです。はい、みんな一緒に手を放して。（風船、飛んでいく。拾って席に戻る）

○まとめ

みなさんの風船は今、どんな様子ですか？ 新品の時と比べて、しわしわで元気がない、弱弱しい感じがします。みなさん、これが私たちが選ばれた理由です。こういう私たちを、神さまは選んで、イエスさまを与えて、神さまのこどもにして下さったのです。私たちはいつもこの神さまの大きな大きな愛に、守られています。

○祈り

2月21日 コリントの信徒への手紙一 1章26～31節

【分級展開例B】

聖霊なる神・キリストとの交わり

1. 得意なことはあるかな？

みんなの得意なことはなんだろう？ 逆上がり、ジャンプ、かけっこ、そうした運動が得意な人がいますね。しりとりが強い人がいるかもしれない。「ハシビロコウ……ウメイロモドキ……キハダマグロ……ロシアンルーレット！」みんなが知らない動物のことをいっぱい知っている人もいます。ピアノを弾けるお友達、ダンスが上手な人もいます。お友達と仲良く遊ぶことができる人もいれば、元気が良すぎてついけんかになってしまう人もいるかもしれません。そうしたみんなの持っているよいところはぜーんぶ神さまがくださったプレゼント（賜物）です（参照：ヤコブの手紙1章17節）。他の人からもらったプレゼントをまるで自分で作ったみたいにいばったらそれはへんでですね。でも神さまからのプレゼントではどこからももらったのか忘れてしまって、まるで自分が作ったみたいにいばることがおきやすいのではないかな。

2. 神さまの選び方

運動会でリレーの選手になる人はだいたい走るのが速い人ですね。それぞれのクラスで足の速そうな人が選ばれて、僕たちのクラスが勝ったぞ、とかつい夢中になってしまいます。でもそうしたリレーの選手を選ぶときに、「僕のそばにいる順」に選んだらどうなるだろう？ 遅い人もいるかもしれない。早い人もいるでしょうが適當すぎますね。これはもはや競争はできそうではないですね。神さまは救う人たちを選んでくださいました。その選び方が変わっているんです。「ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選らばれました」まだ続くよ「また、神は地位ある者を無力な者にするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです」ちょっと難しい言葉遣いかもしれません。神さまの選ぶルールは、ありふれたもの、特にすごいかんじではないもの。みんなが憧れるアイドルやスターみたいな特別な何かを持っている人だから神さまは救い選ぶのではないのです。コリント教会のメンバーはリッチな家庭の人は多くない。頭よきような人が特に多くもない。それなのにコリント教会にいる人たちは礼拝というものをしてみたいでみんな嬉しそうなんだ。リッチな人や頭よきような人からするとあいつたちは何にももっていないのにどうしてあんなに楽しそうにしているのか分からないのです。

3. 神さまからのプレゼント

どうしてコリント教会の人たちはそんなにうれしそうだったのでしょうか。それは教

会の人たちは一人一人が大事なプレゼントをもらっていたからです。イエスさまをいただいていたのです。このプレゼントはイエスさまは信じていない人には分からないことです。お金がいくらあっても、どれだけ頭がよくてもイエスさまの愛をしらないと心のどこかがいつもスカスカしているのです。コリントの教会の人たちのもらったプレゼントは次のように書いてあります。「キリストは神の知恵となり、義と聖と贖いとなられた」。ちょっと一言ではまとめられませんが、イエスさまは僕たちの代わりに十字架についてくださって、父なる神さまの怒りを代わりに引き受けて下さったということです。だから僕たちは何があっても怖がらなくていいのです。神さまといつまでも一緒にいきる永遠の命がもうはじまっているのだから。二千年前の十字架の出来事をぼくのこととして当てはめてくださるのが聖霊の神さまです。これは僕たちがよいことをしたから神さまが御褒美としてプレゼントをされたものではありません。僕たちがダメダメだったときに神さまが心を痛めて僕たちを助けて下さったのです。だから自慢はいらないのです。僕たちは救って下さった神さまにありがとうを言うこと。それが神さまを誇ることです。

2月21日 コリントの信徒への手紙一 1章26～31節

【分級展開例C】

聖霊なる神・キリストとの交わり

1. 自分の特技はなんだろう？

自分のできることはなんだろう？ 学校に行くとどうしても周りの人たちの視線が気になります。僕たちは大人になっていく間に自分は何ができて何ができないのかを次第に分かっていくのだと思います。最初は意気込んで何でもできるように思っている、大きな壁にぶつかることが人生にはあります。壁の前に立ちすくんだり、壁を押してみたり、壁に穴をあけようと思ったり。いろいろな方法で壁にアタックしていくなかで自分のできることが最初はぼやっと、そしてはっきりと見つかってきます。そして自分にはこうした良いところがあるというものをやがて発見することがあるでしょう。それは自分の努力の成果といたくなるものかもしれません。生まれ持った特別な力かもしれません。でもそうした努力も生まれつきの能力もどちらも神さまからのプレゼントなのです（参照：ヤコブの手紙1章17節）。たとえば他の人からもらったプレゼントをまるで自分の力で手にしたように自慢していて、ふとした瞬間にばれたらみんなから馬鹿にされることは間違いない。でも神さまからの賜物の場合どこからもらったのか忘れてしまって、まるで自分の才能や力のようにしていざることがおきるのではないのでしょうか。

2. 神さまの選抜基準

オリンピックの選手になるには生まれつきの才能に加えて、毎日の懸命な練習がなければ選ばれないでしょう。これでもかというほどの練習をすると僕たちもスポーツの大会の選手に選ばれることがあると思います。でも神さまの選抜基準はこうしたスポーツ選手を選ぶ時とはまるで違います。神さまは救う人たちを選んでくださいました。その選び方は風変わりです。「ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選らばれました」「また、神は地位ある者を無力な者にするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです」。ここにある神さまの選ぶ基準は「何物でもないこと」つまりありふれたもの、特にすごいかんじではないという基準です。憧れるアイドルやスターのような特別な才能があるから救いに選ぶのではありません。コリント教会のメンバーは裕福な出身の人は多くない。学問に秀でた人も多くはなかった。それなのにコリント教会にいる人たちには、他の人が持っていないものがあつた。それは喜びです。礼拝をしている人々は嬉しそうなのです。世の人たちはどうして教会の人たちが嬉しそうなのか理解ができないのです。

3. 神さまからのプレゼント

どうしてコリント教会の人たちには喜びがあったのでしょうか。それは教会に集う一人一人に大事なプレゼントが届いていたからです。それはイエス・キリストによる救いです。このプレゼントは目には見えません。だからイエスさまは信じていない人には分からないことです。お金がいくらあっても、どれだけ勉強をして頭がよくても分からない。イエスさまの愛を知らない人生は空しさから逃げられません。だから自慢するのです。でもそれは自画自賛ではないのでしょうか。コリントの教会の人たちへの賜物は次のように書いてあります。「キリストは神の知恵となり、義と聖と贖いとなられた」。義認、聖化、贖い。十字架のキリストからの恵みがあふれてコリントの教会に注がれたのです。神さまと共に生きる永遠の命が地上においてももうはじまっているのです。二千年前の十字架の出来事をわたしのこととして当てはめてくださるのが聖霊の神さまの働きです。これは私たちに才能や見どころがあったためのプレゼントではありません。僕たちが罪に死んでいた時、神が一方的に憐れんで僕たちを助けて下さったのです。だから自慢はする余地は100%ないのです。僕たちは救ってくださった神さまに感謝をあらわすこと。それが「誇る者は主を誇れ」というパウロの呼びかけではないのでしょうか。

2月28日 ヨハネによる福音書3章1～21節、子どもと親のカテキズム問36 【解説と黙想】

救いとは何か

子どもと親のカテキズム問36は救いの教理の中で非常に大切な「義認」と「子とされること」の二つの教理が述べられています。「救いとは何か」を考える上でこの二つの教理を避けることはできません。

・義認について

「義認」は16世紀の宗教改革者たちが大事にした教理です。私たちが救われるということの一つの説明の仕方と理解していただいていたと思います。

「義認」の教理を理解するうえで大事なものは、私たちが罪人であるということです。問36はまず、私たちが罪人であるという告白から始まります。罪人である私たちは自分で自分を救うことが出来ません。このような私たちの罪を償うためにイエス・キリストは十字架で死んでくださいました。そのキリストの十字架の贖いのゆえに、神は罪人である私たちを「無罪」として下さり、私たちをありのまま受け入れてくださる。それが「義認」です。

・永遠の命

また、問36では「罪の赦し」だけでなく「永遠の命」が与えられることが記されています。本日の聖書箇所ではヨハネ3章16節が選ばれていますが、ここの引用聖句と

して挙げられています。

イエス・キリストがこの世に来られた目的は信じる者に永遠の命を与えるためです。罪の赦しだけではありません。

イエス・キリストは私たちに永遠の命を与えるために、アダムが守れなかった律法を完全に守ってくださいました。それゆえに、私たちには罪の赦しだけではなく、永遠の命の道が開かれているのです。

・子とされること

「子とされること」は、子どもと親のカテキズムの中でも主題となっている教理であり、問3でも詳しく論じられていました。

「子とされる」教理においても、私たちが罪人であることを認識することが大切です。罪人であり、神の怒りを受けなければならなかった私たちが無罪とされ、神に受け入れられ「神の子」とされる。それが「子とされること」です。そして神の子であるということは神の似姿に創造された私たちの本来姿でもあります。神の子としてキリストと共に神から与えられるあらゆる特権と栄光を相続する身分に変えられています。それゆえに私たちは問36の後半で述べられているように、喜びと感謝に溢れて、神のことを「私たちのお父さん」とお呼びすることができるのです。（高内信嗣）

《参照聖句》 ローマの信徒への手紙5章16節、ガラテヤの信徒への手紙3章26節
 《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問33、34、ハイデルベルク信仰問答問56、60～64

2月28日 ヨハネによる福音書3章1～21節

【説教展開例】

救いとは何か

◇..... 単元のねらい◇

この単元のねらいは端的に救いとは何かということを明らかにすることである。ここでは「義認」と「子とされること」の教理が取り上げられる。イエス・キリストのお働きにより、罪人である私たちが無罪とされ、神の子として受け入れられていることを認識したい。

「無罪となり、神の子とされる」

皆さん、おはようございます。今日も教会に来てくれてありがとうございます。心から歓迎します。

教会の中でよく「救い」とか「救われる」とかいう言葉を聞くのではないかなと思います。一体、僕らは何から救われるのかな。「救い」っていったい何だろう？

子どもと親のカテキズム問36を開いて読んでみましょう。

問36 私たちのうちに与えられる救いとはどのようなものでしょうか。

答 神さまは、イエスさまのあがないによって罪人である私たちを無罪と宣言し、すべての罪を赦し、永遠の命を与え、神さまの子どもとして受け入れてくださいます。ですから、喜びと感謝にあふれて「私たちの天のお父様」とお呼びします。

いっぱい説明がしてあって少し頭が混乱するかもしれませんね。まず「救い」ということを考える時に、僕たちが「罪人」であるということが大切です。え？ 罪人って言われるほど、悪いことをしたことがない。そうだね。僕たちは警察に捕まるよう

な悪いことはしてないかもしれませんが。でも僕らは生まれながらに罪をもって生まれてくる罪人です。神さまの言うことが守れず、神さまをいつも傷つけてしまいます。また、神さまだけでなく家族やお友だち、クラスメイトも傷つけてしまいます。自分は悪いことをしていないと思っていても神さまの言うことを守れず、友達を傷つけてしまう。これが罪の怖いところです。

ですが、神さまはイエスさまを私たちのためにこの世界に送ってくださいました。それは罪人である私たちを救うためです。今日、開いた聖書の言葉はとても有名な言葉なので、みなさん、覚えてほしいと思います。ヨハネによる福音書3章16節です。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

神さまは私たちを愛してくださっているのです。私たちが罪人のままでいることを放ってはおられません。イエスさまは私たちのためにこの世界にこられて、十字架に架かってくださったのです。

少し怖いかもしれませんが、神さまは罪をお嫌いになるお方です。世の中にはルールを守らないと、それに相応しいペナルティというものが与えられることがあります。車を止めてはいけないうところに停めてしまったら、罰金を払わないといけません。それと同じく神さまは罪に対して相応しい罰を与えます。でも僕らは自分でその罰から逃れることはできません。自分で自分を救うことのできない僕たちのために、イエスさまは神さまの言うことをすべて守り、僕たちの代わりに十字架に架かって罪の罰を受けてくださいました。

そのことがあるからこそ、神さまは罪人である僕たちを赦してくださるのです。

ドラマとかアニメとかで裁判のシーンとかみたことがあるかな？ 裁判官が一人の人にに向かって「有罪！」とか「無罪！」とか言っているシーンを思い浮かべることができるのではないかなと思います。

僕たちは罪人でありながらもイエスさまのおかげで神さまから「無罪！」と宣言されています。私たちが「救われる」ということはまずイエスさまのおかげで僕たちが「無罪」になるということです。

そして、「救い」というのはただ僕たちが無罪になるということだけではなくありません。僕たちは罪赦され、無罪となって、神さまの子どもとされているのです。罪人であった僕たちは神さまの子どもとは言えな

い状態でした。そのような私たちが罪赦されて、神さまの子どもとして受け入れられたのです。

僕たちはただイエスさまのことを信じるだけでいいのです。「独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」と今日の聖書で言われています。ただイエスさまを信じるだけでいい。神さまは私たちのありのままを受け入れてくださいます。

イエスさまは神さまのことを「父」とお呼びしました。僕たちも神さまの子どもとされているので、心から喜んで、「お父さま」とお呼びすることができるのです。

家族とうまくいかないことがあっても、友達と喧嘩して学校に行きにくくなったとしても、友達を傷つけて落ち込んでしまうことがあったとしても、独りぼっちだったとしても、神さまだけはみんなを受け入れてくださいます。愛するイエスさまを十字架に架けさせるほどまでに僕たちの罪を悲しんで、僕たちを神の家族の一員にしてくださいました。僕たちは神さまに受け入れられている。このことがこの世界のどんなことよりも大きな喜びです。神さまの家族の一員になっていることを喜びながら、神さまのことを「お父さま」と呼んで一歩ずつ歩いていきましょう。神さまは今、その声を聞いてくださっています。

(高内信嗣)

《今週の暗唱聖句》

恵みが働くときには、いかに多くの罪があっても、無罪の判決が下されるからです。

(ローマの信徒への手紙5章16節)

2月28日 ヨハネによる福音書3章1～21節

【分級展開例 A】

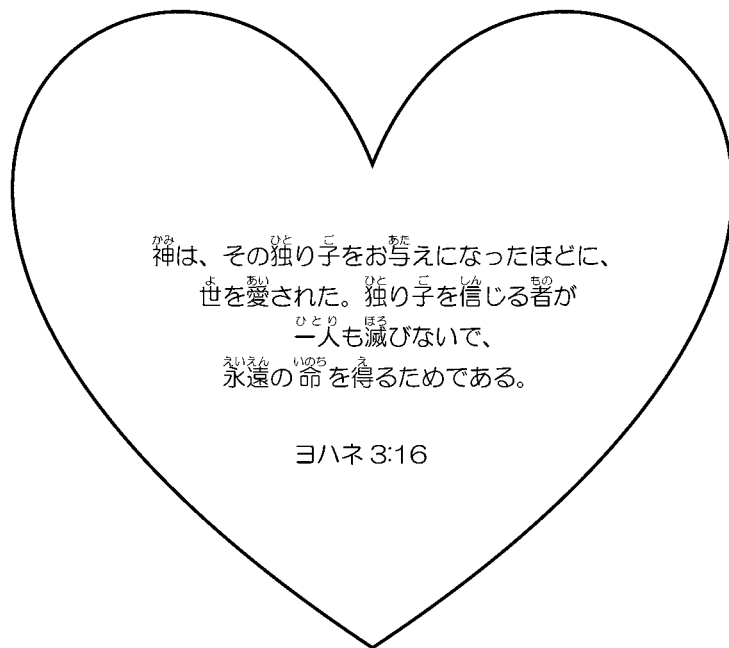
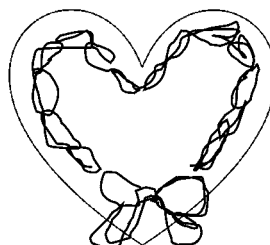
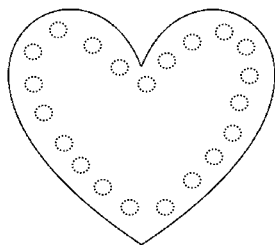
救いとは何か

○工作「みことばリースを作るう」

- ・下準備……白い画用紙に下図を拡大コピーし、ハート型に切り取る。
図①のように、パンチャーで穴をあける。→人数分を用意する
- ・その他用意する物……色鉛筆・クレヨンなど、穴に通る太さのリボンや毛糸数本

①色をぬったり、模様を描きます。

②穴にリボンや毛糸を通し、ちょう結びで完成です。



2月28日 ヨハネによる福音書3章1～21節

【分級展開例B】

救いとは何か

1. 上から生まれる？

イエスさまのところにニコデモさんというおじいさんが訪ねてきました。それも風がビュービューと吹く、夜中にやって来ました。なんでそんな日にわざわざやって来たのでしょうか。それもそのはず、ニコデモさんはユダヤ人たちの中では有名な議員さんでした。だからみんなが道を行き来しているときの行動は目立つのです。あえて人目を避けてイエスさまのところに来ました。ユダヤ人の中にはイエスさまのことをあまりよく思っていない人たちがいたので慎重にこっそりと行動しました。

でもそれだけ用心してでもイエスさまのところにニコデモさんがやって来たのは、どうしてもイエスさまに質問があったからです。イエスさまのなさっている素晴らしいお話、いやしの奇跡などはどうしても神さまから力をもらっていないとできないと思ったのです。そして自分はもうおじいさんでもうすぐ死ぬことを考えてしまう。でもどうも「救い」ということがいまちはっきりと分かっていなかった。イエスさまに聞けば解決しそうだと思ったのです。今さら知らないことを知らないって言えないことがあります。そんな他人に知られたくないことってありますね。

イエスさまは質問したニコデモに向かっておっしゃいました「はっきりしておく。人は新たに生まれなければ神の国を見ることはできない」イエスさまはびしっとニコデモの悩みの中心に話を持っていかれました。「新たに」は「上から」という意味もあります。おじいさんのニコデモはこの答えを聞いてびっくりしました。「人がもう一度生まれる？」それも「おじいさんが天から生まれる？」そんな話あり得ないでしょうと思ったのでした。

続けてイエスさまは「だれでも水と霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできない」とおっしゃいました。人は聖霊の神さまによって新しくされないと天国に入ることにはできないことを言われたのです。イエスさまはその後、風の話をしました。風がどこから吹いてきて、どこに吹いていくのかよくわかりません。同じように神さまからの聖霊も自由な働きをなさいます。この聖霊の神さまが人に働かれるとき、天地創造のときと同じような神さまの奇跡が人の心におよびます。罪に死んでいた本当に汚い心を聖霊の神さまが新しいものにしてくださるのです。

2. 神さまの子どもとされる

それにしてもおじいさんが「新しく」生まれるというイエスさまの言葉はびっくりしますね。つまりおじいさんなのに時計の針が逆回りするようにして神さまの「子ども」になるのです。どのようにしてそんなことができるのか。「神は、その独り子をお与え

になったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」(3章16節)。このイエスさまの言葉に秘密が隠されています。

テレビで裁判の場面を見たことがありますか。裁判官が「有罪！」とか「無罪！」と宣言をだしますね。私たちは罪びとで神さまの前に立つなら、父なる神さまから一言「有罪！」の判決を受けることになっています。でも私たちの父なる神さまは私たちに「有罪」の判決がくだるのをかわいそうに思われたのです。そこで何とわたしの代わりに、よりもよって自分の息子をわたしの代わりに「有罪」にしてしまった。息子とはイエスさまのことです。イエスさまがわたしの代わりに十字架についてくださったのです。こんな判決をだす裁判官はどこにもいない。でもそれが私たちの父なる神さまなのです。私たちが罪に滅ぶことを喜ばれなかったのです。

父なる神さまはそうにして私たちの罪をイエスさまの十字架によって許して下さるだけでなく、その上、私たちが神の子どもとしてくださいました。神さまの養子にしてくださいましたのです。神さまの家族の一員にしてくださいましたのです。そして聖霊の神さまを私たちの心に十分に与えてくださって神さまの子どもとされた喜びを味合わせてくださるのです。

2月28日 ヨハネによる福音書3章1～21節

【分級展開例C】

救いとは何か

1. 上から生まれる？

イエスさまのところにニコデモという老人の議員が訪ねてきた。それも風の吹きつける夜中。よりにもよってそんな日にどうしてやって来たのか。彼は議員であり秘密裏に行動したかった。

それだけの用心を払いイエスさまのところにニコデモが来たのには理由があった。イエスさまの言動が神の助けなしにはできないと思ったからです。自分は老人でもう時間は残されていない。しかし人生の問題が解決していない。救いを求めて生きてきて、人から羨まれるような立場も得た。が、人生ももう終わりが見えてきたのにも関わらず、救いについて確信がない。民の指導者なのに自信がない。彼は誰にも相談できないのです。嵐の夜、吹きつける風の厳しさは、生半可な求道心は萎えさせるに十分だが、ニコデモの心にある不安の火種を風はあおったのです。どうしても今夜、イエスさまのもとに向かうのだと。

イエスさまはニコデモに向かって言われる。「はっきり言っておく。人は新たに生まれなければ神の国を見ることはできない」イエスさまは老人の悩みの中心にためらわず進まれる。「新たに」は「上から」という意味もある。老人のニコデモはこの答えに驚く。「人がもう一度生まれる」老人、人生を重ねることで、新しいことは人生に何も起こらないことを覚えてきた。この世界に新しいことは何も起こりえない。それなのに自分が新しく生まれることがありうるのだと。このイエスさまの言葉はニコデモの心を震わせたことにちがいない。

続けてイエスさまは「だれでも水と霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできない」とおっしゃいました。聖霊によらなければ人は新しくされない、天国に入ることはできないとおっしゃるのです。イエスさまはその後、風の話をしました。二人は家の中で暴風の音を聞きながら対話をしていたことでしょう。イエスさまは言われる「風がどこから吹いてきて、どこに吹いていくのかよくわかりません。同じように聖霊も自由な働きをなさいます」と。この聖霊の神が人に働かれるとき、天地創造のときと同じ神の奇跡が人の心におよぶ。罪に死んでいた心が、聖霊の神によって新品にされるのです。

2. 神さまの子どもとされる

それにしても老人が「新しく」生まれるというイエスさまの言葉は驚きである。つまり老人が時間をさかのぼり赤ん坊になるような言葉だからだ。やはり老人が「子ども」になると言われている。それも神の子とされるのです。どのようにしてそんなことがで

きるのか。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」(3章16節)。このイエスさまの言葉に秘密が隠されています。

裁判では裁判官が「有罪！」や「無罪！」と宣言を出す。裁判官は宣言を出すだけの中立の立場にすぎない。私たちはどうだろう。私たちは罪びとであり、神から断罪されるしかない存在である。しかし私たちの父なる神は私たちに「有罪」の判決がくだるのを憐れんでくださった。身を乗り出し救ってくださる裁判官！　そこでこともあろうに私の代わりに、自分の息子を「有罪」にされた。息子とはイエス・キリスト。イエスさまがわたしの代わりに十字架についてくださった。このような判決をだす裁判官はどこにもいない。しかしそれが私たちの父なる神なのです。私たちが罪に滅ぶことを喜ばれなかったのです。

父なる神はそうにして私たちの罪をイエスさまの十字架によって許して下さるだけでなく、その上、私たちが神の子どもとしてくださいました。神の養子にしてくださいましたのです。神の家族の一員にしてくださいましたということです。そして聖霊の神を私たちの心に十分に与えてくださって神の子どもとされた喜びを十分に味わわせてくださるのです。

3月7日 詩編51篇1～21節、子どもと親のカテキズム問37【解説と黙想】

聖化の歩み」

①問37の位置付け

子どもと親のカテキズム問37は聖化を扱う。救われた私たち（問34、35）は神の子どもとして受け入れられる（問36）。神の救いは罪人に身分の変化を与えるだけに止まらず、聖霊によって神の子どもとしてふさわしい者となるように清めて下さる。これが聖化である。ウエストミンスター小教理問答において、聖化とは「罪に対してますます死んでいくこと」（問37）である。

ウエストミンスター小教理問答では、信仰を起こされた者に対する様々な「益」として、「義認」「子とすること」「聖化」の三つが並べられる（問32）。聖化は、キリストと結び合わされる（結合）ことにより与えられる祝福の一つである。

②問37の答え

(1)聖化は「聖霊においてますます」なされる

聖化もまた聖霊においてなされる神の御業である。神さまが救いの御業（義認、子とすること）を与えて下さったので、ここからは自力で聖なる者となっていこう、ということではない。

「義認」「子とすること」が一回きりの神の御業であるのに対し、聖化は継続的になされるものであるということが従来強調されてきた。しかし、聖化もまたキリストと結合されることによって起こる決定的な一回的な出来事として新約聖書が示しているという側面も見過ごしてはならない。（コ

リントの信徒への手紙一1章2節、6章11節）キリストとの結合という決定的な局面が継続的な聖化へと招くのである。

(2)「イエスさまの姿に似せられていく」

ウエストミンスター小教理問答（問35）には直接出てこない表現であり、子どもカテキズムの特徴と言える。義認の根拠がキリストにあることと同様、聖化の根拠もまたキリストにあることを示している（コリントの信徒への手紙一1章30節）。そして、聖であられるキリストに結び合わされた者を神は、「御子の姿に似た者にしようと定めておられ」（ローマの信徒への手紙8章29節）、実際に「主と同じ姿につくりかえられていく」（コリントの信徒への手紙二3章18節）のである。

聖化という恵みは自動的に起こるわけではない。聖化の道を歩むためには、「恵みの手段」である御言葉、祈り、（礼典）、を忠実に用いることが求められる。聖霊がそれを用いることにおいて 私たちは「イエスさまの姿に似せられていく」のである。

具体的には特に、主イエスが最も大切なこととして示された「神を愛すること、隣人を愛すること」において聖化を捉えることができるであろう。

③聖書箇所との関連

詩編51は、バトシェバとの姦淫の罪が預言者ナタンによって指摘された時のダビデの詩とされるものである。子どもカテキズ

ムの引照聖句とされるのは12節である。
 (「神よ、わたしの内に清い心を創造し新しく確かな霊をさずけてください」)

7節において、「母がみごもったとき」にすでに罪のうちにあったことが記されている。生まれながらの罪人は、自分で「清い心」を作ることはできない。

聖化は、人間がその進展をはっきりと測れるわけではない。聖化の進展とは、罪人の無力さを嘆き、ますます神へと依り頼むことであると言える。

④説教へ

- ・聖化の歩みとは集約すると、聖霊において「イエスキリストの十字架を見上げ続ける

こと」によりイエスキリストに似せられていくことである。

- ・聖化というテーマは、「良い子になりましょう！」という安易な道徳的倫理的メッセージになってしまう危険性が極めて高いテーマである。聖化もまた、神の御業であり、神の恵みであることを正しく位置付けたい。
- ・カテキズム自体には「聖化」という言葉は直接出てこないが、「聖化」という神学用語を子どもたちに教えておくことも重要なことだろう。(大宮季三)

《参照聖句》 ローマの信徒への手紙8章29節、コリントの信徒への手紙一1章30節、コリントの信徒への手紙二3章18節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答 問32、35、88

3月7日 詩編51篇1～21節

【説教展開例】

聖化の歩み

◇..... 単元のねらい◇

子どもと親のカテキズム問37を聖書に基づいて正しく理解し、「神さまの子ども」とされた私たちは、聖霊において「きよくされる」（聖化）恵みが与えられていることを知り、聖化の意味とプロセスを考え、聖化の歩みもまた「イエスさまの十字架を見続けて歩いていく」ことであると理解する。

「イエスさまを見続ける歩み」

①前回の復習と問37

今日も、子どもカテキズムを通して聖書の御言葉を学びましょう。先週の日曜日に学んだ問36では、神さまがイエスさまの十字架によって、私たちを神さまの子どもとして受け入れてくださるということが教えられました。ではその「神さまの子ども」である私たちがどのようになっていくかということが今日の問37で教えられます。

問37 救われて神さまの子どもとされた私たちは、どのようになりますか。

答 神さまの子どもとされた私たちは、私たちのうちに働く聖霊によって、ますますきよくされて、神さまの御子イエスさまの姿に似せられていきます。

②神の御子イエスさまに似る

神さまの子どもとされた私たちは、「神さまの御子イエスさまの姿に似せられていく」という神さまの恵みが与えられていくんですね。

みんなは「お父さんやお母さんに似ているね」と言われたことがありますか？先生はよく「お父さんに似ているね」と言われました。見た目だけではなく、ちょっとした仕草や言葉遣いも似ることがよくあります。お父さんやお母さんの子どもとし

て、一緒にいて、いつも見ているから似ていくんですね。それと同じように、イエスさまの十字架によって「神さまの子ども」とされた私たちは、聖書を通してイエスさまの姿を見て、イエスさまの言葉を聞いて、イエスさまの姿に似せられていくんですね。「ますますきよくされ」と書いてありますが、神さまこそが「きよい」お方です。私たちは「きよい」天のお父さんであられる神さまの言葉によって、「きよく」されていくんですね。

私たちが神さまの子どもとして「きよくされていく」この恵みを「聖化」と言います。

③聖霊による聖化

でも、「聖化」は自分が頑張ってはりきって「きよくされていく」というのとは少し違います。

問37の答えには何によって「きよくされる」と書いていますか？「私たちのうちに働く聖霊によって」と書かれていますね。「救いはイエスさまがなしてくださった」（問34）ということを中心に学びましたが、同じように、この「聖化」という恵みも、神さまによってなされるんですね。

さっき読んだ詩編51篇にはそのことが記されています。12節を読んでみましょう。「神よ、わたしの内に清い心を創造し 新しく確かな霊を授けてください」、詩編51篇は誰が書

いたのでしょうか？ 1節に書かれています。みんなもよく知っているイスラエルの王さまダビデですね。ダビデ王は、とても大きな罪を犯してしまいました。そして、その罪を神さまはもちろん知っておられて、ナタンという人をダビデの所に送って、それがどれほど大きな罪かということを教えられました。この時ダビデは「自分は本当に罪人だ」ということを強く強く教えられました。だからダビデは「これからは自分で清くなります！」とは言わないんです。言えないんです。「自分は罪人だ、罪を犯してしまう、自分の力では清くなれない……」だからこそ、ダビデは神さまに向かって「清い心を創造してください！」と神さまに対して真剣にお願いするんですね。

ダビデだけではありません。人間はいくら反省しても、また罪を犯してしまいます。人間は罪によって汚れているんですね。そして自分で「清い心」を造ることはできないんですね。私たちは自分の力できよくなるのではなく、神さまによってきよくされていくんですね。

④イエスさまの清めと洗いを知って

では、聖霊は私たちのうちにどのように働いてくださるのでしょうか？

私たちは神さまの子どもになっても、罪を犯してしまいます。イエスさまの十字架によって私たちの罪は赦されるということを学んできました。じゃあ、私たちはこれからも罪を犯し続けていいのでしょうか？ そんなことはありませんね。聖霊は私たちに「イエスさまの十字架がわたしの罪のためだったんだ！」とイエスさまの十字架を信じさせてくださいます。

その姿を知れば知るほど私たちはイエスさまに対して「ごめんなさい」「ありがとうございます」という思いがますます与え

られていきます。

みんなはお家や学校でお掃除を真剣にしたことがありますか？ もしみんなが真剣にお掃除をした所を、次の日にすぐに汚くされたらどう思いますか？ いやですよ。生活していくからやっぱり汚れていくんだけど、大切にできるだけきれいに使って欲しいと思いますよね。

イエスさまは罪という私たちの汚れを掃除するために真剣に命をかけて十字架にかかってくださいました。だからこそ、私たちは罪を犯してしまったら、イエスさまに自分の罪を「ごめんなさい」と真剣に言わないといけないですね。そしてイエスさまに「ありがとうございます」と感謝して、「イエスさまに従って行こう！」となりますよね。

聖霊が、特に聖書とお祈りを通して、イエスさまに対する「ごめんなさい」「ありがとうございます」という思いを溢れさせてくださいます。

イエスさまは最も大事な教えとして「神さまを愛することと隣人を愛すること」を教えられました。

聖霊によって与えられる「ごめんなさい」「ありがとうございます」という思いが、神さまを愛して、隣人を愛するというイエスさまの教えにますます生きるように導いてくださいます。

聖化というのは「おれは立派な神さまの子どもになったぜ！」と偉そうにすることは全然違います。聖霊によってイエスさまの十字架の姿を見ながら、自分は罪人だということを教えられて、「イエスさまごめんなさい」「イエスさまありがとうございます」と神さまの前に、隣人と共にますます生きていくことなんですね。お祈りしましょう。(大宮季三)

《今週の暗唱聖句》

わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。(コリントの信徒への手紙二3章18節)

3月7日 詩編51編1～21節

【分級展開例 A】

聖化の歩み

みんなは、いたずら描きをしたことがありますか？

先生は、小学生の時にベッドの横の壁に、クレヨンで大きく〇〇ライダーの絵を描いたことがあります。もちろん思いっきり叱られました。壁にクレヨンで描いたら消せないですよ。

紙に鉛筆で書いたら消せるよね。ホワイトボードにホワイトボードのペンで書いたものも消せるよね。どうやったら消せるか知ってるかな？

「消しゴム」「クリーナー」「ぞうきん」……

消すことができる絵は、消す道具を使えばキレイに消えますよね。

私たちの中の悪い心も消すことができます。それは、イエスさまの十字架です。みんなも、イエスさまに罪の心を消してもらいましょう

○「じのないほん」を作ろう

用意するもの：白い紙、クレヨン（黒、赤、黄）もしくは色紙（黒、赤、白、金か黄）糊

- 1) 白い紙をクレヨンで塗りつぶし、黒、赤、白、金（もしくは黄）の四種類の紙を作る。
- 2) 色のある側を谷折りにし、黒、赤、白、黄色の順になるように白い面を接着する。
- 3) 最後に白い紙で表紙をつける。

○「じのないほんのうた」をうたおう（ふくいんこどもさんびか 61ばん）

- (黒) つみによごれ くらいこころも
 (赤) しゅイエスさまの ちであらえば
 (白) しろいゆきのように きれいになり
 (金) かがやくてんの くへへゆる

メロディーは動画などを検索してください。

3月7日 詩編51章1～21節

【分級展開例 B】

聖化の歩み

聖書の中で罪をくいあらためた人について確かめてみましょう。

- ・その人はどんな罪を犯したでしょう。
- ・罪を犯した結果どうなったでしょう。
- ・その人はどんなふうに悔い改めたでしょう。
- ・悔い改めた結果どうなったでしょう。

※今日の聖書箇所のだビデの姦淫の罪は、子ども達への説明が難しく、犯した罪も極めて残虐な殺人なので、別の悔い改めの例を扱います。子ども達の年齢や理解度に応じて選択してください。

- ①ヨセフの兄たち：創世記37：11～34、44：18～34、50：15～21
- ②ヨナ：ヨナ書1：1～15、2：1～11
- ③放蕩息子：ルカによる福音書15：11～24
- ④ザアカイ：ルカによる福音書19：1～10
- ⑤パウロ（サウロ）：使徒言行録8：1～3、9：1～19

3月7日 詩編51編1～21節

【分級展開例 C】

聖化の歩み

私たちは神さまを信じて救われると言いますが、「救われる」って一体どんなことでしょうか？

先週、「子どもと親のカテキズム」の問36を読みましたが覚えていますか？

そこでは、私たちの救いについて、「無罪と宣言し……受け入れてくださいます」と書かれていましたよね。

ちょっと考えてみましょう。

私たちが何か悪いことをして、相手を怒らせたとします。どうしたら良いでしょうか？

素直に心から謝ることが大切ですよ。そうしたら許してもらえますでしょう。

でも、許してもらった後、前と全然変わらなかったらどうでしょう？

だめですよ。反省したら、心を入れ替えないといけません。

けれども、私もみんなも、そんなに簡単に、心を入れ替えることはできないですよ。

そこで神さまは素晴らしいことを考えてくださいました。

今日のカテキズムに書いてありました。

聖霊なる神さまが、私たちの心をきよくしてくださるんです。

私たちは、自分をきよくすることができませんけれど、神さまだったらできますよね。

では、きよくされた私たちはどうなるでしょう？

これもさっきのカテキズムに書いてありましたよね？

そうです。イエスさまの姿に似せられていくんです。

では、イエスさまに似せられるって、どういう風になるんでしょう？

(自由な発言を促す)

優しい、親切、他の人を助ける、奇跡を起こす、十字架につく。など。

3月14日 ルカによる福音書22章31～34節、子どもと親のカテキズム問38 【解説と黙想】

救いの確かさ

〈子どもと親のカテキズムの解説〉

子どもと親のカテキズムは問34から聖霊なる神さまのお働きによって私たちに与えられる救いの恵みについて語る。問38は「救いの確かさ」について、いわゆる「^{せいと}聖徒の^{けんにん}堅忍」の教理について教えられる。

ウエストミンスター信仰告白（以下、ウ告白）17章1節は、聖徒の堅忍について次のように定義する「神がその愛する御子において受け入れ、有効に召し、自らの霊によって聖とされた者たちは、恵みの状態から、全面的にも、また最終的にも、落ちてしまうことはあり得ず、その状態の内ですべて確実に最後まで堅忍し、そして永遠に救われる」。

つまり、聖徒の堅忍とは、聖徒（キリスト者）が世の終わりの救いの完成に至るまで支えられて信仰を堅く忍ぶ、ということ。これは一見、神の救いの恵みの根拠が信仰を堅忍する聖徒の行為にあるように理解されるかもしれない。しかし、聖徒の堅忍は、人間の自由意思に基づくのではなく、三位一体の神の御業に基づいている。ウ告白17章2節によると、聖徒の堅忍の確かさと間違いのなさは、①父なる神の自由で変わることのない愛から出てくる、選びの聖定の不変性、②キリストの功績と執り成しの有効性、③聖霊と神の種の彼らへの内住、④

恵みの契約の性質に基づく。

子どもと親のカテキズムは、この②と③を主にピックアップして、救いの確かさについて語っている。私たちの救いの確かさは、私たちの内にあるのではなく、私たちのために今も天で祈ってくださっているイエスさまと、私たちの内に住んでくださり、とりなしてくださる聖霊なる神さまにあるのである。そういう意味において、聖徒の堅忍は「選民の保持」（神が選民を救いへと確実に保持される）とも言われる。

〈聖書の解説〉

ルカ22：31～34は、主イエスがシモン・ペトロの裏切りを予告するシーン。ここで大事なことは、イエスさまがペトロに裏切らないように警告したのではなく、ペトロが裏切ることを知っていて語りかけられたこと。イエスさまはペトロが信仰生活に挫折することを知っておられ、その上で、「しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」(32節)と語りかけられたのである。弱い私たちのために、今もイエスさまが祈ってくださっていることを覚えたい。

(佐野直史)

《参照聖句》 ローマの信徒への手紙8章26～27節、31～39節、ペトロの手紙一1章5節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問36、ウェストミンスター大教理問答問79～81

3月14日 ルカによる福音書22章31～34節

【説教展開例】

救いの確かさ

◇..... 単元のねらい◇

子どもたちが、①どんな人にも信仰生活には挫折があることを知ること。②しかし、そんな弱い私たちのために祈ってくださるイエスさまがおられ、救いの完成まで守り導いてくださる神さまがおられることを知り、神の愛の中で信仰の歩みをなしていくことができるよう促すこと。

「わたしは本当に救われるの？」

今日も子どもと親のカテキズムを通して、私たちの神さまについて学んでいきましょう。カテキズムは問34から聖霊なる神さまのお働きによって私たちに与えられる救いの恵みについて語っています。前回は、神さまの子どもとされた私たちが、聖霊なる神さまのお働きによって、きよめられ、御子イエスさまのお姿に少しずつ変えられていく恵みについて学びました（問37）。今日はその続きです。

問38 弱い私たちは試練の中で神さまを疑い、神さまに背いて、罪を犯してしまいます。そんな私たちでもほんとうに救われるのでしょうか。

答 はい、救われます。イエスさまは、弱い私たちのために信仰がなくならないように祈り、聖霊は私たちのうちでとりなしてくださいます。神さまは、私たちを最後まで守り、必ず救いの完成へと導いてくださいます。

私たちは人生を歩む中で、良い時もあれば、悪い時もあると思います。勉強とか、スポーツとか、友達との関係がうまくいっているときは、「神さまありがとう！ あ

なたのことを信じます！」と思うけれども、逆に、何もかもうまくいっていないとき、「神さまなんか嫌い。神さまなんかいないんじゃないか。」とってしまうことがあるかもしれません。辛いことがあって、私たちの信仰が試されることを「試練」というのだけど、カテキズムに書かれるように、私たちは試練の中で神さまを疑い、神さまに背いて、罪を犯してしまうことがあると思います。

そして、そのような時、聖書には、救い主イエスさまを信じる人は救われる、と書かれていますから、神さまのことを信じることができず、神さまのことを疑ってしまう私たちは「救われないんじゃないか。神さまはわたしのことを見捨てしまわれるんじゃないか。」と思うことがあるかもしれません。今日のカテキズムはそんな私たちの問いに答えています。

カテキズムは語ります。神さまはそんな私たちをも救ってくださることを！ その理由として、①イエスさまが弱い私たちのために信仰がなくならないように祈ってくださっていること。また、②私たちの内に住まわれ、いつも共にいてくださる聖霊なる神さまが私たちの内できとらなしてくださ

ることがあげられます。この「とりなし」とは、いろんな状況の中で祈ることができなくなってしまった私たちの代わりに、聖霊なる神さまが父なる神さまに祈ってくださる、ということです。

このように、神さまは弱い私たちのために、イエスさまを送り、聖霊なる神さまを送り、そのようにして、私たちの信仰を最後まで守り、必ず救いの完成へと私たちを導いてくださる御方なのです。

イエスさまのお弟子さんの一人にペトロという人がいました。ペトロさんは十二弟子の中でリーダーのような存在で、誰よりもイエスさまのことを愛している自信があり、またそのために行動する覚悟がありました。彼は、イエスさまが十字架にかけられる前の夜、イエスさまとの最後の会話の中で、「たとえ、みんながあなたにつまづいても、わたしは決してつまづきません」（マタイ26：33）と言い、また「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」（ルカ22：33）と言うほど、イエスさまのことを愛していました。

しかし、そんなペトロさんも、その後大祭司の家でイエスさまが尋問されている時、周りの人々に「お前もイエスの仲間だ」と言われ、人々を恐れてしまい、鶏が鳴く前に三回イエスさまのことを否定し、イエスさまを裏切ってしまったしまいました。ペトロさんは「自分は信仰の強いクリスチャンだ」と思っていたかもしれませんが。しかし、自分の想像を超えた出来事が目の前で起こり、たちまち恐れと不安に支配され、ついにはイエス・キリストへの信仰を否定してしまったのです。

しかし、そんなペトロさんのために、イエスさまは十字架にかけられる前の夜、次のようにおっしゃいました。

「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけてを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」

（ルカ22：31、32）

「あなたの信仰が無くならないように祈った」、また「あなた立ち直ったら」と、イエスさまはおっしゃいます。つまり、イエスさまはペトロさんに裏切らないように注意したのではなく、ペトロさんが裏切ることを知っていて語りかけられたのです。イエスさまはペトロさんが信仰生活に挫折することを知っていました。その上で「あなたのために祈っている」とおっしゃったのです。

ペトロはこの言葉を語られたときは、その意味が分からず、イエスさまに反論しました。しかし、イエスさまのことを三回「知らない」と言い、鶏が鳴いたとき、この言葉の意味がよく分かったのだと思います。そして、「イエスさまはこんなにも自分のことを愛してくださっているのに、わたしは裏切ってしまった」とペトロさんはとても後悔したのだと思います。

ペトロさんはその後、信仰生活に挫折しましたが、復活されたイエスさまと再び出会い、信仰を取り戻しました。イエスさまの祈りのおかげで、ペトロさんは神さまへの信仰を失うことがなかったのです。

私たちも試練の中で、ペトロさんがそう

であったように、イエスさまのことを愛している自信があり、「自分の信仰は大丈夫」と思っている、自分の想像を超える辛いことが起こり、一瞬にして、信仰が揺らいでしまうことがあるかもしれません。「神さまのこと大好きです」と言っていたのに、苦難の内におかれ、「神さまなんて知らない。イエスなんて知らない」と、神さまのことを否定してしまうことがあるかもしれません。

しかし、救い主イエス・キリストは今も天におられ、そんな私たちのために、祈りをささげてくださいています。私たちの信

仰が無くならないように、支えられるように祈ってくださいています。また、イエスさまの霊である聖霊なる神さまも私たちの内に住んでくださり、私たちといつも共にいて、私たちの信仰が守られるように助け導いてくださいます。そのようにして、神さまは私たちの信仰を最後まで守り、必ず救いの完成へと私たちを導いてくださるのです。

私たちの信仰と愛は弱く、揺らぎやすい、小さく、不確かなものです。しかし、神さまの愛と真実はそれにはるかに勝って、大きく、確かなものなのです。（佐野直史）

《今週の暗唱聖句》

あなたがたは、終わりの時に現されるように準備されている救いを受けるために、神の力により、信仰によって守られています。（ペトロの手紙一1章5節）

3月14日 ルカによる福音書22章31～34節

【分級展開例 A】

救いの確かさ

みんなは、お買い物に行くのは好き？

どこに行くかな？ スーパー？ ショッピングモール？ おもちゃ屋さん？

誰と行くのかな？ お母さん？ お父さん？ おばあちゃん？

先生も、お買い物に行くのは好きです。子どものころも先生のお母さんとお買い物に行きました。

でも、ある時、お店でお母さんとはぐれてしまったことがあります。迷子になっちゃいました。

みんなは迷子になったことがあるかな？ そのときのことを覚えているかな？

ひとりっきりで、どこへ行ったらいいかわからないと不安ですよ

そんな時に誰かが一緒にいてくれたり、「こっちだよ」と教えてくれたら安心ですよ。

私たちがひとりっきりの時も、神さまはいつも一緒にいてくださって守ってくださいます。不安な時、神さまが私たちを助けてくださいます。

お買い物の時はお母さんと離れないようにすることが大切ですけれど、神さまと一緒にいてくださることも大切ですから、忘れないようにしましょう。

3月14日 ルカによる福音書22章31～34節

【分級展開例 B】

救いの確かさ

シモン・ペトロ（ケファ）の半生を確かめ、神さまの救いの確かさを確認してみましょう。

ルカによる福音書

- 5：8 イエスさまとの出会いと、罪人の自覚
- 6：14 十二人に選ばれ、イエスさまからペトロ（ケファ）と名付けられる
- 9：20 弟子を代表してイエスさまを告白する
- 18：28 弟子としての模範的な姿勢
- 22：54～62 最大の試みと挫折

ヨハネによる福音書

- 21：15～19 再びイエスさまから遣わされる

使徒言行録

- 2：14 弟子たちを代表して福音を語る
- 4：19, 20 イエスさまにだけ従うことを告白する
- 12：7, 8 神さまに守られ、救い出される

ガラテヤの信徒への手紙

- 2：11～14 パウロに批判される

ペトロの手紙一

- 1：3～9 神の力によって守られていることを証言する

ペトロの手紙二

- 3：14～18 主の忍耐深さを、救いと考える。パウロとの意見の一致

3月14日 ルカによる福音書22章31～34節

【分級展開例 C】

救いの確かさ

今日のお話で、神さまが私たちのことを必ず最後まで救ってくださるという教えのことを、ちょっと難しい言葉で、「聖徒の堅忍」と言います。

このことばは、オランダの改革派教会で作られた「ドルトレヒト信仰規準」という文書から出てくる言葉です。

ドルトレヒト信仰基準には、全部で五つのことが書かれています。それらを英語で言ったものの頭文字をとって、「チューリップ (TULIP)」って覚えるんです。

- 1 全的墮落 (Total depravity)
墮落後の人間はすべて腐敗しており、自らの意志で神に仕えることを選び取れない。
(子どもと親のカテキズム 問24)
- 2 無条件的選び (Unconditional election)
神は無条件に特定の人間を救いに、特定の人間を破滅に選んでいる。
(子どもと親のカテキズム 問25)
- 3 限定的贖罪 (Limited atonement)
キリストの贖いは、救いに選ばれた者だけのためにある。
(子どもと親のカテキズム 問32「私たちの罪のつぐないのために……」)
- 4 不可抵抗的恩恵 (Irresistible grace)
選ばれた人間は、神の恵みを拒否することができない。
(子どもと親のカテキズム 問34「ただ聖霊なる神さまの働きによって……」)
- 5 聖徒の堅忍 (Perseverance of the saints)
いったん予定された人間は、最後まで堅く立って耐え忍び、必ず救われる。
(子どもと親のカテキズム 問38)

※予定論の議論は、常に「二重予定」「遺棄」の問題に触れることになります。子どもの理解具合を見て、触れないようにした方が良いでしょう。触れる場合も、恵みの部分に重点を置いて触れるようにしましょう。

小中学生であれば、「チューリップ」という言葉だけを耳にするだけで良いでしょう。

参考資料：

『創立50周年記念宣言 予定についての信仰の宣言』およびその関連図書

『ドルトレヒト信仰規準研究—歴史的背景と信仰規準とその神学的意義』牧田吉和

3月21日 マタイによる福音書25章1～13節、子どもと親のカテキズム問39 【解説と黙想】

再臨・天国を目指す歩み

最後の審判と御国の完成

キリストに結ばれて、聖霊に聖化され、御父の子どもとされた私たちは、いよいよ神の国を目指して歩み進めていきます。問39では、その道中でどんなことが起こるのかが教えられています。そこで起こることは、私たちの想像をはるかに超える出来事です。

この世が終末を迎える時、天におられるイエスさまは再び地上に来られます（再臨）。それは、天使を通してイエスさまの弟子たちに告げられていたことでした（使徒1：11）。イエスさまはご自分の弟子たちの目の前で天に昇られましたが、同じ有で再び地上においでになります。

イエスさまが地上へ再び来られる理由は、最後の審判が行われるためです。この世には最後の審判があります。全人類は、漏れなく神の裁きの前に立たされるのです。これはイエスさまご自身も何度も警告しておられたことですから、信仰と恐れをもって受け入れなければなりません。しかし、これこそ罪の世に生きる私たちにとっての慰めでもあります。

ウ信仰告白では、世の終わりと主の再臨と死人の復活と最後の審判とは同じ日として告白しています。イエスさまが再び地上に来られた時、私たちはよみがえらせられ、それぞれの地上の業に応じて裁かれ、そしてこの世の最後また完成となるのです。

イエスさまを待ち望む時間

私たちには、この裁きを待つ時間をどのように過ごしていくのかが問われています。

イエスさまご自身も「目を覚ましていなさい」と命じておられます。私たちは地上において、終末に向かって積極的に進んでいくことが求められます。神の救いに与っている者でありつつも、常に裁きに対する備えをして、緊張感ある生活をしていくのです。

なぜなら、主はいつおいでになるか誰にも分からないからです。たった今、この瞬間にイエスさまが来られたとしても、「お待ちしていました」と快く主を迎え入れられる日々を生きることが望ましいのです。

こうした信仰生活は、怠惰を捨て去り、緊張感の中で自分に鞭を打つような時間のように感じられるかもしれません。しかし一方では、私たちが罪と誘惑から守られて、逆境を生き抜く慰めとなります。

希望に満ちた賛美を伴う歩み

だから、その歩みは決して気難しいものではありません。最後の審判において、主が私たちに降りかかるあらゆる問題や困難から救い出してくださいと信頼することができるからです。この世での誤解や不当な扱いを主がきちんと裁いてくださると安心することができます。

終末信仰に生きる時、私たちはこの世の困難や苦しみの中で、もう一度奮い立って、主をお出迎えする生き方へと進んで行くことができます。それは、神への賛美にあふれる生き方です。私たちは希望をもって、今を生きることができるのです。

（三川共基）

《参照聖句》 フィリピの信徒への手紙3章14節
《教理問答》 ウェストミンスター信仰告白33章

3月21日 マタイによる福音書25章1～13節

【説教展開例】

再臨・天国を目指す歩み

◇..... 単元のねらい◇

イエスさまがいつ来られても良いように、信仰の火を燃やし続けるあり方を共に学ぶ。

「信仰の火を燃やし続ける」

①備えよ常に

「備えよ、常に」という言葉を聞いたことはありますか？ ボーイスカウトのモットーです。同じような意味のことわざで「備えあれば憂いなし」というものもあります。どちらの言葉も、日頃から準備を十分に整えていれば、いざという時に何が起きても心配無用であるという意味があります。イエスさまは譬え話を通して、そのことを弟子たちに教えられました。

②10人のおとめの譬え話

ここには10人のおとめが登場します。彼女たちにはとても大切な役目が言い渡されていきました。その役目とは、結婚式で花嫁の介添人です。今、10人のおとめは、花嫁を迎えに訪れる花婿を出迎えるために、火を灯したランプを持って待っていました。けれども花婿の到着が遅れてしまい、おとめたちは眠り込んでしまいました。ようやく花婿が到着したのは真夜中でした。おとめたちは掛け声によって起こされ、花婿を出迎えます。けれどもだいぶ時間が経っていたために、ランプの火は消えていました。半数の賢いおとめたちは予備で持っていた油をさして火を灯しますが、残りのおとめたちは何の準備もしていなかったために慌てふためいてしまいました。

花婿が到着し、いよいよ花嫁を迎え、華やかな婚宴が始まります。この時、前もって準備をしていた賢いおとめたちは、花嫁を晴れ舞台を着飾り、共に婚宴の席に着くことができました。けれども、何の準備もしていなかった残りのおとめたちは、花嫁の晴れ舞台を台無しにしないでなく、婚宴の席に立ち入ることを禁じられてしまいました。

③聖霊によって信仰を燃やし続ける

イエスさまはこの譬え話から、私たちの信仰のあり方について教えられます。ランプが手元にあっても、油がなければ、火はすぐに消えてしまいます。イエスさまを信じる信仰を持っていても、それをずっと燃やし続けていく聖霊がいなければ、私たちの信仰の火はすぐに消えてしまいます。だから、私たちは自分の信仰の火が消えてしまうことのないようにと、常日頃から聖霊を送ってくださるようにと祈り続けるのです。

私たちの信仰の火は自分ひとりで燃やし続けることはできません。聖霊が私たちの信仰を燃やし続け、輝かし続けてくださるなければなりません。

④目を覚ましている

なぜ、私たちは信仰の火を燃やし続けていかなければならないのでしょうか。それは、この地上にイエスさまが再び来られるからです。イエスさまが再び来られる時、同時にすべての人が神さまの御前で罪を裁かれます。そして、イエスさまを信じる者とそうでない者とに分けられ、イエスさまを信じる者だけが神の国へと招かれていきます。この時、聖霊によって信仰が燃えていなければ、私たちはその神の国の祝宴に立ち入ることができません。そして、花婿が真夜中にやってきたように、その時とはいつ訪れるのか誰にも分かりません。だからイエスさまは「目を覚ましていなさい」とお命じになられるのであり、私たちは常日頃から聖霊によって信仰を燃やし続けて

いただくように祈り続けるのです。

常日頃から信仰を燃やし続けていくというのは大変なことかもしれませんが、いつも世の終わりのことを考えるというのは、緊張してしまいます。しかし、ずっと準備に準備を重ねて、イエスさまを「お待ちしていました」と迎えることができたらどれほど喜ばしいでしょう。こうした準備の時間によって、私たちは自分自身をあらゆる誘惑や罪から守るすべとなり、苦しい時を通りぬいていく慰めとなります。そのようにしてイエスさまは私たちのことを最後の日まで歩み通すことができるよう導いてください。だから、信仰の火を燃やし続ける歩み今日も続けていきましょう。

(三川共基)

《今週の暗唱聖句》

だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。

(マタイによる福音書25章13節)

3月21日 マタイによる福音書25章1～13節

【分級展開例 A】

再臨・天国を目指す歩み

燭台のイラスト（分級展開例B参照）を見せて、燭台とはどんなものか説明しましょう

○燭台運びゲーム

用意するもの：大きいスプーン2本、ピンポン球4個

- 1) 二チームに分かれます。
- 2) 燭台に見立てたスプーンに、炎に見立てたピンポン球を乗せて、部屋の片側からもう一方まで、往復します。
- 3) スピードよりも、どちらのグループが「落とす回数が少なかったか」を競います。
- 4) 球を落とした時、チームのみんなが予備の球を渡して助けてあげましょう。

3月21日 マタイによる福音書 25章1～13節

【分級展開例 B】

再臨・天国を目指す歩み

当時の燭台について、結婚式について、例え話の背景を学びましょう
(参照、新聖書辞典、いのちのことば社 イラストも)

○燭台（灯明皿、オイルランプなどとも）

小さめの器で灯心を出す口が一個から複数個付く。持ち運びできるように取っ手の付いたものもある。蠟燭と違い油を補充さえすれば長時間灯を維持できる。皿状のものの上をすっぽり覆い、灯心を通す口と灯油を注ぐ小さな穴を開けたものがあり、新約時代は後者が一般的。

燭台のイメージ（新聖書辞典「ともしび」の項目）

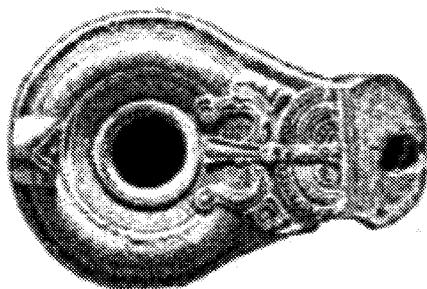


図128 陶製のともしび皿。ユダヤの枝のついた燭台の飾りがある。紀元2～3世紀頃

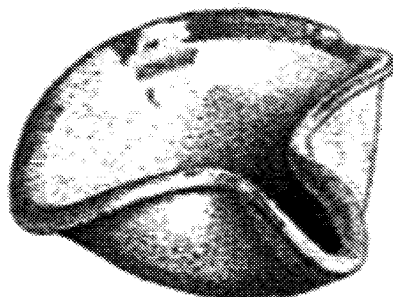


図129 鉄器時代のともしび皿。ゲゼル出土。前900年

○結婚

聖書の中に結婚式の形式についての説明は見当たらない。聖書の記述や、現代のイスラエルや中東の習慣、その他の文献などから類推する。

- ・花嫁花婿は、それぞれの家で美しく着飾って準備を整える。
- ・花婿には友人たちが付き添い、花嫁にも付き添うおとめ達がいる。
- ・花婿と友人たちが花嫁を迎えに行く。花嫁とおとめ達は花嫁の家で迎えを待っている。
- ・花婿が花嫁を伴って花婿の家に戻り、祝宴が始まる。
- ・祝宴は数日から十数日に及ぶこともある。

3月21日 マタイによる福音書25章1～13節

【分級展開例 C】

再臨・天国を目指す歩み

終末と再臨に関係する聖書の箇所を確かめてみましょう

再臨と審判マタイによる福音書 25：31～46

コリントの信徒への手紙一 15：23, 24

ヨハネの黙示録 20：12

聖徒の堅忍マタイによる福音書 28：20

コリントの信徒への手紙一 1：8

フィリピの信徒への手紙 1：6

ペトロの手紙一 1：5

終末の希望ローマの信徒への手紙 15：13

終末について（「私たちに目標があるということ」について）考えてみましょう

- ・ 終わり「目標の達成や評価」があるのとないのとではどちらが良いと思いますか？
- ・ やり直しが効かないとしたら、慎重になりますか？
- ・ どうしても失敗してしまう時はどうしたら良いでしょう？
- ・ 神さまは失敗を責める方でしょうか、失敗ないように助けてくださる方でしょうか？

※ある程度自由に考えてもらう、発言してもらうことは有益です

あまり極端な意見になった場合は、「そうかな？」「こんなことはどうだろう」と穏やかに誘導できると良いでしょう。

参考図書：

『創立60周年記念宣言 終末の希望についての信仰の宣言』およびその関連図書

3月28日 マタイによる福音書27章32～56節

【解説と黙想】

十字架のキリスト

1. 十字架刑

今朝はイエスさまが十字架につけられる場面です。十字架刑とはローマ式の処刑法ですが、ローマの刑罰の中でも最も過酷な処刑方法だと言われます。あまりにも過酷であったため、この刑罰を受けるのは強盗や一部の政治犯に限られており、ローマ市民は一人も十字架刑にされたという記録はありません。

十字架刑を受ける罪人は、十字架につけられる前に、むち打ちの刑を受けます。ローマのむち打ちは、縄跳びのようなひもでビシッとされるわけではなく、鉄の玉（鉄球）の入った革の鞭で、何回も何回も鞭打つものでした。鉄の塊りが皮膚に食い込んでいきますので、肉はむき出しになり、骨が折れることもあったとされます。エウセビオスという三世紀の歴史家の著作『教会史』によれば、「鞭打たれた者の血管がむき出しになり、筋肉、腱、内臓までもが飛び出しかねない」残酷なものでした。このようにむち打ち刑だけでも体はボロボロになりますから、イエスさまが途中で十字架を担げなくなったのも無理はありません。(32節) 十字架につけられる前に、イエスさまの体は、肉が見えるほど皮膚は裂け、流血しという状態だったのでしょうか。

十字架刑における直接の死因は、窒息だと言われます。最後は息ができなくなって死に至るのです。さらに、十字架刑は最も恥ずべき屈辱的な刑でもあります。衣服も、下着まではぎ取られて（ヨハネ福音書19：23）、長い時間さらし者にされ、徐々に苦しくなって、死に至ります。イエスさまはこのように、罪人として十字架で死なれたのです。

2. 十字架から降りない救い主

ここには十字架上のイエスさまをのしる人々の声が記されます。「神の子なら、自分を救ってみろ。十字架から降りて来い」(40節)。「今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう」(42節)。

これはイエスさまが受けた最後の誘惑と言えるものでしょう。彼らはののしりながら、神の御心を阻止しようとするサタンの役割を果たしています。もしイエスさまが十字架から降りたらどうなるでしょう。御子キリストがわたしたちの罪を背負って十字架で死なれるのでなければ、私たち罪人たちが救われる道は閉ざされるのです。救いの道を開くために、イエスさまは十字架から降りることはありませんでした。最後のサタンの誘惑に勝利されたのです。

3. 私たちの身代わりの死

「そして、十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きるようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされました」(1ペトロ2：24)

わたしの代わりにイエスさまが、あの残酷な、屈辱の刑罰を受けてくださいました。そして、呪われた者となってくださいました。もしイエスさまの十字架がなかったならば、私たちが神に呪われた者だったので。「律法の書に書かれているすべての事を絶えず守らない者は皆、呪われている」(ガラ3：10)。

イエスさまが私たちが死ぬべき罪人としての死を代わって死んでくださいました。私たちの代わりに神に拒絶され「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と叫ばれたのです。(小橋口貴人)

3月28日 マタイによる福音書27章32～56節

【説教展開例】

十字架のキリスト

◇……………単元のねらい……………◇

イエスさまの十字架は、私たち罪人を愛する神さまの愛がどれほどのものであるのかをダイレクトに知ることができるところです。私たちの身代わりとして十字架につけられたイエスさまのお姿を学び、これが自分のためであったと子どもたちが覚えることができるように。自分は神さまにこんなにも愛されているのだと、子どもたちが心で神さまの愛を受け取ることができるように祈りながら備えましょう。

「わが神、わが神、なぜ……」

受難週

イースター前の一週間です。この一週間を受難週と言います。イエスさまがいよいよ十字架への道を歩まれた最後の一週間です。今朝は十字架につけられたイエスさまのお姿を通して、神さまの愛を一緒に学びましょう。

イエスさまのご生涯はどういうものだったでしょうか。使徒信条を思い出してみましょう。「我はその独り子、我らの主イエス・キリストを信ず」「主は聖霊によりて宿り、処女マリアより生まれ……」その次は覚えていますか？「ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ」ですね。マリアよりお生まれになって、約30年間のすべてをとばして、使徒信条はすぐに「苦しみを受けられた」と告白します。それは、イエスさまのご生涯は一言で言えば苦しみのご生涯だったということです。そしてその苦しみの頂点が十字架につけられたことです。

十字架刑

みなさんは、十字架って何か知っていま

すか。教会の屋根とかについていますね。イエスさまは十字架につけられて死なれましたけれども、どういう人たちが十字架につけられたのか知っていますか。簡単に言うと、すごく悪いことをしてしまった人たちが十字架につけられます。悪い人たちが受ける罰の一つです。最も厳しい罰でした。

マタイ27章26節をみんなで読んでみましょう。「そこで、ピラトはバラバを釈放し、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した」。イエスさまは十字架につけられる前に鞭打ちの刑を受けました。それから、ゴルゴタの丘まで重い十字架を背負わされて歩いたわけです。当時のむち打ちというのは、何か縄跳びのようなひもでビシッとされるわけではなくて（それも痛いでしょうけれども）、鉄の玉（鉄球）の入った革の鞭で、何回も何回も鞭打たれるというものでした。そうすると、想像するだけでも気持ち悪くなってしまいそうですが、鉄の塊りが、皮膚に食い込んできますので、肉はむき出しになり、骨が折れることもあったそうです。もうイエスさまの体は、この時点でボロボロでした。

そんな鞭打たれて、血を流しているイエスさまが、重たい十字架を担いで長い距離を歩けると思いますか。イエスさまは途中で十字架を背負えなくなっていました。そこで32節を見るとシモンという人が代わりに背負ってゴルゴタというところまで十字架を運びました。イエスさまは歩くだけで精いっぱいだったのですね。ようやくゴルゴタという所に着くと、そこでイエスさまは十字架につけられました。

わたしの身代わりになられたイエスさまの愛

どうしてイエスさまがこんなに苦しまなければならなかったのでしょうか。十字架というのは、すごい悪い罪を犯してしまった人が受ける刑罰です。どうしてイエスさまが十字架刑を受けなければならないのでしょうか。何か悪いことをしてしまったのでしょうか。

Ⅱコリントにこのように書いてあります。「罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです」(コリ二5:21)。イエスさまは何も罪を犯されなかったけれども、神さまはたちのためにイエスさまに罪を負わされましたということです。つまり、イエスさまは私たちの身代わりに十字架の刑を受けてくださったのです。それは、私たちがその苦しみを受けなくて済むためです。わたしを救うために、イエスさまがわたしの代わりに鞭打たれ、血を流され、十字架で死んでくださいました。

みなさんはヘレン・ケラーという人のことを聞いたことがありますか。目が見えない・耳も聞こえない・言葉を話すのも困難

という障害をもって生まれてきた女性です。クリスチャンです。目が見えなくて聖書も読めず、耳も聞こえなくてお話を聞くことができない彼女が、どのようにしてイエスさまの十字架の愛を知ったのでしょうか。

ヘレン・ケラーは最初は野生児と言われていたほど、手の付けられないすぐに暴れてしまう子どもだったようです。そこにサリバン先生が家庭教師として送られてくるんですね。目も見えない耳も聞こえない、すぐに暴れまわるような彼女が、どのようにしてイエスさまの十字架の愛を知って、変わっていったのでしょうか。

こういう話が残っています。サリバン先生が幼いヘレン・ケラーをひざの上に乗せて、「愛とは何ですか？」と質問しました。問われたヘレンはこう答えたそうです「サリバン先生が初めてわたしの家に来てくださった時、わたしの頭の上に何か温かいものが流れ落ちました。それが愛です」。サリバン先生は、ヘレン・ケラーを自分の膝の上に乗せて、抱きしめながらよく泣いたそうなんです。その涙が、ヘレンの頭の上や、膝の上に落ちました。目が見えなくても、耳が聞こえなくても、ヘレンはその涙の温かさを通して、愛を知っていったんですね。そしてイエスさまの愛も、やがて感じ取っていったわけです。

同じように、わたしのために苦しまれ、十字架で血を流されたそのイエスさまの温かい血に触れるならば、私たちもイエスさまの愛を知ることができるのではないのでしょうか。

わが神、わが神、なぜ……

こんな罪人のわたしを救うために、イエ

スさまは十字架につけられ「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」(45節)と叫ばれました。十字架につけられて死ぬというのは、父なる神さまから見捨てられ切り離されることだからです。イエスさまはそれがとてもつらかったのです。でもそれは私たちの身代わりの叫びでした。本当は私たちが「なぜわたしをお見捨てになるのですか」と叫ばなければ

ならないのです。

しかし、わたしのために十字架につけられたイエスさまが流された温かい血潮に触れるときに、私たちは「わが神、わが神、どうしてこんなわたしを愛してくださるのですか」と祈ることができます。受難週は、そこまでしてくださった神さまの愛を感謝して、示される罪を悔い改めながら過ごしましょう。(小橋口貴人)

《今週の暗唱聖句》

彼が刺し貫かれたのはわたしたちの背きのためであり彼が打ち砕かれたのはわたしたちの咎のためであった。

彼の受けた懲らしめによってわたしたちに平和が与えられ彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。(イザヤ書53章5節)

3月28日 マタイによる福音書27章32～56節

【分級展開例A】

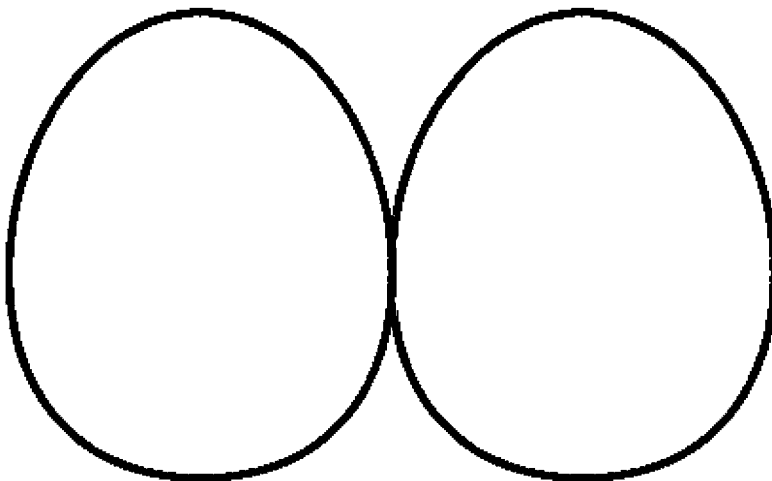
十字架のキリスト

イースターを待つ一週間を過ごすことができるように。

○イースターエッグカードを作る

用意するもの：厚手の紙、はさみ、色を塗る道具

- 1) 下図の卵のデザインを紙にコピーします
- 2) 二つの卵を切り離さないようにハサミで切り取ります。
(小さい子どもはあらかじめ切っておいて渡すのが良いでしょう)
- 3) 内側には、メッセージ（感謝の言葉、お祝いの言葉、ハッピーイースターなど）
表側にはイースターエッグの模様を描きましょう
- 4) 二つを閉じて一週間教会に飾り、来週のイースターにみんなで開きましょう。



3月28日 マタイによる福音書27章32～56節

【分級展開例B】

十字架のキリスト

関連する聖書の箇所を開いてみましょう

「木にかけられた死体は、神に呪われたもの」(申命記21:23)

「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」(詩編22:2)

「わたしの着物を分け、衣を取ろうとしてくじを引く」(詩編22:19)

「罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです」(コリント二5:21)

「人はわたしに苦いものを食べさせようとし、渴くわたしに酢を飲ませようとしています」

(詩編69:22)

次の質問について考えてみましょう

十字架につくことは、他の死に方に比べて何が違いますか？

イエスさま自身に十字架につかなければならない理由がありましたか？

イエスさまがどうして十字架につけられたのでしょうか？

イエスさまにとって十字架につくことは平気だったのでしょうか？

イエスさまが十字架についたことは事前にどこまで準備されていたのでしょうか？

3月28日 マタイによる福音書27章32～56節

【分級展開例C】

十字架のキリスト

十字架刑はとても残酷な刑罰であることを理解することは、贖いと復活の理解のためにも有益です。ただし、年齢などによっては過剰に不快感を感じるかもしれません。配慮は必要です。

十字架刑についての説明

(参照：新約聖書 I 「マルコによる福音書 マタイによる福音書」、岩波書店用語解説「十字架」)

ローマ帝国では、奴隷の重罪者ないしは属州の反逆者に対してのみ行われた処刑法。最も忌まわしい屈辱的な殺され方とみなされていた。刑の前に激しく鞭打たれ、その後十字架の横木を背負って町を引きずられ、刑場まで歩く。手首に釘を打ち込む、ないしは固定され縦木の上に据えられる。刑に処された者は通常1～2日で窒息ないしは血液量減少性ショックによって死に至る。その後死体は共同墓地に投げ込まれるか、禽獣の餌食にされた。

<p style="text-align: center;">1月3日</p> <p>生涯<small>しょうがい</small>の日を正しく<small>ただ</small>数えるよう に教えてください。知恵ある 心<small>こころ</small>を得ることが出来ますよう に。 【詩編 90:12】</p> 	<p style="text-align: center;">1月10日</p> <p>マリアは男の子<small>おとこ</small>を産む。その 子をイエスと名付けなさい。 この子は自分の民を罪から救 うからである。【マタイ1:21】</p> 	<p style="text-align: center;">1月17日</p> <p>キリストは、神の身分<small>かみ みぶん</small>であり ながら、神と等しい者である ことに固執しようとは思わ ず、かえって自分<small>じぶん</small>を無<small>む</small>にして、 僕<small>しもべ</small>の身分<small>みぶん</small>になり、人間<small>にんげん</small>と同じ 者<small>もの</small>になりました。 【フィリピ2:6,7】</p> 
<p style="text-align: center;">1月24日</p> <p>「キリスト・イエスは、罪人<small>つみびと</small> を救うために世<small>よ</small>に来られた」と いう言葉<small>ことば</small>は真実<small>しんじつ</small>であり、そ のまま受け入れるに値<small>あた</small>いま す。わたしは、その罪人<small>つみびと</small>の中 で最たる者<small>もの</small>です。 【テモテ1:15】</p> 	<p style="text-align: center;">1月31日</p> <p>わたしの名<small>な</small>によって何かを願<small>ねが</small> うならば、わたしがかなえて あげよう。 【ヨハネ14:14】</p> 	<p style="text-align: center;">2月7日</p> <p>あなたがたには世<small>よ</small>で苦難<small>くなん</small>があ る。しかし、勇気<small>ゆうき</small>を出しなさい。 わたしは既に世<small>よ</small>に勝<small>か</small>って いる。 【ヨハネ16:33】</p> 
<p style="text-align: center;">2月14日</p> <p>人間<small>にんげん</small>にできることではない が、神<small>かみ</small>にはできる。神は何で もできるからだ。 【マルコ10:27】</p> 	<p style="text-align: center;">2月21日</p> <p>従<small>したが</small>って、今<small>いま</small>や、キリスト・イ エスに結ばれている者<small>もの</small>は、罪 に定められることはありません。 【ローマ8:1】</p> 	<p style="text-align: center;">2月28日</p> <p>恵<small>めぐ</small>みが働くときには、いかに 多く<small>おほく</small>の罪<small>つみ</small>があっても、無罪<small>むざい</small> の判決<small>はんけつ</small>が下されるからです。 【ローマ5:16】</p> 

3月7日

わたしたちは皆、顔の覆いを
のぞかされて、鏡のように主の栄
光を映し出しながら、栄光か
ら栄光へと、主と同じ姿に造
りかえられていきます。これ
は主の霊の働きによること
です。 【コリント二3:18】



3月14日

あなたがたは、終わりの時に
あらわされるように準備されて
いる救いを受けるために、神の
力により、信仰によって守ら
れています。

【ペトロ一1:5】



3月21日

だから、目を覚ましていなさ
い。あなたがたは、その日、
その時を知らないのだから。

【マタイ25:13】



3月28日

彼が刺し貫かれたのは わた
したちの背きのためであり
彼が打ち砕かれたのは わた
したちの咎のためであった。
彼の受けた懲らしめによって
わたしたちに平和が与えられ
彼の受けた傷によって、わた
したちはいやされた。

【イザヤ53:5】



2021年4～6月カリキュラム (第81号)

—救済史に基づく2年サイクル 第1年—

月 日 教会暦・行事		子どもと親のカテキズム	参照教理問答
	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元 の 目 標		
4月4日 復活祭	復活のキリスト	—	ウ小教理問28
		ヨハネ20：24～29	ヨハネ20：27
復活の勝利によって救いが成就。生けるキリストを語る。			
4月11日	死後の祝福	問40	ウ小37、ウ大86
		ルカ23：39－43	テサロニケー5：23a
私たちは死で終わらず、死の時、魂は神と共に、体は墓の中で復活を待ちます。			
4月18日	体の復活	問41	ウ大87,90、ウ小38、ハイデル57,58
		黙示録21：1－4	ローマ6：5
「完成された御国」で、体の復活の祝福を得て、讚美と喜びにあふれる日を信じて生きよう。			
4月25日	教会と共に歩む道・ キリストの体	問42	ウ告白25、26章
		1コリント12：12－26	1コリント12：27
教会共同体を完成させ、世の空気に流されない個人を鍛える無二の価値を持つキリスト教信仰を説こう。			
5月2日	母なる教会による 命の養い	問43	ウ小29－31
		詩編131編1－3	詩編131：2
教会の礼拝において神は臨在を明らかにし、母なる教会で私たちを養ってくださる。			
5月9日	教会の使命	問44	ハイデ32
		マタイ28：18－20、ルカ10：25－37、創1：28	マタイ28：19,20
教会は、神の使命を果たすために地上に建てられた。三つの使命を果たす時教会は祝福の基となる。			
5月16日	教会を建てる聖霊	問45	ウ小59、ウ大116
		ヨハネ20：19－23	ヨハネ20：19
主イエスは、復活日の出合いの体験を、主日ごとに、繰り返して下さる。イエスさまに会える喜びの礼拝を。			
5月23日 聖霊降臨祭	聖霊なる神・ キリストとの交わり	—	
		使徒2：1－13	使徒1：8
聖霊により教会が始まった。教会を建てて民を養われる神への感謝に招く。			
5月30日	主の日の祝福	問46	ウ告白21、ウ小88
		使徒20：7－12	ネヘミヤ8：10e
神はご自身の喜びを満すため私たちに礼拝に招かれる。真心を込めて、その喜びに与ろう。			
6月6日	恵みの方法	問47,48	ウ小85,88、ウ大153,154
		使徒2：43－47	使徒2：42
神様は恵みを与える手段を私たちに備えてくださった。大切にこの手段を用いよう。			
6月13日	恵みの方法	問49	ウ小89,90、ウ大155－160
		使徒20：17－38	ヤコブ1：21
御言葉をイエスさまを指し示すものとして読み、語りかけて下さる主に聞きしたがって歩もう。			
6月20日	礼典の恵み	問50	ウ小91－93、ウ大161－164、ウ告白27
		マタイ28：18－20、 マタイ26：26－29	コリント一11：24
見えない神は、信仰の弱い私たちのために見える物を通して、信仰を養って下さる。礼典に招こう。			
6月27日	洗礼の恵み	問51	ウ小94、ウ大165,167、ウ告白28
		ガラテア3：26－29	ガラテア3：27
洗礼によって私たちはキリストの死と復活に結ばれ神の子とされる。一方的な神の恵みに感謝しよう。			

大会教育委員会

「教会学校教案誌」

継続発行のための

50万円 自由募金のお願い

弊誌のためにお祈りとご購読をもってお支え下さいます事を、心から感謝するとともに御礼を申し上げます。

大会教育委員会の重要な使命と任務は、日本キリスト改革派教会独自の教案を作成することです。そのために委員会は、なにより「内容」を磨くことに全力を注いでおります。しかしそのためには、教案誌の「安定的発行」が不可欠です。

かつて執筆者には1000円の図書券を贈呈し、最低限の礼を尽くしてまいりました。現在は、何の御礼もさしあげていません。ひとえに誌代を維持したいからです。ギリギリの厳しい状況がつづいています。自由募金に積極的にご参加ください。

教会だけではなく、個人としてのご協力をも伏してお願い致します。

Soli Deo Gloria!

※ 購読申し込みは、西堀 元（熊本伝道所：✉ boribori89@gmail.com）

〒862-0924 熊本県熊本市中央区帯山2-13-74 ㊚フックス (096)382-7630

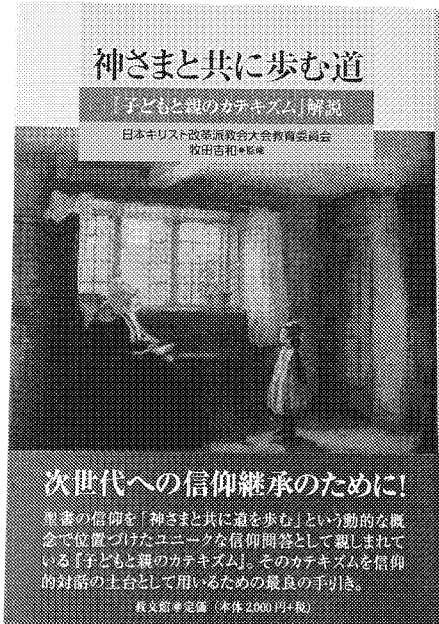
お問い合わせは、相馬伸郎 (iwanoue@me.ccnw.ne.jp) まで。

目標金額 50万円

送金先 郵便振替 00190 - 4 - 451670

日本キリスト改革派教会大会教育委員会

大会教育委員会 出版物ご案内



神さまと共に歩む道

「子どもと親のカテキズム」解説

牧田吉和・監修

聖書の信仰を「神さまと共に道を歩む」という動的な概念で位置付けたユニークな信仰問答として親しまれている「子どもと親のカテキズム」。そのカテキズムを信仰的対話の土台として用いるための最良の手引き。(帯より)

定価：2,000円

(改革派内の方は消費税分・送料無料)

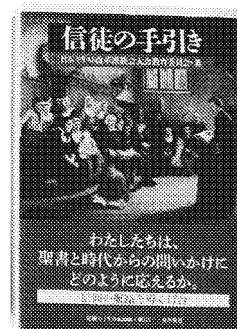
既刊書籍



子どもと親のカテキズム

— 神さまと共に歩む道 —

定価：500円



信徒の手引き

定価：2,200円

(改革派内価格：2,000円)

申し込み先：rcjkyoiku@gmail.com

〈あとがき〉

●コロナ禍の中で子どもの教会の働き、とりわけ伝道活動は激変を余儀なくされていると思います。名古屋岩の上教会も喘ぎつつ、しかし、新しい取り組みも始めています。「子どもごはん」の代わりに「子どもおやつ」と称して教会前での軽食の配布。YouTube を用いての待降節からクリスマスまでの毎週の配信等。祈っていればアイデアと奉仕者が起こされることを再確認させられています。 (相馬伸郎)

●「コロナ時代における教会活動について」という緊急寄稿をいただきました。企画した春の段階では「懐かしく振り返る文章になるかな」と思っていたのですが、むしろコロナ真っ只中での掲載になりました。教会はなお暗中模索状態です。良い知恵が与えられますように祈ります。 (長田詠喜)

●執筆をお願いしても断られることが多くなり、編集作業も困難を極めています。

足りないことも多くあり申し訳ないと思いますが、あと一年、どうぞこの奉仕を依頼します方々が、心と力を尽してその任に当たってくださるようお願いいたします。

(小川 洋)

●「朝と夕べの出で立つところには喜びの歌が響きます。」(詩編65：9)。まるで日勤を終えた太陽が、夜勤の月に向かって「神様を礼拝！」と伝言を言っているようです。闇が深くなる季節。確かにある恵みが、み言葉に照らされ見出されますように。

(西堀 元)

●コロナ対策の活動縮小によって主日の食事会ができないのが痛手です。

独り暮らしの兄弟姉妹が多い現状で、教会の愛餐会には大切な役目があるように思います。 (牧野信成)

●10月に大会の仮承認いただいた教育委員会報告に記しました通り、『教会学校教案誌』は、2021年12月に発行される84号で、定期刊行物としての発行を休止することとしました。休刊後のカリキュラムの提供方法などを現在検討しています。各個教会の教会学校を支えることができますよう覚えていただけると感謝です。

※バックナンバーを御希望の方は下記までご連絡ください。

長野佐久伝道所 牧野信成

〒385-0051

長野県佐久市中込3-9-1

Tel & Fax : 0267-62-2409

E - mail : rcjnaganosaku@gmail.com

執筆者一覧

まえがき

橋谷英典 (関キリスト教会牧師)

巻頭説教

久保浩文 (松山教会牧師)

教会学校教師のための説教準備ガイドⅣ

牧野信成 (長野佐久伝道所宣教教師)

長老の持つべき資質・モラル&常識 (2)

豊川修司 (東部中会引退教師)

障がいある子どもたちに注がれる主の愛(1)

小澤路華 (高知教会)

教育の現場から

徳丸明子 (熊本伝道所)

教会学校訪問

松田基教 (多治見教会牧師)

いつの時代も変わりなく

吉田隆 (甲子園伝道所宣教教師)

半強制的にデジタル時代へ

大西良嗣 (宝塚教会牧師)

コロナ禍を体験して

小宮山裕一 (綱島教会)

イラスト作画

表紙 中村未生 (春日井教会・IBUKI)

高橋乃亜 (湘南恩寵教会・IBUKI)

聖句カード

岡野美佳 (青葉台キリスト教会)

聖書黙想・説教展開例

大宮季三 (芸陽教会牧師)

小澤寿輔 (高知教会牧師)

柏木貴志 (岡山教会牧師)

久保田証一 (尾張旭教会牧師)

高内信嗣 (山田教会牧師)

小橋口貴人 (那加教会牧師)

後登雅博 (高蔵寺教会牧師)

佐野直史 (銚子栄光教会牧師)

常石召一 (大阪教会牧師)

袴田清子 (灘教会)

長谷部真 (堺みくに教会牧師)

三川共基 (松戸小金原教会牧師)

三輪 誠 (浜松伝道所宣教教師)

分級展開例

小川 洋 (高松教会牧師)

長田詠喜 (新所沢教会牧師)

相馬伸郎 (名古屋岩の上教会牧師)

西堀 元 (熊本伝道所宣教教師)

牧野信成 (長野佐久伝道所宣教教師)

編集部

相馬伸郎 (長)

名古屋岩の上教会牧師

牧野信成

長野佐久伝道所宣教教師

長田詠喜

新所沢教会牧師

西堀 元

熊本伝道所宣教教師

小川 洋

高松教会牧師

日本キリスト改革派 大会教育委員会 『教会学校教案誌』 第80号

2021年1・2・3月号 (季刊)

2020年12月1日発行

発行

日本キリスト改革派教会 大会教育委員会

発行所

日本キリスト改革派教会 大会教育委員会

名古屋岩の上教会 牧師 相馬伸郎

〒458-0021 愛知県名古屋市緑区滝の水2-2012

Tel/Fax 052-895-6701

郵便振替口座

00190-4-451670 「日本キリスト改革派教会大会教育委員会」

編集・印刷 株式会社あるむ

頒価 900円 (本体価格)

Reformed Church in Japan
Board of Education

